

平成 27 年 度
富良野市教育行政評価報告書

教育委員会事務事業点検・評価
学 校 第 三 者 評 価

平成 28 年 8 月

富 良 野 市 教 育 委 員 会

目 次

I	点検・評価の概要	
1、	教育委員会事務事業点検・評価	1
2、	学校評価	1
3、	点検・評価の手法及び公表	1
II	教育委員会の活動点検・評価	
1、	教育委員会の活動の一覧	5
2、	教育委員会議	11
3、	教育委員会活動の評価	11
III	平成 27 年度教育委員会事務事業点検・評価	
○	事務事業点検・評価結果一覧	13
○	教育委員会行政組織図	15
○	学校教育課所管事務事業点検評価シート	16
○	社会教育課所管事務事業点検評価シート	34
○	生涯学習センター所管事務事業点検評価シート	57
○	図書館所管事務事業点検評価シート	63
○	富良野学校給食センター所管事務事業点検評価シート	67
IV	平成 27 年度学校第三者評価	73
V	教育行政評価委員会の開催について	
1、	教育行政評価委員会	83
2、	教育行政評価委員会における意見	84
資料 1	富良野市教育行政評価委員会設置要綱	87
資料 2	教育行政評価委員名簿	88
資料 3	地方教育行政の組織及び運営に関する法律	88
資料 4	平成 27 年度 教育行政執行方針	89
資料 5	平成 27 年度 学校教育 重点事項	94

I 点検・評価の概要

1、教育委員会事務事業点検・評価

富良野市教育委員会では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）の第 26 条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進と行政評価の透明性を図り市民への説明責任を果たすことを目的として、平成 20 年度分の事務事業から点検・評価を実施しています。

今年度も、平成 27 年度の教育に関する事務の管理及び執行状況として 56 事業に対する点検・評価を実施しました。

2、学校評価

学校評価については、平成 19 年 6 月に学校教育法、同年 10 月に学校教育法施行規則の一部改正が行われ、学校自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者（市教育委員会）への報告が義務化されました。これを受け、富良野市教育委員会では平成 19 年度から試行的に学校評価に取り組み、平成 20 年度から本格実施をしています。

学校第三者評価については、平成 20 年に文部科学省より示された「学校評価ガイドライン」に基づき、当事者や関係者ではなく「学識経験のある知見を有する第三者」による学校評価を行うため、平成 27 年度評価においては評価項目 16 項目、25 観点について教育行政評価委員会において実施しました。

3、点検・評価の手法及び公表

1) 教育委員会事務事業点検・評価報告

平成 27 年度に実施した教育委員会の主な事務事業の実績を「事務事業点検評価シート」にまとめ、それぞれの目標に照らし合わせた成果を基に必要性・有効性・効果性などを各分野別において点検し、今後の課題や改善策をまとめ、担当課により次の基準で達成度・効果度の評価を行い、その結果を教育行政評価委員会におい

て説明し、各委員より意見をいただきました。

①達成度の評価

事業の進捗状況として、当該年度において事業がどの程度まで実施できたのかを評価する。

<評価基準>

- A：実践が進み成果を上げている。
- B：実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。
- C：実践に努めているが、達成度は低いと判断される。
- D：ほとんど（全く）実践されず、努力を要する。

②効果度の評価

事業の実践により、当該年度に得られた効果がどの程度なのかを評価する。

<評価基準>

- A：期待どおりの効果が得られたと判断される。
- B：やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。
- C：期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。
- D：期待した効果がほとんど（全く）得られなかったと判断される。

2) 学校第三者評価

学校第三者評価は、学校が自ら学校運営を改善し、その教育水準の向上を図るとともに、保護者や地域住民等の理解と参画を得て学校づくりを進めていくため、自己評価や学校関係者評価に加えて実施するもので、単に学校に点数を付けたり、格付けしたり、監視したり、教諭を評価するための仕組みではなく、より良い「開かれた学校」をめざして行っています。

評価の方法は、「学校評価ガイドライン」で示されている評価項目を重点化し、平成 23 年度に富良野市学校教育指導委員会より答申のあった 16 項目 25 観点について各学校で自己評価をし、これを受けて、教育行政評価委員が「学校自己評価」や「学校関係者評価」を参考に、学校訪問並びに学校関係者との意見交換を実施いたしました。

3) 公表

公表は議会、市広報紙・市ホームページに掲載するとともに、市の主な公共施設でも報告書を閲覧できるようにいたします。

4) 評価結果

平成 27 年度の事務事業点検・評価の結果について、評価基準 A～D の 4 段階で集計を行いました。

◎事務事業評価

第 1 表 事務事業評価【達成度】

	A	B	C	D	計
件 数	2 9	2 7	0	0	56 事業
構成比 (%)	5 1 . 8	4 8 . 2	0	0	100%

評価基準 A : 実践が進み成果を上げている。

B : 実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。

C : 実践に努めているが、達成度は低いと判断される。

D : ほとんど（全く）実践されず、努力を要する。

第 2 表 事務事業評価【効果度】

	A	B	C	D	計
件 数	4 4	1 2	0	0	56 事業
構成比 (%)	7 8 . 6	2 1 . 4	0	0	100%

評価基準 A : 期待どおりの効果が得られたと判断される。

B : やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。

C : 期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。

D : 期待した効果がほとんど（全く）得られなかったと判断される。



第1回評価委員会議(5/26)

東小学校訪問(6/30)



鳥沼小学校訪問(6/30)

校長会会長・副会長との意見交換
(7/12)



Ⅱ 教育委員会の活動点検・評価

平成 27 年度の教育委員会の活動点検・評価については、「教育委員会会議」「学校訪問」などの項目に分け、教育委員会独自による点検を行いました。

1、教育委員会の活動の一覧

教育委員会会議については、偶数月に定例会を、必要に応じ臨時会を開催しました。また、毎月 1 回教育委員協議会を開催し、教育に関する様々な案件について協議しました。定例会については、開催予定や傍聴、報道機関への案内をするとともに、市ホームページに会議の内容等を掲載しています。

以下、平成 27 年度の教育委員会会議開催状況等を示し、それぞれの活動内容について報告します。

1) 平成 27 年度教育委員会会議実施状況

(1) 開催回数

定例会：6 回（原則として偶数月）

臨時会：6 回（随時）

委員協議会：12 回（原則として毎月）

(2) 付議件数

内 容	件 数
条例、規則等に関する事	1 8
議会の議決を経るべき議案に関する事	3
人事に関する事	1
委員の委嘱等に関する事	1 3
その他	1 2
計	4 7

2) 教育委員会議の開催状況

回	開催日	開 催 内 容
第 2 回 定例会	4 月 22 日	(1) 富良野市立学校施設利用条例施行規則の一部改正について (2) 学校開放主事及び学校開放管理指導員の委嘱について (3) 富良野市特別支援連携協議会委員の委嘱について (4) 富良野市教育行政評価委員の委嘱について (5) 富良野市学校教育指導委員会委員の委嘱について

第4回臨時会	5月26日	(1) 富良野市育英基金育英生について (2) 富良野市いじめ問題審議会委員の委嘱について (3) 富良野市青少年補導センター補導員の委嘱について (4) 富良野市学社融合推進委員の委嘱について (5) 富良野演劇工場運営委員会委員の委嘱について (6) 富良野市教育委員会委員長の選挙について (7) 富良野市教育委員会委員長職務代理者の指定について
第3回定例会	6月25日	議題なし
第5回臨時会	7月23日	(1) 富良野市教育委員会事務局組織規則の一部改正について
第4回定例会	8月26日	(1) 平成28年度使用する教科用図書の採択について (2) 平成26年度富良野市教育行政評価報告について
第6回臨時会	9月25日	(1) 平成27年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について (2) 平成27年度就学時健康診断員の委嘱について
第5回定例会	10月26日	(1) 平成27年度全国学力・学習状況調査結果の公表について (2) 平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について (3) 富良野市青少年表彰規則に基づく平成27年度表彰者について
第6回定例会	12月18日	(1) 富良野演劇工場運営委員会委員の委嘱について
第1回臨時会	1月15日	(1) 富良野市公民館設置条例の一部改正について (2) 富良野文化会館設置条例の一部改正について (3) 富良野市演劇工場設置条例の一部改正について (4) 富良野市立学校施設利用条例の一部改正について (5) 富良野スポーツセンター条例の一部改正について (6) 富良野市屋外スポーツ施設設置条例の一部改正について (7) 富良野市スポーツ振興基金条例の一部改正について (8) 富良野市文化振興基金条例の一部改正について
第1回定例会	2月9日	(1) 平成28年富良野市教育行政執行方針について (2) 富良野市育英基金条例の一部改正について (3) 富良野市立学校職員の自家用車の公用使用に関する規則の一部改正について (4) 富良野市立小中学校通学区域規則の一部改正について (5) 富良野市第7次社会教育中期計画の策定について (6) 平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の

		公表について (7)平成 28 年度新入学児童生徒区域外通学申請に対する許可・却下決定報告及び区域外通学許可申請却下通知に対する異議申し立て審議について
第 2 回 臨時会	3 月 8 日	(1)教育委員会の権限に属する事務の補助執行にかかる協議について (2)教職員人事の内申について
第 3 回 臨時会	3 月 28 日	(1)富良野市教育委員会事務局組織規則等の一部改正等について (2)富良野市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の制定について (3)富良野市育英基金規則の一部改正について (4)市立富良野図書館設置条例施行規則の一部改正について (5)富良野市芸術文化体験施設設置要綱の廃止について (6)平成 28 年度富良野市社会教育推進計画の策定について (7)平成 28 年度富良野市スクールカウンセラーの委嘱について (8)平成 28 年度富良野市子どもと親の相談員の委嘱について (9)平成 28 年度富良野市学校医等の委嘱について

3) 教育委員会委員協議会の開催状況

回	開催日	開催内容
第 5 回 協議会	4 月 22 日	協議(1)富良野市立学校施設利用条例施行規則の一部改正について 協議(2)学校開放主事及び学校開放管理指導員の委嘱について 協議(3)富良野市特別支援連携協議会委員の委嘱について 協議(4)富良野市教育行政評価委員の委嘱について 協議(5)富良野市学校教育指導委員会委員の委嘱について 報告(1)平成 27 年度富良野市教育委員会重点事項について 報告(2)平成 27 年度学校編成及び学校教職員名簿について 報告(3)平成 27 年度区域外通学許可状況について 報告(4)富良野市総合教育会議の開催について 報告(5)「2015 年版図書館要覧」の発行について 報告(6)平成 27 年度富良野市小中学校の主な行事予定について 報告(7)運動会（体育祭）の教育委員訪問について
第 6 回 協議会	5 月 26 日	協議(1)富良野市育英基金育英生について 協議(2)富良野市いじめ問題審議会委員の委嘱について 協議(3)富良野市青少年補導センター補導員の委嘱について 協議(4)富良野市学社融合推進委員の委嘱について 協議(5)富良野演劇工場運営委員会委員の委嘱について 協議(6)富良野市教育委員会委員長の選挙について

Ⅱ 教育委員会の活動点検・評価

		協議(7)富良野市教育委員会委員長職務代理者の指定について
第7回 協議会	6月 25日	報告(1)富良野市議会第2回定例会について 報告(2)東小学校屋外運動場等整備工事について 報告(3)富良野地区中体連について
第8回 協議会	7月 23日	協議(1)富良野市教育委員会事務局組織規則の一部改正について 報告(1)市長権限に属する事務委任の協議及び児童センター・学 童保育センターの所管変更について 報告(2)平成27年度少年野球国際交流事業の中止について 報告(3)いじめアンケート調査の結果について 報告(4)富良野地区中体連・上川代表決定戦の結果について
第9回 協議会	8月 26日	協議(1)平成28年度使用する教科用図書の採択について 協議(2)平成26年度富良野市教育行政評価報告について 報告(1)寄附申込みについて 報告(2)新外国語指導助手の着任について 報告(3)中体連、中文連等 全道・全国大会の結果について
第10回 協議会	9月 25日	協議(1)平成27年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告 書」への市町村別結果の掲載について 協議(2)平成27年度就学時健康診断員の委嘱について 報告(1)平成27年富良野市議会第3回定例会について 報告(2)平成27年度地方教育行政功労者表彰の受賞決定について 報告(3)「市長と語ろう!地域懇談会」の開催について
第11回 協議会	10月 26日	協議(1)平成27年度全国学力・学習状況調査結果の公表について 協議(2)平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海 道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について 協議(3)富良野市青少年表彰規則に基づく平成27年度表彰者について
第12回協 議会	11月 23日	報告(1)富良野市いじめ防止メッセージコンクールの審査結果について 報告(2)過去10年間に杭打ち工事をした学校施設について
第13回 協議会	12月 18日	協議(1)富良野演劇工場運営委員会委員の委嘱について 報告(1)富良野市議会第4回定例会について 報告(2)第13回ふらの演劇祭事業報告について 報告(3)第9回富良野市子ども未来づくりフォーラム事業報告について 報告(4)2015図書館まつり事業報告について
第1回 協議会	1月 15日	協議(1)富良野市公民館設置条例の一部改正について 協議(2)富良野文化会館設置条例の一部改正について 協議(3)富良野市演劇工場設置条例の一部改正について 協議(4)富良野市立学校施設利用条例の一部改正について 協議(5)富良野スポーツセンター条例の一部改正について

		協議(6)富良野市屋外スポーツ施設設置条例の一部改正について 協議(7)富良野市スポーツ振興基金条例の一部改正について 協議(8)富良野市文化振興基金条例の一部改正について
第2回協議会	2月9日	協議(1)平成28年富良野市教育行政執行方針について 協議(2)富良野市育英基金条例の一部改正について 協議(3)富良野市立学校職員の自家用車の公用使用に関する規則の一部改正について 協議(4)富良野市立小中学校通学区域規則の一部改正について 協議(5)富良野市第7次社会教育中期計画の策定について 協議(6)平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の公表について 協議(7)平成28年度新入学児童生徒区域外通学申請に対する許可・却下決定報告及び区域外通学許可申請却下通知に対する異議申し立て審議について 報告(1)富良野市学童保育センター設置条例の一部改正について 報告(2)イングリッシュキャンプ実施報告について 報告(3)小中学校卒業式について 報告(4)文化・スポーツ行政の市長部局への移管について
第3回協議会	3月28日	協議(1)富良野市教育委員会事務局組織規則等の一部改正等について 協議(2)富良野市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の制定について 協議(3)富良野市育英基金規則の一部改正について 協議(4)市立富良野図書館設置条例施行規則の一部改正について 協議(5)富良野市芸術文化体験施設設置要綱の廃止について 協議(6)平成28年度富良野市社会教育推進計画の策定について 協議(7)平成28年度富良野市スクールカウンセラーの委嘱について 協議(8)平成28年度富良野市子どもと親の相談員の委嘱について 協議(9)平成28年度富良野市学校医等の委嘱について 報告(1)平成28年第1回富良野市議会定例会について

4) 学校訪問・各種行事・会議・研修会等への参加

実施月日	行 事 内 容	開催場所
4月2日 4月8日 4月22日	・教職員着任式 ・着任校長、教頭歓迎会 ・平成27年度上川管内教育委員会連合会総会及び第1回委員研修会	文化会館 ワインハウス 上川合同庁舎
5月14日 5月26日	・平成27年第1回富良野市議会臨時会 ・教育委員学校訪問(富良野小・扇山小)	市役所議事堂 各小学校

Ⅱ 教育委員会の活動点検・評価

5月26日 5月27日 5月下旬～	・平成27年度第1回富良野市総合教育会議 ・平成27年度少年の主張大会 ・各小中学校運動会(5月下旬～6月上旬)	市役所 文化会館 各小中学校
6月15日 6月15日 6月12～ 26日 6月25日	・富良野市戦公没者追悼式 ・平成27年度富良野市音楽大行進 ・平成27年第2回富良野市議会定例会 ・教育委員学校訪問(布部小中・麓郷小中・布礼別小・鳥沼小・富良野西中)	朝日ヶ丘公園 市街地 市役所議事堂 各小中学校
7月3日 7月23日	・社会を明るくする運動街頭啓発集会 ・教育委員学校訪問(樹海小・樹海中・山部小・山部中・富良野東中)	フラノマルシェ2 各小中学校
8月25～ 26日	・平成27年度北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会	苫小牧市
9月中旬～ 9月7～ 18日 9月25日 9月30日	・各小中学校学芸会、学校祭(9月中旬～11月上旬) ・平成27年第3回富良野市議会定例会 ・教育委員学校訪問(東小) ・富良野市内小中学校音楽発表会	各小中学校 市役所議事堂 東小学校 文化会館
10月13日	・いじめ防止講演会	文化会館
11月3日 11月3日 11月5～ 6日 11月14日 11月23日 11月25日	・富良野市条例表彰式 ・富良野市文化団体協議会表彰式 ・平成27年度上川管内教育委員連合会第2回委員研修会 ・鳥沼地区開基120周年・鳥沼小学校開校110周年記念式典 ・平成27年度富良野市青少年表彰式 ・第9回富良野市子ども未来づくりフォーラム	市役所 文化会館 東神楽町 鳥沼小学校 文化会館 文化会館
12月7～ 18日	・平成27年第4回富良野市議会定例会	市役所議事堂
1月6日 1月8日 1月8日 1月10日 1月15日 1月22日	・平成28年富良野市新年交礼会 ・平成28年山部地区新年交礼会 ・平成28年東山地区新年交礼会 ・平成28年富良野市成人式 ・平成28年富良野市新春教育懇話会 ・平成27年度富良野市PTA連合会新年懇親会	文化会館 山部福祉センター 東山公民館 文化会館 ハイランドふらの ハイランドふらの
2月9日 2月15日	・上川南部教育委員会教育委員研修会 ・平成27年度第2回富良野市総合教育会議	富良野市 市役所
3月1～ 18日 3月中旬 3月28日	・平成28年第1回富良野市議会定例会 ・各小中学校卒業式 ・校長、教頭惜別式	市役所議事堂 各小中学校 ハイランドふらの

2、教育委員会議

次に掲げる事項が、教育委員会議において議決が必要な事項で、それ以外の権限に属する事務は教育長に委任されている。

- (1) 教育行政の運営に関する一般方針を決定すること。
- (2) 学校その他教育機関の設置及び廃止すること。
- (3) 教育委員会規則及び規程を制定し、又は改廃すること。
- (4) 請願、陳情等の処理に関すること。
- (5) 1件300万円以上の教育財産の取得及び処分を市長に申し出ること。
- (6) 1件300万円以上の工事の計画を策定すること。
- (7) 学校その他教育機関の敷地の選定及び変更を決定すること。
- (8) 道費負担教職員の懲戒及び道費負担教職員たる校長、教頭の任免その他の進退について内申すること。
- (9) 道費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること。
- (10) 人事の一般方針を定め及び懲戒を行うこと。
- (11) 教育部長、課長、館長、主幹、館長の任免を行うこと。
- (12) 法令、条例、規則に定める委員の任命又は委嘱すること。
- (13) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について市長に意見を申し出ること。
- (14) 通学区域を設定し、又はこれを変更すること。
- (15) 富良野市育英基金条例による貸与、若しくは給付対象者を決定すること。
- (16) 校長、教頭、教員その他の教育関係職員の研修の一般方針を定めること。
- (17) 長の補助機関たる職員、若しくは長の管理に属する行政機関の長に教育委員会の権限に属する事務の一部を委任し、又は補助執行させること。
- (18) 市文化財を指定し、又は指定を解除すること。
- (19) 児童生徒の出席停止に関すること。

3、教育委員会議の評価

1) 議事について

条例や規則の改正、各種委員の委嘱等、事務的な手続きによるもの以外については、各委員の高い識見と課題解決に向けた積極的な発言が多くありました。また、各委員への報告や事前相談・協議、情報提供等により、円滑な会議運営がなされました。

なお、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律

が平成 27 年 4 月 1 日から施行されましたが、執行機関としての教育委員会の位置付は維持されており、公立小中学校の管理、教職員の人事その他の教育委員会の所掌に係る事務は、引き続き教育委員会の合議に基づいて執行されることとなっております。このため、教育の政治的中立性、継続性・安定性の確保、教育行政への多様な民意の反映、教育長及び事務局が執行する事務の評価・監視という教育委員会の役割の重要性に変更はありません。

2) 学校訪問について

教育委員と事務局職員により市内 15 校の小中学校を全て訪問し、校長・教頭からの説明及び児童生徒の学習の様子を見学し、子ども達の学びの様子や学校の概要、運営方針、施設、教育環境、授業等さまざまな視点から、学校現場の実態把握と総合的な観点から学校の運営状況についての把握に努めています。

3) 各種市内行事、会議、研修会等への参加

各学校の運動会・体育祭・学芸会・学校祭・卒業式などの学校行事には、各委員が教育委員会を代表して出席をし、教育委員会が主管する教職員着任式、音楽大行進、青少年表彰式、成人式等の行事や式、会議に出席しました。さらに、全道、管内、富良野沿線の教育委員研修会にも積極的に参加し、教育に関する情報収集や教育行政の諸課題についての理解を深め、地域の実情や特性に応じた特色ある教育行政の推進に向けて研鑽を図りました。

4) 広報活動

定例会・臨時会の審議内容については、市のホームページで公開しています。教育委員会や学校で取り組んでいる状況について、市民の一層の理解と協力を得るために、今後も引き続き広報紙やホームページなどをはじめ、新聞・ラジオ等のメディアの活用を進め、開かれた教育行政、効果的な教育行政の推進を図りました。

Ⅲ 平成27年度教育委員会事務事業点検・評価

◎事務事業点検・評価結果一覧

所管課	評価項目		細項目		27年度評価		備考
					達成度	効果度	
学校教育課	1	市立小中学校配置計画	1	・適正規模適正配置に関する指針	A	A	
	2	学校施設整備	2	・東小学校屋外運動場整備事業	A	A	新規評価項目
	3	全国学力・学習状況調査	3	・全国学力・学習状況調査	A	A	
	4	全国体力・運動能力等調査	4	・全国体力・運動能力、運動習慣等調査	A	A	
	5	心の教育	5	・適応指導教室事業	A	A	
			6	・スクールカウンセラー活用事業	B	A	
			7	・子どもと親の相談員活用事業	B	A	
			8	・心に響く道徳教育事業	A	A	
	6	いじめZERO推進	9	・富良野市いじめ問題対策連絡協議会	A	A	
	7	特別支援教育	10	・特別支援教育支援員配置事業	B	A	
			11	・特別支援連携協議会推進事業	B	A	
	8	キャリア教育	12	・富良野市キャリア教育推進会議	B	B	
	9	食育	13	・食育推進事業	A	A	
	10	情報教育	14	・ICT利活用事業	B	A	
	11	国際理解教育	15	・外国語指導助手招致事業	A	A	
社会教育課	12	健康診断事業	16	・児童生徒、教職員健康診断実施事業	A	A	
	13	小中学校歯科衛生	17	・フッ化物洗口事業	A	A	
	14	高校教育	18	・高校教育の推進	A	A	
	15	家庭教育	19	・家庭教育支援事業	B	A	
			20	・親と子のふれあい事業	B	A	
	16	生涯学習の基盤整備	21	・コミュニケーション教育推進事業	A	A	
	17	青少年教育	22	・子ども未来づくり事業（未来づくりフォーラム）	A	A	
			23	・子ども会育成事業	B	A	
			24	・青少年表彰事業	B	B	
			25	・青少年補導センター運営事業	B	A	
			26	・放課後子ども教室推進事業	B	A	
			27	・学社融合推進事業	A	A	
			28	・青年活動活性化事業（青年塾）	B	B	
	18	成人教育	29	・ふらの市民講座事業	B	B	
	19	高齢者教育	30	・ことぶき大学運営事業	B	B	
	20	芸術文化	31	・富良野芸術文化事業協会事業	B	A	
			32	・子ども芸術鑑賞教室事業	B	B	
			33	・市民総合文化祭事業	B	B	
			34	・ふらの演劇祭事業	B	A	
			35	・舞台塾ふらの事業	B	A	

所管課	評 価 項 目		細 項 目		27年度評価		備 考
					達成度	効果度	
社会教育課	21	スポーツ振興	36	・スポーツ環境の整備	B	B	
			37	・人材及び団体育成	B	A	
			38	・スポーツ施設の整備及び管理運営	B	A	
			39	・競技スポーツの育成	A	A	
			40	・アスリート育成派遣事業	A	A	
			41	・子どもスキー技術向上支援事業	A	A	
生涯学習課	22	文化財保護	42	・文化財保護啓蒙・普及活動	B	B	
			43	・歴史的建造物魅力再発見事業	A	A	
	23	博物館	44	・博物館活動推進事業	A	A	
			45	・自然体験・環境学習事業	A	A	
	24	文化振興	46	・山部菊の会補助金	B	B	
	25	森林環境教育	47	・森林学習プログラム推進事業	B	B	新規評価項目
図書館	26	図書館	48	・図書館運営管理事業	A	A	
			49	・図書資料整備事業	A	A	
			50	・読書活動推進事業	A	A	
			51	・子どもの読書推進事業	A	A	
富良野学校給食センター	27	富良野学校給食センター	52	・安全安心な学校給食の提供	A	A	
			53	・「富良野ふるさと給食」の実施	A	A	
			54	・食に関する指導の推進	A	A	
			55	・学校給食費の徴収	A	A	
			56	・食物アレルギーの対応	B	B	新規評価項目
評価結果：集計				A（実践が進み成果を上げている）	29	44	
				B（実践が進んでいる）	27	12	
				C（実践に努めている）	0	0	
				D（努力を要する）	0	0	
				計	56	56	

①達成度の評価基準

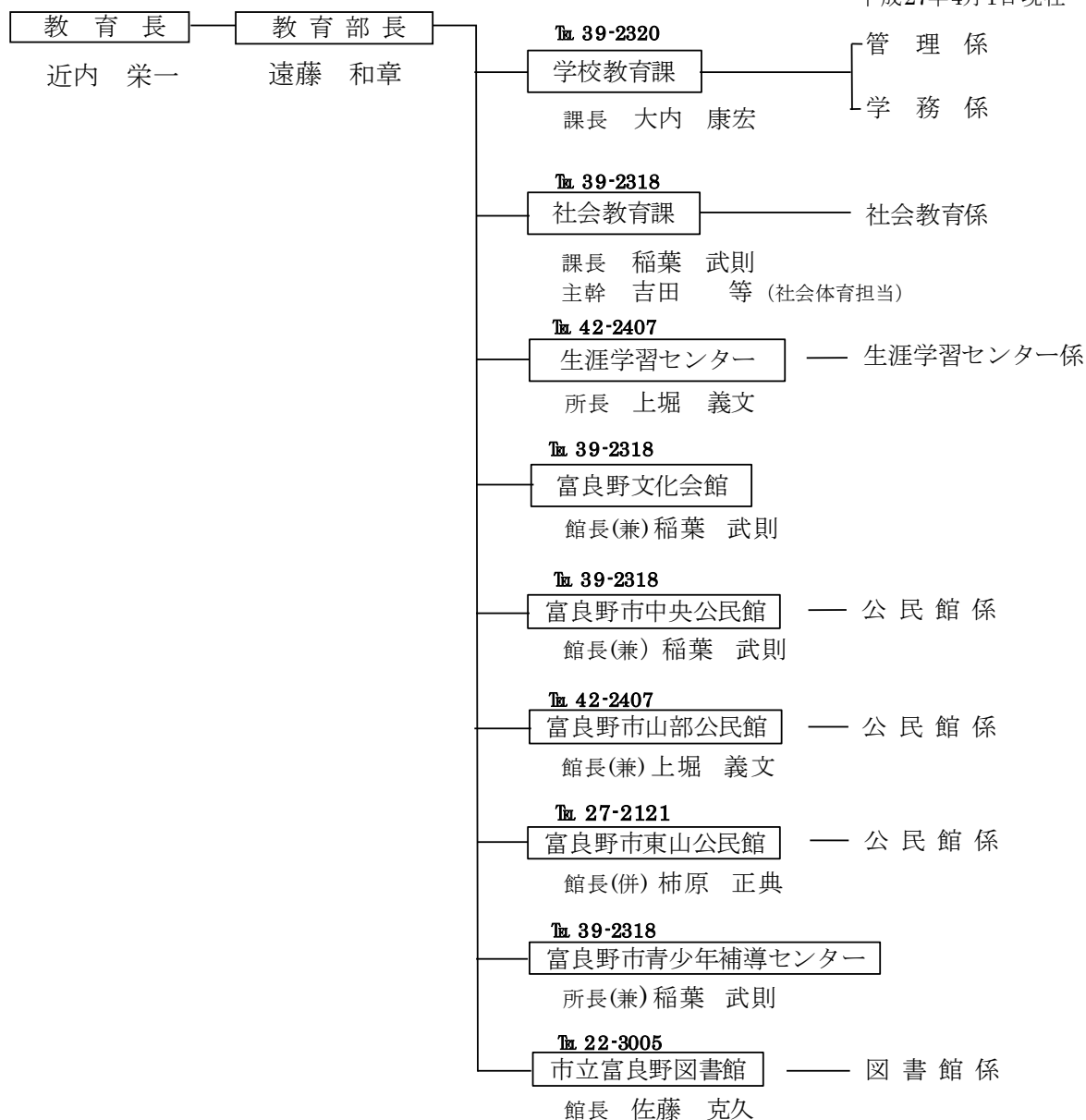
- A：実践が進み成果を上げている。
 B：実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。
 C：実践に努めているが、達成度は低いと判断される。
 D：ほとんど（全く）実践されず、努力を要する。

②効果度の評価基準

- A：期待どおりの効果が得られたと判断される。
 B：やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。
 C：期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。
 D：期待した効果がほとんど（全く）得られなかったと判断される。

富良野市教育委員会行政組織図

平成27年4月1日現在



富良野広域連合教育委員会行政組織図

平成27年4月1日現在



平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	市立小中学校配置計画	担当課	学校教育課				
事務事業名	適正規模適正配置に関する指針						
事業の 目的・概要	少子化による児童生徒数の減少が進む中、子ども達にとって教育の機会均等の観点から十分な教育効果が得られ、又、公平性を保ちながら次代を担う子ども達が常に良好な教育環境を確保していくための方向性を示す。	事業年度	開 始		終 了		
			初回平成17～19年度 平成21年度		継 続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
			—	—	—	—	
前年度の 課 題	○今後の学校の在り方については、単Pや地域との意見交換を重ねながら方向性を協議する必要がある。						
当該年度の 目 標	○少子化による児童生徒数の減少から、学校の配置計画や規模の適正化などが課題となり、集団活動を通して社会性、協調性、自立性などを培う教育環境を考慮しながら方向性を整える。						
事業の 実施状況	平成22年度に市PTA連合会より提案された「今後の市内小中学校における教育環境整備の在り方」を受け、市の財政状況を見据えながら市内6校（富小・東小・東中・山部中・樹海小・樹海中）を順次計画的に検討、整備することとした。 山部中学校及び樹海中学校以外は、平成26年度までに耐震化工事を完了し、両校については、市教育委員会より単Pに対し今後の児生徒数の推移を示しながら、学校の在り方を協議していただいている。協議の結果に基づいて、教育環境をどう確保していくかの方向性をPTA、地域の意向を十分に踏まえ検討する。						
評 価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取 組 み	今 後 の 課 題						
	○今後の学校の在り方については、単Pや地域との意見交換を重ねながら方向性を協議する必要がある。						
	改 善 策						
	○今後の児童生徒数の推移やPTA、地域の意向を十分に踏まえ、文部科学省から平成27年1月に示された公立小中学校の統廃合についての手引の改訂版を参考に、「市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する指針」の見直しを行う。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	学校施設整備	担当課	学校教育課				
事務事業名	東小学校屋外運動場整備事業（校舎・屋内運動場改築関連事業）						
事業の 目的・概要	校舎・屋内運動場改築が平成26年7月完成したが、建物の配置が大きく変わったことと改築工事によりグラウンドが荒れたため、グラウンド整備及び前庭の整備を行う。	事業年度	開 始		終 了		
			平成24年度		平成27年度		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
—	31,982		901,383	847,707	74,661		
前年度の 課 題	【新規点検・評価事業】						
当該年度の 目 標	○建物の配置変更に伴うグラウンド等の整備						
事業の 実施状況	○グラウンド等整備を実施（平成27年10月完了） ○グラウンドの主な整備内容 ・暗渠の整備、素掘り側溝の整備（暗渠排水用） ・既存土のすき取り（t=20cm）、客土（火山灰 t=20cm+グラウンド用黒土t=10cm） ・防球フェンス、格子フェンス、物置（体育器具保管用）、水飲み場設置 ・樹木の伐採、抜根、剪定 ○前庭の主な整備内容 ・路盤改良、アスファルト舗装 ・学校農園、来客用駐車場の整備 ・国旗掲揚塔、外灯の設置 ・垣根、緑地の設置 ○国庫補助 学校施設環境改善交付金 10,100千円（平成27年度分(設計含む)）						
評 価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	—	校舎・屋体改築事業			A	
		A	A	A			
	効果度	—	校舎・屋体改築事業			A	
		A	A	A			
今後 の 取 組 み	今 後 の 課 題						
	平成27年度完了						
	改 善 策						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	全国学力・学習状況調査	担当課	学校教育課				
事務事業名	全国学力・学習状況調査						
事業の 目的・概要	義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、その学習改善を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成19年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
国費	国費		国費	国費	国費		
前年度の 課題	○確かな学力向上をめざして、学習改善プランの実施とともに、授業改善及び授業公開と家庭学習を含め望ましい生活習慣の定着を図る必要がある。 ○富良野市PTA連合会・富良野市校長会・富良野市教育委員会の3者で構成する富良野市学力向上推進プロジェクトが調査結果を分析し作成した、「富良野市における調査結果の概要」を基に取組を行う。						
当該年度の 目標	○児童生徒の学力の向上と状況調査						
事業の 実施状況	○実施日 平成27年4月21日(火) ○調査対象及び調査された人数 小学6年生:176名 中学3年生:202名 ○実施教科 国語、算数・数学、理科 【27年度調査結果の概要】 学力調査の結果は、小学校では、国語・算数・理科のすべての科目で全国平均正答率を上回り、特に、国語の「活用」に関する問題において高い正答率である。 中学校では、理科・数学の「知識」に関する問題において高い正答率となり全国平均正答率を上回り、国語の「知識」・数学の「活用」に関する問題において、全国平均正答率と同等、国語の「活用」に関する問題は、全国平均正答率と同値の結果である。						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取組	達成度・効果度の検証						
	○言語活動を重視した授業、演劇を通じた表現活動等により、自己表現や協調性が培われてきている。 ○また、表現教育は、反復練習(学習)や集中力アップ等の効果が期待でき、学力向上・コミュニケーション能力向上につながっている。 ○学力向上に向けた放課後学習や長期休業中の学習を全小中学校で取り組んでいる。						
	今 後 の 課 題 ○確かな学力向上をめざして、学習改善プランの実施とともに、授業改善及び授業公開と家庭学習を含め望ましい生活習慣の定着を図る必要がある。 ○富良野市PTA連合会・富良野市校長会・富良野市教育委員会の3者で構成する富良野市学力向上推進プロジェクトが調査結果を分析し作成した、「富良野市における調査結果の概要」を基に取組を行う。						
今後 の 取組	改 善 策						
	○調査結果を詳細に把握・分析し、具体的な学習改善プランを明らかにし、学校評価と関連させながら、児童生徒の学力向上に取り組む。 ○指導方法工夫改善加配等による習熟度別指導や少人数指導等の導入、退職教員等外部人材活用事業による時間講師の配置によるチームティーチング等を導入し、児童生徒の学力向上に取り組む。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	全国体力・運動能力、運動習慣等調査	担当課	学校教育課				
事務事業名	全国体力・運動能力、運動習慣等調査						
事業の 目的・概要	子どもの体力が低下している状況を踏まえて、 国が全国的な子どもの体力状況を把握・分析する ことにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果 と課題を検討し、その改善を図ることを目的と する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成19年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23 国費	H24 国費	H25 国費	H26 国費	H27 国費
前年度の 課題	○各学校でも独自に体力調査をおこなっており継続した取り組みが行われていることから、引続き 体力向上の取組みを継続する必要がある。 ○調査結果のデータを把握・分析し、児童生徒一人一人の体力や運動習慣等の改善の取組を進める 必要がある。						
当該年度の 目標	○児童生徒の体力の向上と現状調査						
事業の 実施状況	○平成27年度は、4月から7月末の間に調査を実施 ・実施対象 小学校5年生：201名、中学校2年生：210名 ・実施種目 小学生：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン 50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ 中学生：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン 50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ 【27年度調結果の概要】 体力合計点では、小学校男子・中学校男女とも全道平均を上回り、中学校男子は、全国平均も上 回っている。しかし、小学校女子は、全道・全国平均を下回った。 児童・生徒への質問紙調査では、「スポーツが好き」と回答した率が小学校女子・中学校男子で全 国平均・全道平均を上回り、小学生男子・中学校女子は全国・全道平均を下回った。 また、「スポーツをすることが得意」と回答した率が、中学校男子では全国平均・全道平均を上 回り、小中学校女子は全国平均・全道平均を下回った。						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
達成度・効果度の検証							
○各学校・地域を挙げた体力づくりやスポーツ少年団活動、部活動が継続的に取り組まれており、各種大会でも優秀な成績を上げている。							
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○各学校でも独自に体力調査をおこなっており継続した取り組みが行われていることから、引き続 き体力向上の取組みを継続する必要がある。 ○調査結果のデータを把握・分析し、児童生徒一人一人の体力や運動習慣等の改善の取組を進める 必要がある。						
	改 善 策						
○小学校では少年団活動、中学校での部活動への積極的な加入を促し、家庭・学校・地域スポーツ 関係団体と連携しながら「知育・徳育・体育」の調和のとれた成長を促進する。 ○「早寝・早起き・朝ご飯、みんなそろって晩ごはん」運動の取組みによる食育を通じた体力向上 を図る。 ○新体力テストを全学年での実施をめざすとともに、体力向上に向けた具体的な数値目標を設定す る。							

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	適応指導教室事業						
事業の 目的・概要	○不登校及びその傾向にある市内の児童生徒に対し保護者、学校、関係機関等との連携のもと学校への復帰訓練と基本的な生活習慣の改善や豊かな情操・社会性の育成を図る。 ○不登校児童への支援及び不登校児童生徒を抱える家庭を支援するとともに、教育活動の充実を図る。 ○ひきこもりや不登校問題の解決をめざし、家庭や学校関係機関との連携強化に努める。 ☆焦らず、あきらめず、コミュニケーションを基本に推進	事業年度	開 始		終 了		
			平成15年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
	1,800	2,592	2,592	2,592	2,592		
前年度の 課題	○不登校の児童生徒に対し、在籍校との連携を図りながら適応指導教室に通級してもらい、学校へ復帰を目指すとともに、適応指導教室の意義を学校及び保護者に広く周知する必要がある。						
当該年度の 目標	○不登校及びその傾向にある市内の児童生徒に対し、学校への復帰訓練。						
事業の 実施状況	○不登校児童への支援・指導内容の充実。 ○不登校児童生徒を抱える家庭を支援するとともに、教育活動の充実を図った。 ○ひきこもりや不登校問題の解決をめざし、家庭や学校・関係機関との連携強化に努めた。 ○平成24年度からより専門性を持った個々の課題に対応できる人材(臨床心理士等)を指導員として採用し、きめ細やかな支援ができる体制を整えている。 ○中学3年生を対象とした受験対策特別授業を実施し、高校受験に対する支援を行った。 ○中学3年生は3名在籍し、全員が高校に進学する。						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○不登校の児童生徒に対し、在籍校との連携を図りながら適応指導教室に通級してもらい、学校への復帰を目指すとともに、適応指導教室の意義を学校及び保護者に広く周知する必要がある。						
	改 善 策						
	○周知の手段として「適応指導教室」での取組みなどを諸会議で報告し、活動内容のチラシなどを配布するとともに、気軽に教室を訪問してもらえるよう、学校等への周知に努める。 ○適応指導教室に通級している児童生徒が抱える問題の多くは、家庭などにも原因が起因していることから、児童生徒及び家庭に対する一貫した支援が必要であり、引き続き家庭、学校、関係機関及び家庭児童相談員との連携を図り取り組んでいく。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	スクールカウンセラー活用事業						
事業の目的・概要	生徒の不登校や問題行動等の対応に当たっては学校におけるカウンセリング等の機能充実を図ることが重要な課題となっている。このため、生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有する「スクールカウンセラー」を配置し、生徒への心のケアを図る。 ・生徒へのカウンセリング ・教職者、保護者に対する助言・援助	事業年度	開 始		終 了		
			平成17年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
			道費	道費	道費 一部市費 268	道費 一部市費 83	道費
前年度の課題	○各学校では教育相談の充実を図っているところではあるが、思春期の子どもたちの心の成長過程において、悩み、不安を抱えることが多く、相談件数が増加傾向にある。教職員や保護者に対し、さらなる適切な助言やきめ細やかな支援が必要である。 ○生徒や保護者にスクールカウンセラーについての理解を求めることが必要である。						
当該年度の目標	○生徒の不登校、いじめへの対応と心のケア。						
事業の実施状況	○生徒へのカウンセリング 延77件 ○教職員に対する助言・援助 延112件 ○保護者に対する助言・援助 延76件 ○H27年度実績 3校(富良野東中学校、富良野西中学校、樹海中学校) (道費)日数・時間 延べ97日 264時間 来談者 延べ265名 ※生徒、教員、保護者						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	達成度・効果度の検証						
	○カウンセリングにより不登校生徒の登校日数が増えているケースがある。また、学校で生徒・保護者・先生などがカウンセリングを受けたことにより、生徒の心のケア、保護者との相談業務の成果が上がっている。						
	今 後 の 課 題 ○各学校では教育相談の充実を図っているが、思春期の子どもたちが心の成長過程における悩みや不安を抱えることが多く、相談件数が増加傾向にある。引き続き教職員や保護者に対し、適切な助言やきめ細やかな支援が必要である。 ○生徒や保護者にスクールカウンセラーについての理解を求めることが必要である。						
今後取り組み	改 善 策						
	○スクールカウンセラー、学校、適応指導教室等との情報交換と連携を図り、相談事業の取り組みを積極的にPRし、気軽に相談を受けられる体制づくりを進めるとともに、小学校に対しては子どもと親の相談員の配置を継続する。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	子どもと親の相談員活用事業						
事業の 目的・概要	児童が悩みや不安を気軽に相談できる話し相手として、また、学校と保護者・地域のパイプ役として不登校や問題行動等の未然防止、早期発見、早期対応、児童虐待への対応及び小学校における教育相談体制の充実を図る。 ○相談員を小学校に配置 ①児童の話し相手・悩み相談 ②その他の学校の教育相談活動の支援	事業年度	開 始		終 了		
			平成16年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
	1,644	1,661	1,658	1,754	1,589		
前年度の 課題	○問題を抱えている児童や保護者が相談員と関わることのできないケースへの対応、よりきめ細やかな対応が必要である。 ○配置している学校以外においても要相談ケースが発生しており、個別の対応が必要である。						
当該年度の 目標	○いじめ・不登校などの未然防止や早期対応。						
事業の 実施状況	○子どもと親の相談員を小学校に配置（富良野小学校、扇山小学校、東小学校） ①児童の話し相手・悩み相談 ②家庭・地域と学校の連携の支援 ③その他の学校の教育相談活動の支援 ④中休み・昼休みを中心に来室 来室者 延べ180名（心の相談・学習相談・児童同士の相談など） ※児童、教員、保護者						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	A	A	A	A	
今後 の 取組	今 後 の 課 題 ○問題を抱えている児童や保護者が相談員と関わることのできないケースへの対応、よりきめ細やかな対応が必要である。 ○配置している学校以外においても要相談ケースが発生しており、個別の対応が必要である。						
	改 善 策						
	○来室児童が多いことは、潜在的なニーズがあると思われることから、担任とは違った側面から児童や保護者との相談の場として、専門的知識を有した者（臨床心理士等）を引き続き配置する。 ○配置校以外の学校においても、必要に応じて個別の対応を行う。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	心に響く道德教育事業						
事業の 目的・概要	自然体験や社会体験、生活体験の不足や人間関係の希薄さなどから規範意識や倫理観、生命を大切にし他人を思いやる心など、豊かな心を育む「心の教育」の充実に努めるため、地域の人材や多様な専門分野の社会人を外部講師として活用し、道德の時間等において子どもの心に響く授業を行い、道德教育の充実を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成19年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
	65	69	88	78	87		
前年度の 課題	○富良野にゆかりのある身近な人材、バラエティに富んだ講師の確保が求められる。						
当該年度の 目標	○命を大切にすることをはぐくむ教育を推進する観点から、児童生徒が命の尊さなどを実感できる道德教育の充実を図る。						
事業の 実施状況	○富良野ゆかりの講師による道德教育の実施 ・富良野商工会議所 会頭 荒木 毅 実施校1校 演題「職業観と人間の生き方」 ・富良野自然塾 副塾長 林原 博光 実施校1校 演題「環境教育と人間の生き方」 ・助産師 松本 恵子 実施校9校 演題「いのちの誕生と助産師の仕事」 ・北海道大学 農学研究院長 松井 博和 実施校2校 演題「地球の歴史と人間の生き方について」 本年度は松本助産師を新たに講師陣に加え、特に命の尊さについて学ぶ機会の充実を図った。						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○引き続き、富良野にゆかりのある身近な人材、バラエティに富んだ講師の確保が求められる。						
	改 善 策						
	○市内企業からも講師派遣について協力を願う。 ○27年度は新たな講師として助産師を講師陣に加え、9校で派遣依頼がある。このため、講師の選定方法等の検証を行いながら事業推進を図る。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	いじめZERO推進	担当課	学校教育課				
事務事業名	富良野市いじめ問題対策連絡協議会、富良野市いじめ問題審議会						
事業の 目的・概要	富良野市いじめZERO推進条例に基づき協議会と審議会を組織し、協議会はいじめの未然防止・早期発見・早期解消、その他いじめの対処を図るとともに不登校の防止・虐待防止・登下校時等の安全対策について学校やPTA・各関係機関・団体とのネットワーク化を図り、情報交換を行い迅速かつ的確に対応する。 審議会は第三者機関として、いじめに関する重大事態発生時に調査審議する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成26年度		—		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
	—	—	—	—	53		
前年度の 課題	○いじめアンケートの結果を検証し、児童生徒への働きかけや授業（総合的な学習）等で「いじめ問題」への理解や意識向上を図る。 ○いじめZEROに向けて講演会を開催し、地域全体で子どもを見守り、安心安全な学校・地域づくりが必要。						
当該年度の 目標	○いじめZEROに向けた取り組みと児童生徒へ「いじめは絶対にゆるされない」ことの意識向上を図る。						
事業の 実施状況	○市内19の関係機関・関係団体がいじめ問題対策連絡協議会を組織し、情報を共有する中で子どもたちの安全な生活環境の確保に努めている。 協議会～7月15日開催、審議会～11月19日開催 ○協議会構成団体 ・市校長会 ・市PTA連合会 ・富良野高等学校 ・富良野緑峰高等学校 ・富良野警察署 ・富良野保健所 ・富良野医師会 ・人権擁護委員 ・連合町内会協議会 ・家庭児童相談室 ・子ども会育成連絡協議会 ・要保護児童対策地域協議会 ・富良野地方石油業協同組合 ・生徒指導連絡協議会 ・エクウエート富良野 ・民生委員児童委員協議会 ・保健福祉部子ども未来課 ・社会教育委員会 ・富良野市教育委員会 ○いじめに関する講演会の開催 ・10月13日開催 68名参加 ・講師 臨床心理士 松田 剛 氏（市スクールカウンセラー） ○富良野市いじめ防止メッセージコンクール ・応募総数 601点（いじめ防止部門508点、ネットトラブル防止部門 93点）						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	—	—	—	A	A	
	効果度	—	—	—	A	A	
今後 の 取組	達成度・効果度の検証						
	○いじめに関する講演会を開催し、いじめに関する様々な内容について学習する良い機会となった。 ○いじめ防止メッセージコンクールを実施し、最優秀賞、優秀賞、奨励賞計19作品を決定した。						
	今後 の 課 題						
今後 の 取組	○いじめアンケートの結果を検証し、引き続き、児童生徒への働きかけや授業（総合的な学習）等で「いじめ問題」への理解や意識向上を図る必要がある。 ○いじめZEROに向けて講演会を開催し、地域全体で子どもを見守り、安心安全な学校・地域づくりを推進する必要がある。						
	改 善 策						
	○引き続き、講演会やいじめ防止メッセージコンクールを実施し、市民に対してもいじめ防止の周知を図る。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	特別支援教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	特別支援教育支援員配置事業						
事業の目的・概要	特別支援学級の児童生徒だけではなく、通常の学級に在籍する配慮・支援の必要がある児童生徒への教育的対応がより求められている。 このため、富良野市特別支援教育マスタープランに基づき、こうした児童生徒に対する学校生活の介助や学習活動の支援、安全確保などのサポートを行うため、特別支援教育支援員を配置する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成20年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
		10,498	13,355	15,492	18,349	21,284	
前年度の課題	○困り感を抱える児童生徒が増加傾向にある。さらなる就学予定児童の把握と教育相談を推進していくことが望まれるとともに、ニーズに応じた支援員の増員が必要。 ○増加し続ける対象児童生徒数に対する支援員の配置基準の検討。 ○各学校に配置している支援員と教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた指導が必要。 ○幼稚園、保育所、小学校、中学校、高校との一貫した連携と幼児児童生徒の実態に即した個別の支援計画の作成が必要。						
当該年度の目標	○障がいのある児童生徒のほか、LD(学習障がい)、ADHD(注意欠陥・多動性障がい)、高機能自閉症等を含めた児童生徒一人一人のニーズに応じた教育の推進 ○各学校において、支援員とコーディネーター、教員とが情報共有ができる体制の整備						
事業の実施状況	○配慮・支援が必要な児童生徒は増えてきており、一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行うための指導体制を進めている。 配置支援員 富良野小5名、扇山小5名、東小5名、山部小1名、鳥沼小1名、東中1名、西中1名の計19名(平成26年度 19名、平成25年度 14名) 対象児童生徒 324名(平成26年度 296名、平成25年度 264名) (H27年度通常学級に在籍する特別な教育支援が必要な児童生徒数の調査+特別支援学級児童生徒) 27年度は、日本語の話せない外国人児童(2名)への支援のため、一時的に在籍校に増員をした。(上記の人数には含めていない)。						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題 ○困り感を抱える児童生徒が年々増加しているなか、関係機関と連携を図り、早期からの教育相談等を推進していくことが大切である。 ○増加し続ける対象児童生徒のニーズに応じた支援員の配置や増員。 ○各学校に配置している支援員とコーディネーター、教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた支援・指導が必要。						
	改 善 策						
	○研修・講習会を行い、配慮・支援が必要な児童生徒への適切な支援を行えるよう、さらなるスキルアップに努める。 ○各学校で行われている支援の方法やコーディネーター、教員との情報共有の方法などを全校で共有する。 ○各学校が抱える課題を連携協議会で共有しながら、関係機関と連携し、課題解決ができる環境を整備する。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	特別支援教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	特別支援連携協議会推進事業費						
事業の 目的・概要	富良野市第2次特別支援教育マスタープランに基づき、すべての幼児・児童・生徒が障がいのあるなしに関わらず、お互いの個性を尊重しあいながら夢と希望を持って心豊かにたくましく育ち合う教育の充実を図るため、関係者による特別支援連携協議会を組織する。 ・心身に障がいのある幼児及び児童生徒の適正な就学を図る ・協議会に知的部会・情緒部会・言語部会・専門家チーム(就学相談・就学支援)を設置	事業年度	開 始		終 了		
			平成20年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
	177	114	160	130	221		
前年度の 課題	○困り感を抱える児童生徒が増加傾向にある。さらなる就学予定児童の把握と教育相談を推進していくことが望まれる。 ○引き続き、保育所・幼稚園・小学校・中学校・高校・福祉・医療機関との一貫した連携と共通認識による引き継ぎが必要。						
当該年度の 目標	○障がいのあるなしに関わらず、特別な配慮・支援が必要な児童生徒のほか、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた教育の推進 ○各関係機関と一貫した連携と共通認識を図り、早期からの支援を行う。						
事業の 実施状況	○組織体制の強化(就学相談・就学指導を行う専門家チームスタッフの増員) ○医療・福祉等関係機関との連携 ○就学時健康診断(知能検査、ことばの検査)の実施 10月13日、10月19日、10月26日 ○研修会・講演会の実施 ①第1回特別支援教育研修会「子どもたちへのよりよい支援のために」(7月27日 39名) ②第2回特別支援教育研修会「運動の苦手さを解決するためのアプローチ」(7月31日 38名) ③第3回特別支援教育研修会(道立特別支援センター研修会)(8月31日 50名) 「児童生徒のよりよい学びを支える合理的配慮」 ④第4回特別支援教育研修会(道立特別支援センター研修会)(11月4日 26名) 「WISC-IV知能検査の概要と解釈について」 ⑤(校長・教頭向け)特別支援教育研修会(12月11日 22名) ⑥講演会「おやこ育ち～楽しく子育て ともに成長～」(12月12日 53名) (⑤⑥講師:北海道教育大学釧路校 地域学校教育専攻 準教授 二宮 信一 氏)						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取 組 み	達成度・効果度の検証						
	○幼稚園・保育所の会議に専門家チームも参加することで、情報交換ができ連携を図ることができた。 ○専門家チームが小中学校のコーディネーターとの兼務により、児童生徒の把握・理解がスムーズになった。 ○校長・教頭対象の研修会を初めて行い、学校全体で特別支援教育のさらなる意識づけを行うことができた。						
	今 後 の 課 題 ○困り感を抱える児童生徒が年々増加しているなか、関係機関と連携を図り、早期からの教育相談等を推進していくことが必要である。 ○学校内でコーディネーター業務や就学相談・教育相談等の引き継ぎのさらなる徹底が必要。 ○各学校に配置している支援員とコーディネーター、教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた指導が必要。 ○平成30年度からの第3次マスタープラン策定に向け、検証及び評価と見直しを行う必要がある。						
	改 善 策						
	○就学相談を含めた相談支援体制のさらなる充実に向け、関係機関と情報共有し児童生徒の把握・理解を図る。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	キャリア教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	富良野市キャリア教育推進会議						
事業の 目的・概要	キャリア教育は学校教育において児童生徒が「生きる力」を身に付け、勤労観や職業観及び職業に関する知識・技能等の育成を図る観点から関係機関、団体等が一体となり、協議・連携を推進していく必要がある。	事業年度	開 始		終 了		
			平成17年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
		—	—	—	—	—	
前年度の 課題	○キャリア教育の目的意識の明確化を図る必要がある。 ○富良野市キャリア教育推進会議の活性化を図り、学校と事業所との連携を図る必要がある。						
当該年度の 目標	○児童生徒一人ひとりの望ましい勤労観・職業観の育成を図る。						
事業の 実施状況	○職場体験実施校 中学校：6校 高等学校：2校 ○関係機関等との連携 ・富良野商工会議所により事業所紹介 ・ハローワーク旭川による職業講話の斡旋 ○キャリア教育推進会議 3月10日開催 構成 市内小中学校、市内高等学校、商工会議所、市P連 旭川公共職業安定所富良野出張所、富良野市、富良野市教育委員会 ○小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業と連携した事業の推進（H27～29） ・研究指定校 ～ 富良野緑峰高校・富良野西中学校・富良野小学校						
評価		H22	H23	H24	H25	H26	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○キャリア教育の目的意識の明確化を図る必要がある。 ○富良野市キャリア教育推進会議の活性化を図り、学校と事業所との連携を図る必要がある。 ○小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業・地域未来づくり会議と連携した事業の推進。						
	改 善 策						
	○富良野市キャリア教育推進会議の開催により、学校と事業所との連携を構築し、キャリア教育の推進と充実を図る。 ○「マイノート（キャリアノート）」等の活用により、キャリア発達の醸成を図る。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	食育	担当課	学校教育課				
事務事業名	食育推進事業						
事業の目的・概要	子どもたちに食の楽しさ・大切さを伝えるために、家庭だけでなく保育所・幼稚園・学校など地域の関係者が連携しながら、食育の重要性について共通の認識を持ち、子どもたちの健やかな心と身体を育んでいくことを目的とし、「子どもたちのための食育ガイドライン」を基に食育推進を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成20年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
		35	4	27	15	—	
前年度の課題	○各学校の「食育の年間指導計画」と連動し、学力や体力、運動能力向上に取り組む必要がある。 ○「子どもたちのための食育ガイドライン」の検証及び評価と見直しを行い、改訂版作成に取り組む必要がある。						
当該年度の目標	○食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける。						
事業の実施状況	○平成20年3月に策定した「子どもたちのための食育ガイドライン」をもとに概略版を作成し、幼稚園、保育所、学校で配布。 ○栄養教諭(2名)の配置。 ○栄養教諭による食育指導と啓発活動。 ○市ホームページを通じて栄養教諭の活動を周知し、食育の重要性・取り組みを紹介。						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	B	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	達成度・効果度の検証						
	○「子どもたちのための食育ガイドライン」等をホームページに掲載し、広く市民に紹介。 ○概略版の作成・配布により、児童生徒及び保護者へ啓発。						
	今 後 の 課 題						
今後の取り組み	○各学校の食育の年間指導計画と連動し、学力や体力、運動能力向上に取り組む必要がある。 ○「子どもたちのための食育ガイドライン」の検証及び評価と見直しに取り組む必要がある。						
	改 善 策						
	○健康診断等により児童生徒の健康状態を把握し、養護教諭と栄養教諭が連携し「食育」を通じた健康管理を行う。 ○栄養教諭の増員に向け、全道市長会等を通じて強く要請していく。 ○学校給食の「食べ残しゼロ運動」や「早寝、早起き、朝ごはん、みんなそろって晩ごはん」運動の促進を継続実施する。 ○「子どもたちのための食育ガイドライン」の改訂作業に取り組む。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	情報教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	I C T活用事業						
事業の 目的・概要	I C Tの活用により、児童生徒の「関心、意欲、態度」という観点で効果があり、児童生徒の学習内容への理解向上を図ることを目的とする。	事業年度	開 始		終 了		
			平成21年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
		—	—	—	—	4,284	
前年度の 課題	○各学校及び市教研情報班において、引き続き教材研究や研修を促す必要がある。 ○情報セキュリティの確立に向けて、教職員の意識改革が必要。						
当該年度の 目標	○I C Tを活用した授業研究及び授業公開の推進と児童生徒の学習内容への理解向上を図る。 ○タブレット端末を利用した特色ある授業づくり。						
事業の 実施状況	○I C Tを活用し、児童生徒の学習内容の理解向上を図る。 ○校内研修等によるI C T活用方法の理解及び実践。 ○デジタル教科書の整備状況。 ・H27 小学校教科書改訂による整備 41セット ○タブレット端末の整備状況(教育用コンピューターの更新) ・H27 東小学校 41台 鳥沼小学校 18台						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○各学校及び市教研情報班において引き続き教材研究や研修を促す必要がある。 ○情報セキュリティの確立に向けて、教職員の意識改革が必要。						
	改 善 策						
	○学校における情報セキュリティの確立に向け、情報提供を通じて教職員の意識改革を図る。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	国際理解教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	外国語指導助手招致事業						
事業の 目的・概要	英語に慣れ親しみ日常会話や外国の文化、生活、習慣などを学ぶために、外国語指導助手を小中学校に派遣し、英語力向上を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成7年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
14,220	14,441		15,145	14,441	14,108		
前年度の 課題	○小学校から中学校英語へのスムーズな移行と学習意欲向上を促すための取組みと更なる連携が必要。 ○「英語が話せるふらのっ子」を推進する指導体制の充実が必要。 ○小学校における朝の英語活動を引き続き全小学校で実施。						
当該年度の 目標	○児童生徒が英語を理解し、表現する基礎能力を養うとともに、外国の文化や生活習慣等を学びながら、英語力の向上を図る。						
事業の 実施状況	○外国語指導助手を3名(JETプログラム2名、独自採用1名)、小学校外国語活動等アドバイザー1名の計4名を配置し、外国語活動や英語教育、総合的な学習時間等に向けて市内小学校・中学校に派遣している。 ○外国語活動推進委員会を設置し、小中学校教諭、担当教諭と外国語指導助手との連携を図っている。 ○「英語が話せるふらのっ子」の推進に向けた取組みを実施。 ・小学校における朝の英語活動を実施 ・「えいごLAND」の実施・・・扇山小学校、東小学校、(27年度より)富良野小学校 ・放課後こども教室(山部小学校)や児童館での行事に参加し、英語に触れる機会の提供 ・イングリッシュキャンプの実施・・・平成28年1月8日～9日(大雪青少年交流の家) ・社会科副読本の活用・・・英語版ムービー「ふらの」 ・スクールバス乗車時を活用した英語活動・・・英語の歌のCDを作成し車内に放送						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	B	B	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取 組 み	達 成 度 ・ 効 果 度 の 検 証						
	○外国語活動推進委員会において、推進体制や指導形態について担任教諭とALTとの協議を進め、小中連携による体制が整備された。 ○「えいごLAND」「イングリッシュキャンプ」等、英語に触れる機会を増やすことで、英語に対する学習意欲向上につながってきている。						
	今 後 の 課 題						
今後 の 取 組 み	○国は平成32年から外国語活動を3・4年生からに、5・6年生は教科化とすることから、ALTの人数や配置、活用方法の検討が必要。さらに小学校教諭の英語力も求められる。 ○小学校から中学校英語へのスムーズな移行と学習意欲向上を促すための取組みと更なる連携が必要。 ○「英語が話せるふらのっ子」を推進する指導体制の充実が必要。						
	改 善 策						
	○小学校教諭の研修、英会話サロンなどを継続して開催する。 ○小学校において外国語とふれ合う機会を増やすため、引き続き「えいごLAND」など気軽に英語とかかわれる環境づくりを行う。 ○「英語が話せるふらのっ子」をめざす観点から、ALTの独自採用を継続する。 ○5・6年生の教科化に向け、富良野市では平成30年から3・4年生の外国語活動の導入を検討する。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	健康診断事業	担当課	学校教育課				
事務事業名	児童生徒、教職員健康診断実施事業						
事業の 目的・概要	健康診断事業の円滑な実施によって、児童生徒、教職員の健康増進を図る。 ○児童生徒の健康診断＝毎学年定期に児童生徒の健康診断を行わなければならない。 (学校保健安全法第13条第1項) ○教職員健康診断＝学校の設置者は毎学年定期に職員の健康診断を行わなければならない。 (同法第15条第1項) ○就学時健康診断＝翌学年から就学させるべき者の健康診断を行わなければならない。 (同法第11条)	事業年度	開 始		終 了		
					継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
	9,616	9,488	9,583	10,584	10,643		
前年度の課題	○引き続き、児童生徒及び保護者の健康管理への意識を向上させる必要がある。 ○児童生徒の健康状態を把握し、養護教諭と栄養教諭が連携しながら「食育」を通じた健康管理を行う必要がある。						
当該年度の目標	○児童生徒の健康診断の完全実施 ○教職員健康診断の受診率100%達成						
事業の実施状況	○児童生徒の健康診断 ・学校保健安全法第13条第1項に基づき実施。 ○教職員健康診断 ・同法第15条第1項に基づき毎学年定期に実施。 ・平成27年度受診状況 対象者184名中 184名受診(受診率100%) ・年2回の健診受診案内通知、未受診者に個別に呼びかけ実施 ○就学時健康診断 ・同法第11条に基づき実施 ・平成27年度 就学児童 159名実施 ・何らかの支援が必要とされる児童を発見し、就学前から該当児童及び保護者への相談・支援を実施している。						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	B	B	B	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○引き続き児童生徒及び保護者の健康管理への意識を向上させる必要がある。 ○児童生徒の健康状態を把握し、養護教諭と栄養教諭が連携しながら「食育」を通じた健康管理を行う必要がある。						
	改 善 策						
	○児童生徒及び保護者に対して、保健だよりの発行を通じ健康管理の意識向上を促す。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	小中学校歯科衛生	担当課	学校教育課				
事務事業名	フッ化物洗口事業						
事業の目的・概要	北海道は、全国に比べて、12歳児におけるむし歯が多いことから「歯・口腔の健康づくり8020推進条例」が制定されたことに伴い、北海道教育委員会としても幼児・児童生徒の歯・口腔の健康づくり推進を図るために小中学校でのフッ化物洗口の導入を支援している。さらに富良野市健康増進計画（第2次）においても歯科健康対策の推進としてフッ化物洗口実施による12歳児1人平均むし歯1.0歯未満が目指されたことから、事業実施を行う。	事業年度	開 始		終 了		
			平成25年度				
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
—	59	382	240	156			
前年度の課題	○歯科疾患の予防は「むし歯予防」及び「歯周病予防」が大切な事であり、フッ化物洗口のみならず、歯磨きの習慣を定着させることが必要。						
当該年度の目標	○フッ化物洗口にあたって、教職員の負担軽減と誤飲等の事故が起こらないよう、対応とフッ化物洗口に対する正しい情報の提供。						
事業の実施状況	○富良野市においては、全小中学校において希望者のみフッ化物洗口を実施。フッ化物洗口を希望しない場合は、水道水によるぶくぶくうがいを実施。 ○小学生は1,095名に対し実施率94.0%、中学生は657名に対し実施率91.7%であり、保育所・幼稚園でも実施されている。						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	—	—	A	A	A	
	効果度	—	—	A	A	A	
達成度・効果度の検証							
○関係機関が一丸となった取組みの結果、予想を上回る実施率を上げている。 ○事業の効果については、継続して実施していく中で検証を行う事になるが、実施によるむし歯予防には有効と考える。							
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○歯科疾患の予防は「むし歯予防」及び「歯周病予防」が大切な事であり、フッ化物洗口のみならず、歯磨きの習慣を定着させることが必要。						
	改 善 策						
○養護教諭を中心に、児童生徒の歯・口腔の健康意識を向上させるための生活習慣を身に付けさせる指導を行う。							

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	高校教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	高校教育の推進						
事業の 目的・概要	中・高の相互連携による教育振興と魅力ある高校づくりを図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成19年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
		—	—	—	—	—	
前年度の 課題	○各教科を中心とした授業交流を行い、学びの深まり度を検証する必要がある。						
当該年度の 目標	○中高の情報を共有し、今日的な教育課題の解決を図る。 ○富良野地区の望ましい高校教育づくりを推進する。 ○地域や保護者の教育ニーズに対応した高校教育の充実を図る。						
事業の 実施状況	○富良野市中高等学校経営連絡協議会 中学校・高等学校が生徒指導・進路指導などの今日的な教育課題について相互に連携し、富良野地区の高等教育の充実に向けて協議。 6月17日、12月3日開催 ○学力向上プロジェクトチーム ・富良野高校及び富良野緑峰高校合同説明会(6月24日) ・各中学校での学校説明会、授業交流 ・中学校進路指導担当者向け学校説明会(10月28日) ・体験入学(富良野高 10月8日、緑峰高 8月26日)						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取組 の み	達成度・効果度の検証						
	○市教委主催による二校合同説明会では、中高が連携して行った取り組みとして意義があるものとなっている。今後は、アンケート記載なども検討が必要。 ○中高間の授業交流では、お互いの課題を確認することができた。 ○中学校の合唱コンクールの外部審査員として高校教諭を招くなど中高連携が進行してきている。						
	今 後 の 課 題						
今後 の 取組 の み	○授業交流・情報交流の継続により、中高各段階での学力の現状把握と、各段階で必要な基礎学力などの洗い出し。 ○小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業との連携						
	改 善 策						
	○授業交流を継続実施し、学びの深まり度を共通テーマとして研修を深める。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	家庭教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	家庭教育支援事業						
事業の目的・概要	幼児・児童生徒の保護者及び地域の人々を対象に、家庭や地域の教育力をより高めるため、子どもの基本的な生活習慣・自立心・自主性・耐性などを培うことについて、関係機関・団体と連携し、学習機会の充実を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成9年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
	168	256	99	212	278		
前年度の課題	○各関係機関・団体と連携し、家庭教育に関する学習機会や情報提供をしているが、多くの保護者が家庭教育に関して関心を持つように、より参加しやすい環境づくりや学習内容の検討、継続的な情報提供が必要である。 ○育児や子育てに関するセミナーや講演会に気軽に参加できる仕組みづくりや様々な情報提供を行う必要がある。						
当該年度の目標	○家庭の教育力を高めるための学習機会の充実						
事業の実施状況	○家庭教育セミナー						
	市街地区	6/30(火)	家庭教育の必要性について			62名	
	市街地区	7/14(火)	子どもの気持ちって！?				
	市街地区	9/11(金)	無限の可能性を持つ子どもたち				
	市街地区	9/26(土)	社会でたくましく生きる子どもの育て方				
	麓郷地区	10/25(土)	麓郷小中学校PTA交流会(フアーカーリング)			52名	
	東山地区	12/8(火)	ハートでトーク(心を軽くする子育てコーチング)			53名	
	※託児有						
	○家庭教育講演会(会場:富良野文化会館)						
	11/30(月)	映画「生まれる ずっといっしょに」鑑賞学習会	93名				
2/23(月)	メディア社会を生きる子どもと地域の関わり方	34名					
○子ども生活習慣づくり推進事業「子ども朝活」事業(会場:富良野小学校)							
1回目	8/3~5	読み聞かせ、自由学習・書道、運動			276名		
2回目	1/13~15	読み聞かせ、英語・自由学習・書道、運動			213名		
○家庭教育ハンドブック(乳幼児編、小学低・中学年編、小学高学年・中学生編)の作成、配布							
○ケータイ、インターネットトラブル防止に関する小冊子の作成、配布							
評価	H23 H24 H25 H26 H27					達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	B	○家庭・地域の教育力向上につながっており、子育てに関する知識が増えるとともに、家庭教育の重要性について学ぶ機会となっている。	
	効果度	A	A	A	A		
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○各関係機関・団体と連携し、家庭教育に関する学習機会や情報提供をしているが、多くの保護者が家庭教育に関して関心を持つように、より参加しやすい環境づくりや学習内容の検討、継続的な情報提供が必要である。 ○育児や子育てに積極的に関わる父親が増えつつあるが、セミナーや講演会に気軽に参加できる仕組みづくりや様々な情報提供を行う必要がある。						
	改 善 策						
○引き続き、多くの親が参加する機会を活用した学習機会の提供や情報提供に努める。 ○各種事業等を活用した父と子のふれあい交流を推進し、家庭教育への関心と参加を推進する。 ○家庭教育ハンドブック等の有効利用をはじめ、各関係機関・団体と連携し家庭教育に関する情報発信に努める。							

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	家庭教育	担当課	社会教育課																							
事務事業名	親と子のふれあい事業																									
事業の 目的・概要	家庭や地域の人々との共感的な人間関係を大切にして、心のつながりを深める活動を通して、子どもの心身の発達を促す。	事業年度	開 始		終 了																					
			昭和52年度		継続																					
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H25	H27																			
市民講座事業・図書館事業に掲載																										
前年度の 課題	○公民館事業、図書館事業として取組んでいるが、各施設間の連携を図りながら親子のふれあいを深めるとともに、子どもの健やかな成長を目指すために事業内容を充実し、より多くの親子が気軽に参加できる機会の提供が必要である。																									
当該年度の 目標	○家庭の教育力を高めるための学習機会の充実 ○親子で楽しみながら、豊かな心を育てる共同体験機会の充実 ○地域の社会資源を活用した土曜日の教育支援体制の構築																									
事業の 実施状況	○市民講座【家庭教育・親子を対象にした講座】 ・土曜塾(会場:富良野文化会館)																									
	<table border="1"> <tr> <td>9/26(土)</td><td>親子クッキー作り</td><td>6組14名</td></tr> <tr> <td>10/17(土)</td><td>親子プリン作り</td><td>7組16名</td></tr> <tr> <td>11/7(土)</td><td>親子ハンバーグ作り</td><td>7組14名</td></tr> <tr> <td>11/14(土)</td><td>親子パスタ作り</td><td>7組15名</td></tr> <tr> <td>12/19(土)</td><td>キャンドルアレンジメント講座</td><td>4組9名</td></tr> <tr> <td>1/16(土)</td><td>親子でお金の知識を磨こう!</td><td>8組17名</td></tr> <tr> <td>2/27(土)</td><td>子どもと作ろう!ちぎりパンづくり</td><td>3組 6名</td></tr> </table>						9/26(土)	親子クッキー作り	6組14名	10/17(土)	親子プリン作り	7組16名	11/7(土)	親子ハンバーグ作り	7組14名	11/14(土)	親子パスタ作り	7組15名	12/19(土)	キャンドルアレンジメント講座	4組9名	1/16(土)	親子でお金の知識を磨こう!	8組17名	2/27(土)	子どもと作ろう!ちぎりパンづくり
9/26(土)	親子クッキー作り	6組14名																								
10/17(土)	親子プリン作り	7組16名																								
11/7(土)	親子ハンバーグ作り	7組14名																								
11/14(土)	親子パスタ作り	7組15名																								
12/19(土)	キャンドルアレンジメント講座	4組9名																								
1/16(土)	親子でお金の知識を磨こう!	8組17名																								
2/27(土)	子どもと作ろう!ちぎりパンづくり	3組 6名																								
評 価	○読み聞かせ(図書館) ・おはなし会 12回 延 330名 ・えいごのおはなし会 9回 延 254名 ・どんぐりのおはなし会 42回 延 599名																									
	○子どもの図書館まつり 5/7~5/10 来館者2,047名																									
		H23	H24	H25	H26	H27																				
	達成度	B	B	B	B	B																				
効果度	A	A	A	B	A																					
今後 の 取 組 み	達成度・効果度の検証 ○親と子がふれあう機会を通して絆を確認し、家庭教育の重要性を学ぶ場となっている。 ○親子のための講座開設時期が偏るとともに、子育てに関わる父親への参加促進不足																									
	今 後 の 課 題 ○公民館事業、図書館事業として取組んでいるが、各施設間の連携を図りながら親子のふれあいを深めるとともに、子どもの健やかな成長を目指すために事業内容を充実し、より多くの親子が気軽に参加できる機会の提供が必要である。																									
	改 善 策 ○事業内容の検討を行い、関係する部署や関係する機関・団体、家庭教育サポート企業などと連携し、より多くの親子が参加できる機会を提供しながら事業展開を図る。																									

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	生涯学習の基盤整備	担当課	社会教育課				
事務事業名	コミュニケーション教育推進事業						
事業の目的・概要	コミュニケーション能力を育むことにより、人間形成・社会との関わりを理解することにより、「他者理解」「話す・聞くの基本」「信頼関係の構築」など基本的な要素が身に付くとともに、地域における人と人との絆を深め地域振興につなげるため、演劇的手法を用いたワークショップ等を行い、身体を使い、感じることを通して、自分の日常生活を振り返りつつ、「気づき」や「きっかけ」を得ることを目的とする。	事業年度	開 始		終 了		
			平成25年度		平成27年度		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
	—	—	1,197	1,186	1,186		
前年度の課題	○さらに広くコミュニケーション教育事業(ワークショップ)の情報提供等を行い、市民理解を深めてもらう必要がある。						
当該年度の目標	○ワークショップを開催し、市民及び関係団体等の学習機会を提供し、コミュニケーション能力の向上を図る。						
事業の実施状況	○プログラム例(概ね2～3時間) ①コミュニケーション・プログラム(アイスブレイク他シアターゲーム) ②表現プログラム(演技・朗読・ダンス・ボディパーカッション他) ③レクリエーション・プログラム(参加者全員で身体を使うプログラム) ○実施状況						
		実施回数	参加人数	年齢別			
			小中高	成人	60歳超		
	H25	50	657	238	203	216	
	H26	33	656	344	183	129	
	H27	33	610	106	286	218	
	計	116	1,923	688	672	563	
	※最終年である平成27年度は一般を中心に社会人、60歳以上の方が数多く受講され、年齢別では、3年間でほぼ均等に実施できた結果となった。						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	—	—	B	B	A	
	効果度	—	—	B	B	A	
今後取り組み	達成度・効果度の検証						
	○コミュニケーションワークショップの参加者は様々な気づきや人との関わり方を考えるきっかけとなっている。 ○本事業を3年間実施したことにより、多くの市民が「良いコミュニケーションの取り方」など基本的な要素を習得され、今後の良好な人間関係、そして人に優しい街づくりの一助に繋がった。						
	今後課題						
	○地域のリーダー的存在や指導員などコミュニティワークをまとめる立場の人材が多く見られ、その方たちの口コミや体験したことの応用などができれば、さらに波及効果が期待できる。						
改善策	改善策						
	○多様な価値観を持つ人たちと、協力・協働しながら社会に貢献することができる創造性豊かな子どもたちの健全育成を主眼に、今後は、学校教育における推進を図っていく。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課																																										
事務事業名	子ども未来づくり事業（子ども未来づくりフォーラム）																																												
事業の 目的・概要	子どもの立場から「まちづくり」に対する自由な発想や意見を出し合い、自主的に社会参加するとともに市政に対する関心を高め、富良野市の未来を担う青少年を育成することを目的とする。	事業年度	開 始		終 了																																								
			平成19年度		継続																																								
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27																																						
	74	31	37	29	34																																								
前年度の 課題	○事業内容の企画・実施（時間配分）について学校との打合せを充分行う必要がある。 ○児童・生徒の興味、関心を持たせる事業として多くの発表場面をつくり、より豊かな表現力・コミュニケーション能力の向上、社会性やリーダーシップを育む機会とする必要がある。																																												
当該年度の 目標	○郷土への理解と郷土への愛情を育み、将来、まちの担い手として成長できるキャリア教育、人材育成を主眼に置いた事業展開を図る。 ○自分やグループ内での考え、表現する力の育成と子ども一人ひとりの多様な考えを引き出す発表の場を提供する。																																												
事業の 実施状況	○こども未来づくりフォーラム 「学校の授業や生徒会活動等で取り組まれている特色ある取組み」や「地域課題解決に向け自分達にできること」、「市民が取り組むべきこと」などについて発表。 11/25開催 会場：文化会館大ホール <table border="1"> <tr> <td>扇山小</td><td>富良野の農業を考えよう</td><td>5名</td></tr> <tr> <td>樹海小5・6年生</td><td>輝く樹海</td><td>11名</td></tr> <tr> <td>山部小6年生</td><td>富良野の未来を考える～山部のために私たちがができること～</td><td>5名</td></tr> <tr> <td>西中生徒会</td><td>西中学校の1年間</td><td>11名</td></tr> <tr> <td>山部中生徒会</td><td>「山中生の誓い」運動を通した取組み</td><td>5名</td></tr> <tr> <td>山部中2年生</td><td>職場体験で体験したこと</td><td>10名</td></tr> <tr> <td>山部中1年生</td><td>マンダラチャート</td><td>17名</td></tr> <tr> <td>東中生徒会</td><td>いじめノックアウト</td><td>7名</td></tr> <tr> <td>鳥沼小3・4年生</td><td>鳥沼のいいところ</td><td>15名</td></tr> <tr> <td>富良野小6-1</td><td>防犯</td><td>5名</td></tr> <tr> <td>富良野小6-2</td><td>富良野の活性化のために</td><td>5名</td></tr> <tr> <td>東小5年</td><td>富良野博士になろう～身近な川（ベベルイ川）を調べるを通して</td><td>16名</td></tr> <tr> <td>9校</td><td></td><td>112名</td></tr> </table> 小中学校関係（児童生徒、教員） 一般観覧者（議会、教委関係者、ことぶき大学生、保護者等） 250名						扇山小	富良野の農業を考えよう	5名	樹海小5・6年生	輝く樹海	11名	山部小6年生	富良野の未来を考える～山部のために私たちがができること～	5名	西中生徒会	西中学校の1年間	11名	山部中生徒会	「山中生の誓い」運動を通した取組み	5名	山部中2年生	職場体験で体験したこと	10名	山部中1年生	マンダラチャート	17名	東中生徒会	いじめノックアウト	7名	鳥沼小3・4年生	鳥沼のいいところ	15名	富良野小6-1	防犯	5名	富良野小6-2	富良野の活性化のために	5名	東小5年	富良野博士になろう～身近な川（ベベルイ川）を調べるを通して	16名	9校		112名
	扇山小	富良野の農業を考えよう	5名																																										
樹海小5・6年生	輝く樹海	11名																																											
山部小6年生	富良野の未来を考える～山部のために私たちがができること～	5名																																											
西中生徒会	西中学校の1年間	11名																																											
山部中生徒会	「山中生の誓い」運動を通した取組み	5名																																											
山部中2年生	職場体験で体験したこと	10名																																											
山部中1年生	マンダラチャート	17名																																											
東中生徒会	いじめノックアウト	7名																																											
鳥沼小3・4年生	鳥沼のいいところ	15名																																											
富良野小6-1	防犯	5名																																											
富良野小6-2	富良野の活性化のために	5名																																											
東小5年	富良野博士になろう～身近な川（ベベルイ川）を調べるを通して	16名																																											
9校		112名																																											
評価		H23	H24	H25	H26	H27	達成度・効果度の検証																																						
	達成度	A	A	A	A	A																																							
	効果度	A	A	A	A	A	○各学校における特色ある取組や学習内容、富良野市のまちづくりについて、子どもたちが自らの考えやアイデア等を発表し、表現する場となっている。 ○パワーポイントなどICTの活用により、子どもたちのプレゼンテーション力向上が見られる。 ○劇や笑い、観覧者参加型の発表もあり、各校の工夫が見られた。																																						
今後 の 取組	今 後 の 課 題																																												
	○郷土への理解と郷土への愛情を育み、将来、まちの担い手として成長できるキャリア教育、人材育成を主眼に置いた事業展開を図る必要がある。 ○そのためには、本事業の内容とねらいをしっかりと見定め、全小学校が参加できる体制の再構築が必要。																																												
今後 の 取組	改 善 策																																												
	○学校との連携を図り、より計画的な事業推進を行うとともに、学習指導要領に沿った内容の充実を図り、市内全小学校が参加できる体制に努める。 ○中学校においては、少年の主張の充実を図りながら、少年の健全育成に対し広く一般の理解を深めるよう努める。																																												

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	子ども会育成事業						
事業の 目的・概要	異年齢集団である子ども会活動への参加奨励を図り、団体活動の基礎的知識や技術を学び、子ども会活動の活性化を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			昭和38年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
1,022	907		952	927	955		
前年度の 課題	○子どもの減少等により子ども会加入が困難な地区もあるが、引き続き加入の働きかけを継続して行う必要がある。 ○子ども会活動の基礎知識や技術を持った育成員の養成を継続して行い、子ども会の活性化を図る必要がある。 ○より効果的で多様な事業展開を図るため、学校教育など関係機関との連携を図る必要がある。						
当該年度の 目標	○地域の教育資源を活かした様々な学習機会の充実 ○豊かな心と社会性を身につける学習機会の充実 ○スポーツ、文化、ボランティアなどの活動への支援と参加促進 ○家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備						
事業の 実施状況	○富良野市子ども会育成連絡協議会 ・加盟単位数 21団体 ・会員数 823名 ○子ども会事業 ・リーダー研修会【前期】 8/6～8 60名 山部太陽の里キャンプ場(生涯学習センター) ・リーダー研修会【後期】 3/26～28 71名 国立大雪青少年交流の家 ・シニアリーダー研修会(青少年サークル) 6/27～28 17名 文化会館 ・育成員、ジュニアリーダー、シニアリーダー合同研修会 11/15 9名 ・2016イングリッシュキャンプ 1/8～9 21名 国立大雪青少年交流の家 ・かるた大会 1/11 5チーム17名 文化会館 ・ジュニアスノーフェスティバル(少年団本部と共催) 2/13 45名 空知川河川敷地 ・遊びの出前事業 延6回 (青少年サークルを単位・地区子ども会等へ派遣)						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	A	
今後 の 取組	達成度・効果度の検証						
	○異年齢集団での様々な活動が、社会性を身につけさせ子どもの成長に大きく寄与している。						
	今 後 の 課 題 ○子どもの減少等により、子ども会や育成連絡協議会への加入が困難な地区もあり、引き続き加入の働きかけを継続して行う必要がある。 ○子ども会活動の基礎知識や技術を持った育成員の養成を継続して行い、子ども会の活性化を図る必要がある。 ○アウトドア体験をととしたリーダー研修会は年々、参加する子ども達が増えており、四季折々の自然体験をととした取組みを継続する必要がある。						
今後 の 取組	改 善 策						
	○子ども会加入の働きかけを継続するとともに、子ども会未加入の子ども達も事業に参加し、異年齢集団を通じた体験により子ども会活動の良さを体験できる多様な活動内容の充実を図る。 ○時代に対応する組織運営について助言を行うとともに、研修等を通じた育成員の養成を図る。 ○リーダー研修会は、体験活動や自然体験を取り入れた多彩なプログラムを提供する。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年表彰	担当課	社会教育課				
事務事業名	青少年表彰事業						
事業の目的・概要	青少年（個人、団体）を対象に、青少年活動、社会活動及び家庭生活等において他の模範となる者を表彰する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成19年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
		46	58	39	39	26	
前年度の課題	○個人、団体の両面から広く該当者を発掘し、推薦してもらう必要がある。						
当該年度の目標	○ふるさとの意識を高める各種リーダーの養成						
事業の実施状況	○富良野市青少年表彰式 ・ 11月23日開催 文化会館大会議室 ・ 被表彰者 1 個人 ○表彰基準 ・ 個人 概ね30歳までの青少年で、次に掲げる活動を3年以上実践している者 ア) 日常生活において責任、勤勉又は奉仕などの徳性をもって活動し、明るい地域社会の公益向上に貢献した者 イ) 公共の福祉増進のための行為や努力した者 ウ) 生産性の向上や職場環境の改善などに貢献した者 エ) 地場産業の振興に貢献した者 オ) 青少年団体の指導又は育成に貢献した者 ・ 団体 文化、教養、体育又は奉仕活動を目的として概ね30歳までの青少年で構成されている団体で、堅実な活動を常時又は定期的に3年以上継続して行い、それぞれの活動の成果が著しく他の青少年の模範となるもの。						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○他の模範となる個人や団体の該当者を幅広く発掘し、推薦してもらう必要がある。 ○青少年団体をリードする人材育成を図る必要がある。						
	改 善 策						
	○様々な機会や広報を通して、青少年表彰制度について広く市民に周知する。 ○各関係機関・団体及び町内会や市民に対して広く該当者の推薦を募る。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	青少年補導センター運営事業						
事業の 目的・概要	青少年が心身ともに健康で調和のとれた発達ができるよう、市民や関係機関・団体との連携により、青少年の健全育成を主眼とした非行の未然防止に努める。 ◇補導員 市内小・中・高校の生徒指導担当教諭及び関係団体の推薦により教育委員会が委嘱	事業年度	開 始		終 了		
			昭和50年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
	153	256	98	149	150		
前年度の 課題	○子ども達のたまり場となりやすい市内の商業施設や娯楽施設、公園等を重点的に月3回程度巡回するとともに、引き続き施設管理者や関係機関団体との情報交換等連携をとりながら、青少年の非行防止に努める必要がある。 ○少年補導員連絡協議会や富良野警察署との連携。						
当該年度の 目標	○家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備						
事業の 実施状況	○補導員数 35名 委嘱 ○街頭補導(富良野地区) ・富良野地区28回、山部地区1回 延従事者50名 結果:補導なし。呼びかけ21件 ○補導員会議(兼研修会) ・6月2日開催 24名出席 文化会館 ○広域補導(旭川地区広域補導連絡協議会) ・合同補導…北海へそ祭り祭典補導(富良野市) 5名(うち連絡協議会より3名) ・合同補導…上川神社祭典街頭補導1回(旭川市) 富良野市より延1名参加 ・列車添乗補導…2回実施(富良野～幾寅間) 従事者延 6名(うち連絡協議会より2名) ・旭川地区広域補導連絡協議会研修会 7/ 8 1名参加 ・旭川地区広域補導連絡協議会実務担当者会議 2/22 1名参加						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	A	
今後 の 取組	今 後 の 課 題 ○子ども達のたまり場となりやすい市内の商業施設や娯楽施設、公園等を重点的に月3回程度巡回するとともに、引き続き施設管理者や関係機関団体との情報交換等連携をとりながら、青少年の非行防止に努める必要がある。 ○少年補導員連絡協議会や富良野警察署との連携。						
	改 善 策						
	○学校、家庭、関係機関団体、施設管理者等とのネットワーク化を推進し、情報交換や連携を密にしながら青少年の健全育成を推進する。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	放課後子ども教室推進事業						
事業の 目的・概要	放課後の子ども達の安全、安心な居場所を設け、子ども達に文化・スポーツ活動等の体験を通じて、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。 ○平成20年度 山部小学校で新規開設 ○平成22年度 樹海小学校で新規開設 ○平成23年度 布礼別小学校で新規開設 ○平成25年度 布部小学校で新規開設	事業年度	開 始		終 了		
			平成20年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
	6,002	6,146	6,293	5,567	5,782		
前年度の課題	○引き続き児童館が設置されていない地区での開設に向けて検討が必要である。 ○児童館、学童保育センターとの連携を検討する。						
当該年度の目標	○地域の教育資源を生かした様々な学習機会の充実 ○豊かな心と社会性を身につける学習機会の充実 ○スポーツ、文化、ボランティアなどの活動への支援と参加の促進						
事業の実施状況	○山部地区放課後子ども教室 ≪会場：山部小学校≫ ・登録児童数 40名 (H26年度 51名) ・開催日数 192日 (H26年度 196日) ・延 4,255名出席 (H26年度 4,235名) ・教育活動サポーター 延382名 ○東山地区放課後子ども教室 ≪会場：樹海小学校≫ ・登録児童数 32名 (H26年度 39名) ・開催日数 172日 (H26年度 169日) ・延 3,890名出席 (H26年度 4,160名) ・教育活動サポーター 延344名 ○布礼別地区放課後子ども教室 ≪会場：布礼別小学校≫ ・登録児童数 13名 (H26年度 20名) ・開催日数 46日 (H26年度 41日) ・延 498名出席 (H26年度 621名) ・教育活動サポーター 延61名 ○布部地区放課後子ども教室 ≪会場：布部小中学校≫ ・登録児童数 12名 (H26年度 11名) ・開催日数166日 (H26年度 152日) ・延 1,577名出席 (H26年度 1,259名) ・教育活動サポーター 延185名						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	A	A	A	A	
今後 の 取組	達成度・効果度の検証						
	○児童の安全、安心な居場所づくりと心豊かで健やかに育まれる環境づくりに効果をあげている。						
	今 後 の 課 題 ○引き続き児童館が設置されていない地区での新規開設に向けての検討が必要である。						
今後 の 取組	改 善 策 ○児童館あるいは放課後子ども教室が未設置の鳥沼地区における開設については、引き続き 地域住民、関係機関と協議を継続していく。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	学社融合推進事業						
事業の目的・概要	学校・家庭・地域社会の教育力を結びつけ、富良野市の教育の充実と活性化を目指す「学社融合」を積極的に推進し、ゆとりと潤いのある学習社会の実現を図るとともに、平成23年度より学校支援地域本部事業機能を取り込んで、地域の教育力を活性化するため地域全体で学校教育を支援していく。	事業年度	開 始		終 了		
			平成11年度 (学校支援は平成20年度～)		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
	441	356	243	282	291		
前年度の課題	○学校支援地域本部事業の学校支援ボランティアへのより多くの登録を進めるとともに、地域の教育資源をより一層有効に活用する必要がある。						
当該年度の目標	○地域の教育資源を生かした様々な学習機会の充実 ○家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備 ○学習活動を支援するための情報提供や指導、相談体制の整備						
事業の実施状況	○富良野市学社融合推進委員会 ・推進委員 22名委嘱(教頭会から推薦の幹事2名含む) ・市内小中学校における実践事例 214 事例 ・推進委員会開催 1回(6/25、2/29※悪天候により中止) ○学社融合研修会(講演会) 1/27開催 46名 会場:文化会館 演題:地域の教育力を子どもたちに ～家庭・学校・地域で子どもたちを育む～ 講師:文科省コミュニティスクール推進委員 出口寿久氏 ○学校支援ボランティアの登録数 296 名 (男性93名、女性203名) ①家庭科補助10名 ②体育補助93名 ③読み聞かせ103名 ④農園手伝い7名 ⑤環境整備20名 ⑥自然科学・歴史5名 ⑦食育5名 ⑧パソコン3名 ⑨文学・文化7名 ⑩学校行事支援10名 ⑪登下校時等の安全指導31名 ⑫その他64名 ※希望分野が複数の登録者あり						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	○学校・家庭・地域社会が一体となり、地域の教育活動を推進している。
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○学校支援地域本部事業の学校支援ボランティアへ、より多くの登録を進めるとともに、地域の教育資源をより一層有効に活用する必要がある。						
今後取り組み	改 善 策						
	○活動内容の広報活動を行うとともに、学校との情報交換等を行いながら学校支援ボランティアの登録分野の一層の活用促進と地域の教育資源の整備充実を図り、地域の教育力の向上を目指す。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課										
事務事業名	青年活動活性化事業（青年塾）												
事業の目的・概要	平成23年度に実施したアンケート調査結果（20～39歳対象）から、①出会い・交流の場 ②まちの活性化 ③ボランティア活動 ④休日・余暇活動に関して問題意識があり、同世代の交流を強く求めていることが明らかになった。 このため、青年活動（集団づくり）の活性化を図るとともに、様々な学習の機会を通し、青年集団をリードする人材育成を図る。	事業年度	開 始		終 了								
			平成24年度		継続								
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27						
—	38	48	137	196									
前年度の課題	○さらなる塾生間の交流を進めるとともに、他団体等との交流や課題解決に向けた学習機会の提供が引き続き必要である。 ○各種イベントやボランティア活動等への参加の理解を深めるとともに、企画事業への積極的参加が必要である。 ○活動内容の周知を広く行う必要がある。												
当該年度の目標	○青年の出会いと交流の場（ふらの青年塾）を引き続き開設し、自己実現を行うための課題解決に向けた学習・体験活動や広域的な交流を行う。 ○広報等を活用した活動内容の周知												
事業の実施状況	○会員数 <table border="1"> <tr> <td></td><td>会員数</td><td>男</td><td>女</td></tr> <tr> <td>H27</td><td>26名</td><td>17</td><td>9</td></tr> </table>						会員数	男	女	H27	26名	17	9
		会員数	男	女									
	H27	26名	17	9									
	○活動状況（H27）												
	区 分	事業名	回数	延人数	※開講式から定期総会へ移行								
	自主活動	青年塾定期総会	1日	14名									
	自主活動	定例会	8回	60名									
	自主活動	富良野沿線スポーツ交流会	1日	12名									
	自主活動	サンタの宅急便	1日	8名									
	自主活動	Juku-Cafe自主企画講座	5回	51名									
自主活動	各研修会の参加	2回	4名										
地域活動	フラノビ・アモール協力	4回	30名										
地域活動	ワインぶどう祭り出店協力	1日	5名										
地域活動	ふらのへそコン協力	1日	5名										
※Juku-Cafeとは塾生の交流・スキルアップを目的とした研修、講座、交流事業など。 本年度はレッツ・エンジョイ・ランニング体験、リラックスヨガ、百人一首学習などを実施。													
評価		H22	H24	H25	H26	H27	達成度・効果度の検証						
	達成度	—	B	B	B	B							
	効果度	—	B	B	B	B							
今後取り組み	今 後 の 課 題												
	○さらなる塾生間の交流を進めるとともに、他団体等との交流や課題解決やスキルアップに向けた学習機会の提供が引き続き必要である。 ○各種イベントやボランティア活動等への参加の理解を深めるとともに、企画事業への積極的参加が必要である。 ○活動内容の周知を広く行う必要がある。												
	改 善 策												
	○定例全体会議等を通じた情報交換・情報共有を行い親睦を深めるとともに、他青年活動団体等との交流を行う。 ○外部講師を含めた各種学習機会の充実を図るとともに、企画事業への積極的な参加を促す。 ○地域活動への参加及び協力の推進。 ○様々なメディアを利用した活動内容に係る広報活動を積極的に行う。												

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	成人教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	ふらの市民講座事業						
事業の 目的・概要	○多様化する学習要求に対応した講座や社会的課題に関する教室等を開設する ○中央公民館、山部公民館、東山公民館の講座を連携して、「ふらの市民講座」として開設	事業年度	開 始		終 了		
			平成16年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
		896	829	729	799	763	
前年度の 課題	○多様化する学習ニーズに応えるとともに、趣味に片寄らない講座を開設している。市民生活の視点から必要とされる現代的課題や地域課題といった市民の必要課題についての多様な学習機会の提供について引き続き検討していく必要がある。						
当該年度の 目標	○現代的課題や地域課題などの解決に向けた学習機会の充実と提供						
事業の 実施状況	○ふらの市民講座 37講座 全83回 延1,059名参加) 中央公民館 ・子ども対象～ 3講座 全16回 延217名 ・成人対象～ 13講座 全24回 延206名 ・家庭教育(親子対象)～ 4講座 全6回 延 85名 ・女性対象講座～ 1講座 全11回 延 74名 ・自主企画講座～ 4講座 全9回 延275名 山部公民館・生涯学習センター ・成人対象～ 6講座 全9回 延96名 ・家庭教育(親子対象)～ 1講座 全1回 延12名 ・全世代対象～ 4講座 全5回 延71名 東山公民館 ・成人対象～ 2講座 全2回 延23名						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	B	B	○講座終了後にアンケートを実施し、学習ニーズの把握に努めている。 ○学習した成果を地域で生かすことにより地域の教育力の向上に寄与している。
	効果度	B	B	B	B	B	
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○多様化する学習ニーズに応えるとともに、趣味に片寄らない市民生活の上で必要とされる現代的課題や地域・行政課題といった、市民の必要課題についての学習機会の提供について引き続き検討していく必要がある。						
	改 善 策						
	○市民の学習ニーズ及び現代的課題や地域課題を的確に把握し、関係部署・機関・団体等との連携をしながら、より豊かで多様性に富んだ講座を企画する。 ・現代的課題～社会生活を送る上での様々な課題の中で、特に現代に生きる市民として学んでおくべき課題 ・地域課題～「まちづくり」、「家庭や地域の教育力」などに係る課題						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	高齢者教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	ことぶき大学運営事業						
事業の目的・概要	○自らの健康に気を配り、喜びと生きがいのある人生観の確立と家庭及び社会における高齢者としての役割を認識して、これまでの豊富な経験と知識を社会に生かすとともに自らの生活向上に役立てる。 ○富良野校、山部校、東山校の3校が地域の実情に根ざした学習活動を展開している。	事業年度	開 始		終 了		
			昭和47年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
	808	1,012	982	1,012	955		
前年度の課題	○新入生の確保に様々な取組みを行っているが、入学生が減少傾向にあるので、その原因を分析するとともに、引き続き学生の確保に努める必要がある。						
当該年度の目標	○高齢者自身が学びあえる自主的な学習活動の推進 ○趣味、文化活動などのグループ、サークルの育成 ○自主的に学習する意欲を高める学習環境の整備						
事業の実施状況	○講話、クラブ学習、教科別学習など年間30日程度の学習を行う ○3校合同学習の実施：講話、運動会、主張実践発表交流会等 ○在籍者数 本 科 51名 大学院24名 研究科6名 計 81名 ・富良野校～学習日数31日 本 科 33名 大学院13名 研究科6名 計 52名 (出席率85%) ・山部校 ～学習日数30日 本 科 11名 大学院10名 研究科0名 計 21名 (出席率84%) ・東山校 ～学習日数29日 本 科 7名 大学院 1名 研究科0名 計 8名 (出席率86%)						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	B	B	○富良野校・山部校・東山校3校合同学習を行い、学習内容の統一と充実を図っている。教科学習では、専門的な講師陣による多様な学習活動を行っている。また、自主的な学習活動として、学年別研究を行っている。
	効果度	B	B	B	B	B	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○新入生の確保に様々な取組を行っているが、入学生が減少傾向にあるので、引き続き学生の確保に努める必要がある。 ○近年、個々で趣味や軽スポーツ等に親しむ傾向にあることから、楽しく魅力ある大学作りに努めるとともに、在校生による勧誘宣伝できる環境づくりが必要。						
	改 善 策						
	○ニーズを把握するために学生との話し合いを充実し、より魅力ある学習内容を検討する。 ○各メディアを利用した、ことぶき大学の活動の情報発信に努める。 ○公開学習日や学習内容の成果を発表する機会を通じ、ことぶき大学への理解を深めてもらう。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	芸術文化	担当課	社会教育課																																	
事務事業名	富良野芸術文化事業協会事業																																			
事業の目的・概要	多くの市民に優れた舞台芸術及び芸術作品の鑑賞機会を提供し、地域の文化振興に役立てる。	事業年度	開 始		終 了																															
			平成15年度		継続																															
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27																													
		1,000	1,000	1,600	587	1,000																														
前年度の課題	○様々なジャンルの優れた芸術文化作品の鑑賞機会を市民に提供し、意識の高揚と合せて、地域に根ざした芸術文化の振興を図る必要がある。																																			
当該年度の目標	○文化活動への参加促進と自主的な文化活動の支援 ○芸術文化鑑賞機会の充実と文化活動に関する市民への情報提供																																			
事業の実施状況	○鑑賞機会の提供 事業名 がーまるちょば 北海道 J A C K 2015 富良野公演 日 程 10月4日(日) 会 場 富良野文化会館 主 旨 サイレントパフォーマンスという芸術作品の公演を行い、将来を担う若年層をターゲットに若人の芸術文化に対する興味を持たせ、本市の文化振興に繋げる。 <table border="1"> <tr> <td>販売数</td><td>チケット販売</td><td>区 分</td><td>金額</td><td>枚数</td><td>金額</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td>一 般</td><td>2,000</td><td>493</td><td>986,000</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td>小中学生</td><td>1,000</td><td>191</td><td>191,000</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td>当 日 券</td><td></td><td>36</td><td>80,000</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td>720</td><td>1,257,000</td></tr> </table> 入場者 689人 総事業費 3,107,020円 【財源：市補助金、入場料収入、道文化財団etc.】						販売数	チケット販売	区 分	金額	枚数	金額			一 般	2,000	493	986,000			小中学生	1,000	191	191,000			当 日 券		36	80,000					720	1,257,000
販売数	チケット販売	区 分	金額	枚数	金額																															
		一 般	2,000	493	986,000																															
		小中学生	1,000	191	191,000																															
		当 日 券		36	80,000																															
				720	1,257,000																															
評価		H23	H24	H25	H26	H27																														
	達成度	B	B	B	B	B																														
	効果度	B	B	B	A	A																														
今後取り組み	今 後 の 課 題																																			
	○様々なジャンルの優れた芸術文化作品の鑑賞機会を市民に提供し意識の高揚と合わせて、地域に根ざした芸術文化の振興を図る必要がある。 ○芸術文化事業協会の豊富な経験と知識を取り入れ、市民ニーズに見合った鑑賞事業を組み立てていく必要がある。																																			
	改 善 策																																			
	○北海道文化財団や市内文化関係団体等との連携、情報交換、ニーズの把握等を行いながら事業展開を図るとともに、他助成制度の把握に努める。																																			

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	芸術文化	担当課	社会教育課													
事務事業名	子ども芸術鑑賞教室事業															
事業の目的・概要	児童生徒を対象に舞台芸術の鑑賞機会を提供し、情操教育と芸術文化の意識高揚を図る。	事業年度	開 始		終 了											
			昭和48年度		継続											
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27									
		910	1,050	900	1,400	1,400										
前年度の課題	○鑑賞教室終了後に児童生徒に対するアンケート調査と学校の希望等を参考にしながら演目の決定をしているが、さまざまなジャンルの分野から演目を決定する必要がある。															
当該年度の目標	○児童生徒を対象に舞台芸術の鑑賞機会を設け、情操教育と芸術文化の意識高揚を図る。															
事業の実施状況	○舞台芸術鑑賞 (小・中学生) 事業名 ジャンル: 音楽/スギテツ (ピアノ・バイオリンの演奏) 日 程 9月2日(水)・3日(木) 会 場 富良野文化会館 内 容 今年度はピアノとバイオリン奏者2名で行う「クラシックを遊ぶ音楽実験室」をテーマに、中学校までに学ぶ誰もが聞いたことのあるクラシック音楽をベースに、ピアノでは出せない音をバイオリンで演じ独自の音楽を作り上げるというユニークなステージであることから、本舞台を通して子ども達の情操教育に努める。 入場料 300円 <table border="1"> <tr> <td>入場者</td> <td>9/2</td> <td>397名</td> <td rowspan="3">市内小中学校児童生徒、教諭、保護者</td> </tr> <tr> <td></td> <td>9/3</td> <td>983名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>1,380名</td> </tr> </table> 総事業費 1,400,000円 【財源: 市補助金、入場料収入】						入場者	9/2	397名	市内小中学校児童生徒、教諭、保護者		9/3	983名	計		1,380名
入場者	9/2	397名	市内小中学校児童生徒、教諭、保護者													
	9/3	983名														
計		1,380名														
評価		H23	H24	H25	H26	H27										
	達成度	B	B	B	B	B										
	効果度	B	B	B	B	B										
今後取り組み	今 後 の 課 題															
	○学校の年間スケジュールに組み入れていく必要があることから、早めに日程を決め、学校と調整を図っていく必要がある。															
	改 善 策															
	○演目について、早々に情報収集等に努め、児童生徒のニーズ調査や学校側との協議を行い、鑑賞機会・内容の充実を図る。															

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	芸術文化	担当課	社会教育課				
事務事業名	市民総合文化祭事業						
事業の目的・概要	○郷土芸術文化の成果を広く市民に発表する場を提供するとともに、一人一文化を奨励し文化意識の高揚に努め、文化団体の交流並びに文化の振興を図る。 ○富良野会場、布部会場、山部会場、東山会場の4会場で開催	事業年度	開 始		終 了		
			昭和41年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
	462	465	311	309	325		
前年度の課題	○菊花展への出品者を増やす必要がある。 ○若い世代の参加を促すとともに鑑賞機会の充実を図る。 ○文化団体への加入促進を促し、後継者の育成を図る。						
当該年度の目標	○文化活動への参加促進と自主的な文化活動の支援 ○芸術文化鑑賞機会の充実と文化活動に関する市民への情報提供 ○地域の文化活動を推進する文化団体との連携、協力の促進						
事業の実施状況	○第50回市民総合文化祭 ・富良野会場 11/1～3 延来場者 2,260名 文化会館 作品展示 27団体7個人1,319点 芸能発表28団体1個人472名 ・布部会場 10/31 延来場者 50名 布部会館 作品展示 65点 芸能発表 30名 ・山部会場 11/1～3 延来場者 1,202名 生涯学習センター・山部福祉センター 作品展示 949点 芸能発表 49名 ・東山会場 11/2～3 延来場者 480名 東山公民館 作品展示 397点 芸能発表120名						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
今後の取り組み	達成度・効果度の検証						
	○市民の芸術文化の発表の場を提供し、文化団体間の交流や市民の文化意識の高揚に繋がっている。 ○各会場ではそれぞれ地域性を生かした文化祭を開催し地域文化の振興につながっている。						
	今 後 の 課 題 ○菊花展への出品者を増やす必要がある。 ○若い世代の参加を促すとともに鑑賞機会の充実を図る。 ○文化団体への加入促進を促し、後継者の育成を図る。						
改善策	改 善 策						
	○引き続き、菊づくり講習会を開催し、菊づくりへの理解を深めるとともに愛好者の増加を図る。 ○若い世代の市民が芸術文化に親しむ機会を拡充する。 ○生涯学習の成果を発表する場であり、地域の芸術文化に親しむ機会であることを広く市民に周知し、芸能発表・作品展示とともに多くの方が参加されるよう努めるとともに、市民の文化団体活動への理解を深める機会とする。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	芸術文化	担当課	社会教育課				
事務事業名	ふらの演劇祭事業						
事業の 目的・概要	開庁100年を機に次代に受け継ぐ事業として、過去から未来を学ぶ『演劇』を継続して実施している。 「演劇のまち」ふらの」をめざし、市民、小中学生による演劇の発表の場として開催する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成16年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
		1,400	1,900	1,600	1,600	1,600	
前年度の 課題	○希望する学校が参加しているが、数多くの学校が参加できるような体制が望ましい。 ○学校で演劇に取り組む十分な時間数の確保が困難になってきている。						
当該年度の 目標	○文化活動への参加促進と自主的な文化活動の支援 ○芸術文化鑑賞機会の充実と文化活動に関する市民への情報提供 ○演劇祭を通し、文化芸術に親しむ心と豊かな感性を育てる						
事業の 実施状況	○第13回ふらの演劇祭 (10/10～12 開催) 【10/10】 来場者 延841名 ・布部小中学校「ろくはろくでもろくでなし」 出演 16名 ・中富良野中学校3年生「Super Nakaffu Bros. (スーパー ナカフ ブラザーズ)」 出演 45名 ・麓郷中学校「RE V I V A L (再生)」 出演 6名 【10/11】 来場者 延499名 ・扇山小学校4年生「落語物語～つながり～」 出演 67名 ・東小学校4年生「宝は どこだ！」 出演 50名 【10/12】 来場者 延640名 ・ことぶき大学本科4年生「ことぶき村の大きなカブ」 出演 12名 ・市民創作劇「オモイデノワ」 出演 23名						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取 組 み	達成度・効果度の検証						
	○市民に演劇祭が広く認知されてきており、毎年参加する学校では演劇力の向上はもとよりコミュニケーション能力の向上が見られ、その演技が観客の感動を呼んでいる。						
	○本年、ことぶき大学生が初参加し、子どもから大人までの年齢構成団体となり、演劇のまちふらのとして、市民一体となった事業を展開することができた。						
	今後 今 後 の 課 題						
今後 の 取 組 み	○希望する学校が参加しているが、より多くの学校が参加できるような体制が望ましい。 ○学校で演劇に取り組む十分な時間数の確保が困難になってきている。 ○次代を担う子どもの文化芸術体験事業助成金を継続活用し、開庁100年記念事業基金の減少を抑制し、演劇祭の事業継続に努める必要がある。						
	改 善 策						
	○今後も継続して「演劇のまち“ふらの”」をめざし、継続して事業推進・振興を図る。 ○演劇指導を行っているふらの塾OBと小中学校教諭との連携を図りながら事業推進を図る。 ○演劇指導に係る事業時間の確保について、学校側で検討してもらう。 ○事業PRの充実を図る。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	芸術文化	担当課	社会教育課																					
事務事業名	舞台塾ふらの事業																							
事業の 目的・概要	舞台芸術の視野の拡大や人材の育成、幅広いネットワークの形成を促進するため、近隣市町村の関係団体と連携し、「舞台塾ふらの事業」を開催する。	事業年度	開 始		終 了																			
			平成15年度		継続																			
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27																	
		1,500	1,500	1,500	1,500	1,500																		
前年度の 課題	○北海道の負担金が年々削減傾向にあり、北海道の事業継続の決定が本事業の今後を左右する。																							
当該年度の 目標	○文化活動への参加促進と自主的な文化活動の支援 ○芸術文化鑑賞機会の充実と文化活動に関する市民への情報提供 ○演劇を通じた市民の文化に触れあう機会の創出 ○文化活動の指導者養成のための研修機会の推進																							
事業の 実施状況	○演劇創造活動事業 ・ 富良野塾OB舞台創作事業 10/16～10/25 参加者数 延130名 富良野演劇工場																							
	○演劇に親しむ機会づくり事業 ・ 富良野塾OBユニット公演2015「シコバラ」																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>会 場</th><th>日 程</th><th>入場者</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>富良野演劇工場</td><td>10/24～25</td><td>542</td></tr> <tr> <td>南富良野町保健福祉センター みなくる</td><td>11/4</td><td>88</td></tr> <tr> <td>上富良野町保健福祉総合センター かみん</td><td>11/6</td><td>258</td></tr> <tr> <td>中富良野町農村環境改善センター</td><td>11/19</td><td>248</td></tr> <tr> <td>占冠村コミュニティプラザ</td><td>11/21</td><td>95</td></tr> </tbody> </table> 延 1,231						会 場	日 程	入場者	富良野演劇工場	10/24～25	542	南富良野町保健福祉センター みなくる	11/4	88	上富良野町保健福祉総合センター かみん	11/6	258	中富良野町農村環境改善センター	11/19	248	占冠村コミュニティプラザ	11/21	95
会 場	日 程	入場者																						
富良野演劇工場	10/24～25	542																						
南富良野町保健福祉センター みなくる	11/4	88																						
上富良野町保健福祉総合センター かみん	11/6	258																						
中富良野町農村環境改善センター	11/19	248																						
占冠村コミュニティプラザ	11/21	95																						
	○次代を担う人づくり事業 ・ 演劇リハビリテーション 9/17 寿光園 120名(幼稚園児) ・ 舞台技術と演劇ワークショップ 2/17～18 富良野演劇工場 参加人数 延30名																							
評 価		H23	H24	H25	H26	H27																		
	達成度	B	B	B	B	B																		
	効果度	B	A	A	A	A																		
達成度・効果度の検証																								
○舞台芸術への理解を深める機会となっており、近隣市町村の舞台芸術に対する底辺を広げている。 ○実行委員会構成市町村(北海道、富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村)からの事業実施の期待度は大きい。																								
今後 の 取 組 み	今 後 の 課 題																							
	○北海道の負担金が年々削減傾向にあり、北海道の事業継続の決定が本事業の今後を左右する。																							
	改 善 策																							
○各種補助金の活用や事業内容の検討を行うとともに、自主財源(チケット収入)の確保の充実を図る。																								

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課				
事務事業名	スポーツ環境の整備						
事業の目的・概要	いつでも、どこでも、だれでもがスポーツに親しむことができる環境の整備を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			継続				
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
		4,882	4,104	4,807	6,967	3,091	
前年度の課題	○市民の健康維持増進を目的としたスポーツに関心を持つ中、対応すべくスポーツ推進体制強化並びに環境整備が必要。 ○NP0法人ふらの体育協会の体制強化及び自主活動並びにスポーツ推進活動が必要。 ○小中高校生のスポーツ活動が盛んなことから、競技力向上を目的とした環境整備が必要。 ○引き続き、学校屋内運動場を整備し、学校施設開放事業の推進を図る。 ○少年野球国際交流事業における招待・派遣を隔年で実現できる体制づくり。						
当該年度の目標	○四季を通じて、いつでも、どこでも、だれでもがスポーツレクリエーション活動のできる機会の提供 ○さまざまな媒体を活用した効果的なスポーツ情報の提供						
事業の実施状況	1) 第6回市民水泳記録会（富良野水泳協会委託事業） 12月6日開催 会場「ふらっと」 58名参加（女子23名・男子35名） 【園児3名・小学生51名・中学生0名・一般4名】 2) 学校施設開放事業 市内小中学校13校開放し12校利用(布礼別小学校利用団体なし) 開放日 延1,353日、利用者数 延21,272名、利用団体延 1,802団体 3) NP0法人ふらの体育協会補助 ふらの体育協会が主催するスポーツ活動等の支援（体育協会自主事業） 4) 少年野球国際交流事業 平成23年度より海外の少年野球チームとの交流を通じて、異文化の理解促進、国際交流を図り、併せて野球技術の向上を目的に実施。27年度は7/21～31まで新北市新泰国民中学校を招待する形で準備を進めてきたが、6/27に台湾新北市で発生したレジャー施設の火災事故により、I B A軟式野球国際交流協会を通じ派遣中止の申し入れがあり、止むなく中止となる。						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	A	B	
今後取組のめ	達成度・効果度の検証						
	○計画通り実践が進んでおり、NP0法人ふらの体育協会のスポーツ推進活動は広く市民に浸透しつつあり、今後益々主体的な活動が期待されている。 ○学校屋内運動場の整備が進み、充実した学校施設開放が推進されている。						
	今 後 の 課 題 ○市民の健康維持増進を目的としたスポーツに関心を持つ中、対応すべくスポーツ推進体制強化並びに環境整備が必要。 ○NP0法人ふらの体育協会の体制強化及び自主活動並びにスポーツ推進活動が必要。 ○小中高校生のスポーツ活動が盛んなことから、競技力向上を目的とした環境整備が必要。 ○本年度、少年野球国際交流事業中止となったが、招待・派遣を隔年で実現できる体制づくり。						
今後取組のめ	改 善 策						
	○生涯スポーツの振興をNP0法人ふらの体育協会と連携強化し、いつでも、どこでも、だれでもが活動できる体制を図る。 ○小中高校生のスポーツ活動促進、アスリート育成、各種競技における競技力向上に向けたスポーツ環境整備を図る。 ○少年野球国際交流事業における招待・派遣を隔年で実現できるよう今後も親交を深める。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課				
事務事業名	人材及び団体育成						
事業の目的・概要	各スポーツ団体・サークルの活性化を図るために指導者等の人材育成と各団体の育成を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			継続				
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
		828	826	951	987	1,005	
前年度の課題	○富良野市スポーツ推進委員とNP0法人ふらの体育協会との連携強化により生涯スポーツの推進を図る必要がある。 ○総合型地域スポーツクラブ並びに各地区体育振興会の活動支援を推進し、地域住民の体力増進、さらには、スポーツを通じた地域づくりの推進が必要。 ○各種団体の交流や連携により、各地区の指導者の育成を推進し、スポーツ活動等の活性化を図る必要がある。						
当該年度の目標	○生涯スポーツ振興のためのスポーツ指導者及び団体の育成 ○地域づくりを目的とした総合型地域スポーツクラブの育成支援						
事業の実施状況	1) スポーツ推進委員活動事業費 市民の健康体力づくりを目的にスポーツ推進委員を各地区に配置し、生涯スポーツの推進を図る。軽スポーツ指導普及活動(フロアカーリング・キンボール)や各種競技会の協力支援を実施。(チャレンジデー・ヘソマラソン・市民フロアカーリン大会、小学生スーパードッジボール大会等) 2) 山部体育振興会運営補助 各種スポーツ大会・ビームライフル射撃体験会実施等 3) 東山体育振興会運営支援 各種スポーツ大会の実施・樹海駅伝大会実施等 4) 麓郷スポーツクラブ運営補助 各種スポーツ大会の実施・クロスカントリースキー講習会等の実施 5) 総合型地域スポーツクラブ活動支援 麓郷スポーツクラブ(H21年度設立)、北の峰スポーツクラブ「ふらぼ」(H22年度設立)						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	A	A	
達成度・効果度の検証							
○地域スポーツ振興の促進を目的にスポーツ推進委員を配置し、軽スポーツの指導普及活動を推進している。 ○山部、東山、麓郷地区毎で各種スポーツ大会が活発に開催されており、市民の体力増進が図られている。 ○昨年、フロアカーリング協会が設立され、自ら大会を開催できる組織となりつつあり、市民の健康増進が図られてきている。							
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○富良野市スポーツ推進委員とNP0法人ふらの体育協会との連携強化により生涯スポーツの推進を図る必要がある。 ○総合型地域スポーツクラブ並びに各地区体育振興会の活動支援を推進し、地域住民の体力増進、さらには、スポーツを通じた地域づくりの推進が必要。 ○各種団体の交流や連携により、各地区の指導者の育成を推進し、スポーツ活動等の活性化を図る必要がある。						
	改 善 策						
○各種団体や各地域の主体的なスポーツ活動を活性化するため、NP0法人ふらの体育協会と富良野市スポーツ推進委員と連携をとりつつ、いつでも、どこでも、だれでもがスポーツに親しむことができる体制づくりを推進する。 ○総合型地域スポーツクラブ及び地域体育振興会等の育成充実を図るとともに、リーダー及び指導者の育成を図る。							

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課				
事務事業名	スポーツ施設の整備及び管理運営						
事業の 目的・概要	指定管理者等との連携によるスポーツ施設 管理運営を推進する。	事業年度	開 始		終 了		
			継 続				
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
68,394	65,238		58,079	66,555	64,719		
前年度の 課 題	○適正な施設管理の実施、かつ安全に施設利用ができるよう、体育施設設置者である富良野市と NP0法人ふらの体育協会並びに各指定管理者と連携を図り、体育施設を整備する必要がある。 ○屋外スポーツ施設における芝生の再生化を順次、進捗していく必要がある。 ○青少年のスポーツ活動は年々盛んになり、全道・全国大会へと出場している中、競技力向上に 向けた屋外スポーツ施設の施設整備の充実を図る必要がある。						
当該年度の 目 標	○市民ニーズに対応するための民間活力の活用と各種団体との連携による事業の展開						
事業の 実 施 状 況	1) 体育施設管理運営 富良野市スポーツ施設指定管理(NPO法人ふらの体育協会) 屋外水泳プール(山部・東山)管理運営(直営) 朝日ヶ丘運動公園広場クロスカントリーコース整備委託(富良野スキー連盟) 2) 体育施設維持管理整備事業 スポーツセンター駐車場補修工事 スポーツセンタースチーム暖房真空給水ポンプ補修 スポーツセンターアリーナ電球取替工事(5ヶ所) スポーツセンターサブアリーナ遠赤外線暖房機修理(2機) 市民球場3塁側タグアウト床改修工事 市民球場浄化槽制御盤基盤交換工事 河川ラグビー場グラウンド表層土入れ替え 河川ラグビー場ゴールポスト塗装 屋外スポーツ施設整備用(播種散布機、防腐剤散布機、肥料散布機等)機械購入 3) 有料パークゴルフ場運営管理 ・金満緑地公園パークゴルフ場指定管理(株シー・エス・ティー富良野営業所) ・東山パークゴルフ場指定管理(公益社団法人富良野市シルバー人材センター) ・山部自然公園太陽の里パークゴルフ場指定管理(山部商業協同組合)※所管:山部支所						
評 価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	A	A	A	A	A	
今 後 の 取 組 み	達 成 度 ・ 効 果 度 の 検 証						
	○各施設の指定管理者により、施設利用に伴う安全性や 施設運営の推進、更に施設利用者、市民サービスの向 上が図られている。 ○市民野球場の芝生育成に努め、良芝の再生化が図られ ているとともに、他のスポーツ施設の芝育成にも期待 できるものである。						
	今 後 の 課 題 ○適正な施設管理の実施、かつ安全に施設利用ができるよう、体育施設設置者である富良野市と NP0法人ふらの体育協会並びに各指定管理者と連携を図り、体育施設を整備する必要がある。 ○屋外スポーツ施設における芝生の再生化を順次、進捗していく必要がある。 ○青少年のスポーツ活動は年々盛んになり、全道・全国大会へと出場している中、競技力向上に 向けた屋外スポーツ施設の施設整備の充実を図る必要がある。						
改 善 策	改 善 策						
	○体育施設の計画的な施設整備を図るため、NP0法人ふらの体育協会や各施設の指定管理者と連 携を図り推進する。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課				
事務事業名	競技スポーツの育成						
事業の目的・概要	幼児から高齢者まで自ら楽しむ「実践スポーツ」、見て楽しむ「応援するスポーツ」、ボランティアで楽しむ「協力するスポーツ」を実践し、それぞれのライフステージにおいて競技スポーツの育成振興を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			継続				
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
		6,000	5,624	4,919	4,995	1,310	
前年度の課題	○競技大会公認施設の維持管理の推進。 ○競技大会開催に伴う、競技役員等ボランティアスタッフの養成確保の推進。 ○各種競技の選手育成強化と連動した各種競技大会開催の推進、並びに各種競技の指導者育成推進。						
当該年度の目標	○四季を通じて、いつでも、どこでも、だれでもがスポーツレクリエーション活動のできる機会の提供。						
事業の実施状況	1) 道知事・上川教育局長・市長杯第44回麓郷クロスカントリー大会 平成28年2月14日(日) 麓郷クロスカントリーコース 参加者143名 ※大会当日の悪天候(暴風雨)により、大会中止となる。 2) 第28回セルジュラング杯小学生ジャイアントスラローム競技大会 平成28年2月20日(土) 富良野スキー場北の峰ゾーン 参加者41名 3) ジュニアスノーフェスティバル 平成28年2月13日(土) 空知川河川運動広場 参加者45名 4) 第5回全国ママさんバレーボール冬季大会北海道予選会補助金 平成28年8月23日(日) 富良野スポーツセンター 参加15チーム200名(役員含む) 5) 第59回高松宮賜杯全日本軟式野球大会 北・北海道大会 平成27年7月10日(金)～13日(月) 富良野市民野球場・市営若葉球場外 参加)1部…14チーム275名 2部…14チーム255名 計650名(役員含む)						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
		達成度・効果度の検証					
		○富良野市の地域特性を活かした大会の開催と誘致により継続的な大会開催を実施しており、地域活性化も図られている。					
今後組の改善策	今 後 の 課 題						
	○競技大会公認施設の継続公認並びに維持管理の推進。 ○競技大会開催に伴う、競技役員等ボランティアスタッフの育成確保の推進。 ○各種競技の選手育成強化と連動した各種競技大会開催の推進、並びに各種競技の指導者育成推進。 ○子どもたちが一流選手のプレーを見たり、指導を受けたりできるスポーツ環境づくり。						
	改 善 策						
		○各種公認競技大会開催に伴う公認競技場の公認継続。 ○各種競技会開催に伴い、NPO法人ふらの体育協会の体制強化。(加盟競技団体の協力)					

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課				
事務事業名	アスリート育成派遣事業						
事業の目的・概要	子ども達のスポーツ活動が盛んとなるに従い、全道、全国、世界（国際）大会へ出場する機会が増え、市民に夢と感動を与えるとともに本市の大きな財産となっている。このため、将来のアスリートを育成するために大会派遣費の一部を補助する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成23年度		継続		
		事業費（決算） （単位：千円）	H23	H24	H25	H26	H27
		3,628	2,199	3,036	2,966	3,032	
前年度の課題	○小中高校生の各種競技スポーツ活動が盛んであり、全道・全国・世界（国際）大会等の競技会に参加する選手が数多くみられることから、競技力向上を目的としたアスリート育成派遣等スポーツ競技の環境整備が必要。						
当該年度の目標	○全道、全国、世界（国際）大会に出場する子ども達に対し、派遣費の一部を補助し、将来のアスリートを育成する。						
事業の実施状況	○全道大会 6 件 ①ファミリーカップ 全日本バレーボール小学生大会北海道大会/小学生 ②北海道ミニバスケットボール大会兼全国ミニバスケットボール大会北海道予選会/小学生 ③北海道小学生バレーボール選抜優勝大会/小学生 ④ジュニアオリンピック陸上競技大会北海道選手選考会/中学生 ⑤北海道卓球選手権大会兼全日本予選会/中学生 ⑥道新杯北海道中学選抜卓球大会（団体戦）兼全国中学選抜予選会/中学生 ○全国大会 10 件 ①全国スポーツ少年団軟式野球交流大会/小学生 ②サントリーカップ 全国小学生ラグビー選手権大会/小学生 ③全国中学生少林寺拳法大会/中学生 ④2015年少林寺拳法全国大会in京都/中・高校生 ⑤JOCジュニアオリンピック2015全日本ジュニアスキー選手権 兼全日本中学生選抜スキー大会（ノルディック）/中・高校生（2件） ⑥全日本スキー選手権大会（クロスカントリー）/高校生 ⑦FISフリースタイルカップジャパニーズ2016（アルペン系）/高校生 ⑧全日本スキー選手権大会（アルペン技術系）/高校生 ⑨全日本ジュニアスキー選手権大会アルペン競技大回転・技術系回転/高校生 ○選手強化事業 6 件 ①西日本選抜学童軟式野球倉敷大会/小学生 ②全日本選抜軟式野球選手権淡路大会/小学生（2件） ③2015U-15軟式野球アジア大会/中学生（2件） ④全国中学生軟式野球大会/中学生 ○世界（国際）大会 派遣なし						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	A	A	A	A	A	○各種競技スポーツにおいて、全道、全国、世界（国際）大会等に出場する選手の増加がみられ、今後の競技力向上が期待される。
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○小中高校生の各種競技スポーツ活動が盛んであり、全道・全国・世界（国際）大会等の競技会に参加する選手が数多くみられることから、今後も競技力向上及び経済的負担軽減を目的に本事業を継続していく必要がある。						
	改 善 策						
	○全道、全国、世界（国際）大会に出場する子ども達に対し派遣費の一部を補助し、将来のアスリート及び指導者の育成を図る。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課、学校教育課				
事務事業名	子どもスキー技術向上支援事業						
事業の目的・概要	冬期間における小中学生の体力向上、スキー技術向上のため、富良野スキー場リフト搭乗無料券を配付するとともに、小中学校のスキー授業にインストラクターを派遣し、スキー技術の向上を支援する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成23年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
14,732	7,304		7,320	7,106	6,842		
前年度の課題	○小中学生にスキー場リフト搭乗無料券を配付し、冬のスポーツに親しむ機会を保障することで、冬期間における体力増進が図られているため、継続して実施する必要がある。 ○スキー授業へのインストラクター派遣によって、児童生徒が効果的にスキー技術を身につけることができているため、継続して実施する必要がある。						
当該年度の目標	○冬期間の小中学生の体力向上、スキー技術の向上を図る。						
事業の実施状況	○富良野スキー場リフト搭乗無料券配付 ・配付～中学生 654名(対象者661名、配付率98.9%) ※H24年度より小学生のリフト無料化に伴い、中学生に対し富良野スキー場リフト搭乗無料券を配布する。 ○スキー授業インストラクター派遣(小中学校延59回派遣) ・富良野小10回、扇山小11回、東小11回、鳥沼小2回、布部小中3回、山部小3回、樹海小1回、麓郷小中4回、山部中2回、布礼別小中2回、西中7回、東中1回、樹海中2回 ・派遣インストラクター人数～延146名						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	達成度・効果度の検証 ○小中学生にスキー場リフト搭乗無料券を配付することにより、小中学生のスキー場利用が増加し、冬期間における体力増進等の向上が図られた。 また、スキー授業へのインストラクター派遣により教員の技術向上につながり、レベルに合わせた少人数指導や指導員の増による危機管理面での充実が図られた。
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○小中学生にスキー場リフト搭乗無料券を配付し、冬のスポーツに親しむ機会を保障することで、冬期間における体力増進が図られているため、継続して実施する必要がある。 ○スキー授業へのインストラクター派遣によって、児童生徒が効果的にスキー技術を身につけることができているため、継続して実施する必要がある。						
	改 善 策						
	○冬期間における小中学生の体力向上とスキー技術向上を目的とした当事業を継続して実施する。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	文化財保護	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	文化財保護啓蒙・普及活動						
事業の目的・概要	○市内外の文化財、史跡、博物館見学など文化財保護のための普及・啓発活動を推進する。 ○郷土に伝承された民俗芸能を保護し、その活動の奨励に努める。 ○民俗芸能の活動拠点施設の効果的運用を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			昭和43年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
	918	3,429	3,358	902	898		
前年度の課題	○高齢化により、富良野蒸気機関車保存会の活動が平成27年度限りで終了する予定。 ○郷土芸能保存団体の後継者の育成。						
当該年度の目標	○文化財保護のための啓蒙、普及活動の推進 ○民俗芸能、文化財保護団体の育成、指導者の養成、後継者の確保 ○民俗芸能の活動拠点施設の効果的運用						
事業の実施状況	○博物館・史跡見学会の開催～8/18 道立近代美術館「夢見るフランス絵画展」、北海道博物館他参加34名 ○埋蔵文化財保護のための事前協議・所在確認調査～道営農地整備事業扇山南地区 ○市指定文化財の保護～「富良野獅子舞」「北海道中央経緯度観測標」 「北海道大学第八農場富良野成壘記念碑」 「北海道大学第八農場山部成壘記念碑」 ※成壘記念碑については5月20日に目視による現状確認調査を実施した(説明看板の文字の薄れ) ○市費補助金～富良野獅子舞保存会 180千円、富良野弥栄太鼓保存会 344千円 山部獅子舞保存会 72千円 ○市費交付金～富良野蒸気機関車保存会225千円(保存会は平成27年度末で解散) ○郷土芸能伝習館の効果的活用～指定管理者である富良野市郷土芸能伝習館運営委員会による円滑・効果的な管理運営 (利用団体:富良野弥栄太鼓保存会、富良野獅子舞保存会)						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
今後取り組み	達成度・効果度の検証						
	○郷土の歴史・文化の理解、文化財保護思想の普及・啓発に一定の成果をあげている。 ○活動拠点の確保や財政的支援により、民俗芸能や文化遺産の保護と活動の奨励に一定の効果을あげている。 ○各保存団体の会員減少・後継者不足の解消には至っていない。						
	今 後 の 課 題 ○郷土芸能保存団体会員の高齢化と会員の減少による後継者の育成。						
今後取り組み	改 善 策						
	○蒸気機関車の維持管理を平成28年度から外部委託化する。 ○郷土芸能保存団体の伝承活動と後継者育成に対する支援を継続する。 ○各団体の活動について情報発信に努める。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	文化財保護	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	歴史的建造物魅力再発見事業（富良野市歴史的建造物調査事業）						
事業の目的・概要	○文部科学省委託事業「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」採択により市費による平成23年度からの富良野市歴史的建造物調査事業費の振替事業。 ○市内の明治末期から昭和30年代の築50年以上経過した歴史的建築物を調査し、その実態を把握・研究することで文化財の基礎資料とするとともに普及啓発事業を実施する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成25年度		平成27年度		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
	—	—	(国費) 1,918	(国費) 584	(市費) 348		
前年度の課題	○文部科学省委託事業としての本事業は平成26年度で廃止となる。 ○歴史的建造物にふれることで本市の産業や文化の歴史についての理解を深め、市民が将来のまちづくりについて考える機会となるような取組みを、関係機関の協力を得ながら行っていくことが重要である。						
当該年度の目標	○平成25年度に刊行した調査報告書「富良野の近代建築」に基づき、建造物の歴史的・文化的価値に対する理解を深めることを目的に、特別展・講演会・見学会等の普及啓発事業を実施する。						
事業の実施状況	○第28回特別展「富良野の歴史的建造物展」 7/25～9/13 観覧者1,457名 ○講演会「にぎやかで居心地の良いまちをつくる～地域遺産の活かし方」 8/29 参加者23名 ○見学会「魅力再発見！レトロ建築めぐり」（学田・布部地区） 8/8 参加者19名 ○特別展資料を活用して常設展示を入れ替えし、来館者がいつでも見学できる歴史的建造物コーナーを新設						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	達成度・効果度の検証
	達成度	—	—	A	A	A	○見学会や特別展については参加者の満足度が高く、概ね好評であった。歴史的建造物についての理解促進と興味関心の高まりはある程度得られたと思われる。 ○講演会については内容的にやや難しいものであったかもしれない。
	効果度	—	—	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○本事業は平成23年度から始まり、平成25・26年度の文部科学省委託事業の採択をはさみ、平成27年度で終了となる。 ○見学会等の教育普及活動を継続していく。 ○本事業で得られた資料や情報を今後どのように博物館活動の中に生かしていくべきか。						
	改 善 策						
	○外部の活動団体との情報交換 ○歴史的建造物の活用を目的とした情報提供 ○地域の歴史を物語る文化遺産として、歴史教育、地域おこし、活用保存に生かしていく。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	博物館	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	博物館活動推進事業						
事業の目的・概要	本市の自然、歴史、文化についての調査研究、資料の収集展示保存、啓蒙普及等の博物館活動を推進する。	事業年度	開 始		終 了		
			昭和43年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
		1,220	1,191	1,190	1,196	1,141	
前年度の課題	○市民の学習ニーズの把握に努めるとともに、本市の財産である自然や文化財をテーマにした活動を展開する中で、地域資源としての価値を再認識できるような事業を展開していく必要がある。 ○美術アート系の講座は児童生徒、また一般参加者にも引き続き好評であるので、その学習内容の工夫・多様化を図り、新たな切り口で美術の楽しさを発信できる事業に取り組む必要がある。						
当該年度の目標	○教育・普及等の博物館活動の推進 ○専門的な知識を有する人材の確保と養成及び連携協力						
事業の実施状況	○特別展・企画展等の開催 ・第28回特別展「富良野の歴史的建造物展」7/25～9/13 観覧者1,457名 ・富良野アートギャラリー絵画展「小野州一没後15周年展」4/25～6/28 観覧者2,927名 ・富良野アートギャラリー絵画展「2015COLLECTION GALLERY」11/7～3/20 観覧者1,989名 ○講演会「にぎやかで居心地の良いまちをつくる～地域遺産の活かし方」8/29 参加者23名 ○見学会「魅力再発見！レトロ建築めぐり」8/8 参加者19名 ○絵画ワークショップ「アートを楽しもう！」全4回 7/4・11/7・1/7・2/6 延77名 ○小中学校等の学習支援・出前講座 (山部小・樹海小・富良野小・扇山小・布部小・鳥沼小・富良野西中・富良野東中・富良野市教育研究会理科班及び社会科班・富良野高校・富良野看護専門学校) ○インターンシップ受入れ(富良野高校2年生1名 9/16・17、富良野東中2名 10/28・29) ○博物館資料の貸出 全10件(富良野西中・布礼別小・麓郷小・鳥沼小・暮らしステーション・富良野GROUP・STV・NHK札幌放送局 他)						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○市民の学習ニーズの把握に努めるとともに、本市の財産である自然や文化財をテーマにした活動を展開する中で、地域資源としての価値を再認識できるような事業を展開していく必要がある。 ○美術アート系の講座は学習内容の工夫・多様化を図り、新たな切り口で美術の楽しさを発信できる事業に取り組むとともに、市内の芸術家と協働しながら芸術文化の推進を図る。						
	改 善 策						
	○今後もふらの市民講座との連携を図りながら事業を実施する。 ○時代のニーズ、市民ニーズを汲み取った事業とともに、市民に伝えるべき普遍的なテーマも視野に事業展開を図る。 ○事業の事前PRや開催報告をホームページや広報紙、展示等で情報発信する。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	博物館	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	自然体験・環境学習事業						
事業の目的・概要	○自然や環境への理解を深める取り組みを推進する。 ○自然体験学習や森林を活用した事業を実施する。	事業年度	開 始		終 了		
			昭和51年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
前年度の課題	○自然体験活動を推進する人材の確保、育成に努める必要がある。 ○地域の稀少な自然のみならず身近な自然環境についてもその現状を把握し、将来的な保全・活用を図るため継続的に調査活動に取り組む必要がある。						
当該年度の目標	○自然環境についての理解を深めるため、自然観察会や自然とふれあう体験学習・環境学習を推進する。 ○身近な自然環境の調査を市民とともに実施し資料やデータの蓄積を図るとともに、人と自然の関わり方、郷土愛の高揚、自然保護思想の啓蒙を図る。 ○郷土学習資料の発行に向けて調査活動と資料収集を継続する。						
事業の実施状況	○自然観察会の開催 「富良野の自然に親しむ集い」全4回 延参加者103名 ・4/4皆既月食を見よう ・5/17バードウォッチングと春の花 ・10/4ニニウ赤岩へ〜鶴川の紅葉と地質 ・3/13冬の野山を歩こう ○自然講演会の開催 「植物たちの多様な生活史戦略」5/30 参加者20名 ○ふらの森の教室の開設 展示、自然観察ガイド ○小中学校等の環境教育への指導・協力 (山部小10回、樹海小2回) ○自然環境保全活動 「オオハンゴンソウ抜き取り作戦in鳥沼」、「山川草木を育てる集い植樹祭(清水山)」、「ヒメギフチョウ生息地(布礼別神社)の状況確認」、「太陽の里ホテルの里づくり・ヘイケボタル生息調査」 ○調査プログラムの実施 「鳥沼・生き物調査隊」全5回 延参加者80人 ○遊々の森「太陽の里・ふれあいの森」自然観察路の活用と整備(上川南部森林管理署との協定) ○東大演習林神社山自然観察路の一般公開の共催(春・秋)(東京大学北海道演習林との交流に関する協定に基づく)						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	A	A	A	○郷土の身近な自然や森林の中で自然体験活動を実施することによって、市民の環境教育に寄与している。 ○本市の自然環境を継続的に調査することで、その変化を認識し、将来的な保全や利活用に向けての基礎資料とする。
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○自然体験活動を推進する人材の確保、育成に努める必要がある。 ○地域の稀少な自然のみならず身近な自然環境についてもその現状を把握し、将来的な保全・活用を図るため継続的に調査活動に取り組む必要がある。 ○郷土学習資料として、市内の身近な自然について解説したガイドブックを整備する。						
	改 善 策						
	○地域の身近な自然環境について理解を深めるため、HP・広報紙・ガイドブック・展示・講演会等の場において、調査で得られたデータを公開・活用していく。 ○自然観察や体験の楽しさを実感できるような事業展開を図り、より多くの子どもたちや市民が身の回りの自然について考える機会を持つ。 ○市民団体等の協力を得ながら自然体験活動を推進していく。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	文化振興	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	山部菊の会補助金						
事業の 目的・概要	○「山部菊花展」開催をはじめとする、山部菊の会活動に対する補助。 ○会は昭和56年3月発足以来、品種改良等の研究、研修見学会、小学生や市民を対象とした菊づくり指導等の活動を展開している。 ○後継者の育成を目指すとともに、地域に根付いた貴重な伝統文化としての「山部菊花展」の継承・発展を図り地域の活性化に資する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成25年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
	—	—	300	300	300		
前年度の課題	○後継者の育成・確保による会の活性化と伝統技術の継承 ○生活様式や趣味の多様化による、菊づくりに対する興味の希薄さ ○栽培管理の手間の多さによる敬遠、園芸愛好家にも取り組みの広がりがみられない。						
当該年度の目標	○菊づくり体験講座の開催による伝統文化の理解促進と啓蒙普及 ○山部菊花展の安定的な継続開催 ○山部菊の会活動と後継者育成に対する支援						
事業の実施状況	○山部総合文化祭「第35回山部菊花展」の開催(11/1・2・3 出展数445点) ○ふらの市民講座「菊づくり体験講座」の開催 全4回 参加者～一般市民3名、菊花展へ出品 ※山部菊の会の事業は以下のとおり ○山部総合文化祭での「山部菊花展」の開催・出品 ○ふらの市民講座の講師 ○山部小学校の菊づくり指導、菊花展への出品 ○会員の青田見学会の開催 ○視察研修会 ○菊花資材の取りまとめ・配布 ○菊苗の配布						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	—	—	B	B	B	
	効果度	—	—	B	B	B	
達成度・効果度の検証							
○ほぼ例年どおりの事業を実施することができた。 ○地域の文化活動の一翼を担っている。 ○しかし、菊づくり体験講座の受講者はわずかであり会員も減少傾向(H24度12名・H25度10名・H26度7名・H27年度6名)、若手後継者の不在、菊花展出品数の減少など、期待する効果がなかなか上がらない状況である。							
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○会員の高齢化と後継者不足により、会の活動低下が懸念される。 ○後継者の育成・確保による会の活性化と伝統技術の継承が課題。						
	改 善 策						
○伝統文化の継承、地域の活性化及び生涯学習の取り組みとして活動の支援を継続する。 ○興味を示す園芸愛好家の市民もわずかながら存在することから、市民講座をとおして菊づくりの楽しさやノウハウを継承していく。 ○沿線の愛好家との協力関係も視野に入れた活動を模索する。							

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	森林環境教育	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	森林学習プログラム推進事業						
事業の 目的・概要	○東京大学北海道演習林の恵まれた森林資源を活用し、市内小中学生を対象に森林環境教育を推進する。 ○市第5次総合計画後期基本計画及び市総合戦略の実施事業。重要業績評価指標（KPI）森林学習プログラム参加校 15校/年（H31） ○文科省「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業委託金」（H27・28）の採択 ○森林学習プログラムの構築と森林ガイドの発掘・育成を東大演習林の監修の下、北海道教育大学旭川校の協力を得て行う。	事業年度	開 始		終 了		
			平成27年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
	—	—	—	—	(国費) 485		
前年度の 課題	【新規点検・評価事業】						
当該年度の 目標	○事業推進のための協議体を組織する。 ○森林学習プログラム（案）作成のための基礎資料を収集する。 ○森林ガイド候補者の発掘						
事業の 実施状況	○東大演習林と富良野市との交流に関する協定の再調印 平成28年1月13日 ・森林教育分野での相互協力を盛り込む ○講座の開催 ・「クリスマスかざり みんなでつくろう」12/20 参加者27名 ・「トドマツを探そう」2/20 参加者24名 ・「冬の自然観察会」3/13 参加者23名 ○「森林学習プログラム推進事業検討会議」の開催 2/25 参加者32名 ・構成団体 19団体（行政、教育委員会、市内小中学校、大学・研究機関、市民団体） ・事業概要の説明と情報共有 ○「ガイドの集い」の開催 3/27 参加者17名 ・事業概要の説明と意見交換 ○広報紙「ふらの森の教室だより」の発行 No. 1～3 ○事業方針及びプログラムの内容等に関する東大演習林との協議（随時）						
評 価		H23	H24	H25	H26	H27	達成度・効果度の検証
	達成度	—	—	—	—	B	○協定を再調印し、東大演習林の森の教育的活用の推進に向けて環境を整えることができた。 ○講座や会議等を開催し意見交換、情報の共有と収集等を行い、事業推進に向けての基礎的な体制を整えた。
	効果度	—	—	—	—	B	
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○プログラム案を北海道教育大学旭川校の協力を得て作成する。 ○プログラム案をモデル校で試行し、検討会議での意見を踏まえて改善を図る。 ○森林学習プログラムを28年度末までに完成する。 ○森林ガイド候補者を発掘し、育成のための講座や研修会を開催する。						
	改 善 策						
	○検討会議のメンバーや森林ガイドから意見を吸い上げ、事業の改善に生かしていく。 ○東大演習林との連携を密にし、事業のスムーズな推進に努める。 ○事業の進捗状況を広報紙やホームページ等を通じて市民に周知していく。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	図書館運営管理事業						
事業の 目的・概要	【目的】 図書館の維持管理と市民に対する読書活動等を通じた生涯学習の場の提供 【概要】 ○図書館の運営 開館日・時間 火～金：10時～18時 土・日：9時～17時 ○図書館利用者団体等への施設貸出 ○図書館利用促進のためのイベント主催 ○インターネット利用端末の設置（2台） ○図書館情報の提供	事業年度	開 始		終 了		
			昭和47年度		継続		
		事業費(決算) (単位：千円)	H23	H24	H25	H26	H27
	22,630	20,896	22,198	20,390	26,160		
前年度の課題	○図書館利用者団体、読書推進ボランティアの育成及び団体間連携の維持発展 ○情報化社会に対応する情報発信機能の充実 ○施設の適切な維持管理及び修繕改修による施設の管理運営						
当該年度の目標	○図書館利用者団体及び読書推進ボランティアの活動状況について、館内掲示やチラシ、図書館ホームページ、ラジオ広報等を活用して、地域住民への情報提供を行う。 ○図書館ホームページの内容等を検証し、利便性を向上させる。 ○計画的な施設修繕による、安全で快適な環境整備を行う。						
事業の実施状況	○図書館の運営 開館日数：283日 登録人数：12,889名（※累計から年度末実数に集計方法変更） 貸出人数：31,788名 貸出冊数：153,515冊 図書館利用者団体会議 2回 図書館ボランティア 登録人数35名 ○利用状況 多目的ホール及びサークル室：312回延3,802名 展示ホール：8回89日1,051名 ○図書館まつり 期間：10月3～18日・31日 来場人数：7,915名 ○暖房用ボイラー改修工事 ○インターネット予約登録人数：135名						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取組	達成度・効果度の検証						
	○登録人数は447人増加し、生涯学習の場として 市民参加・ボランティアとの協働による施設の有効活用が進んでいる。 ○インターネット予約登録人数が33人増え、利用者の利便性が向上した。						
	今 後 の 課 題 ○図書館利用者団体、読書推進ボランティアの育成及び団体間連携の維持発展 ○図書館公式ホームページの内容検証 ○施設の適切な維持管理及び修繕改修による施設の管理運営 ○利用者サービスのさらなる向上のため、開館日数と開館時間の見直し検討						
今後 の 取組	改 善 策						
	○図書館利用者団体及び読書推進ボランティアの活動状況について、館内掲示やチラシ、図書館ホームページ、ラジオ広報等を活用して、地域住民への情報提供を行う。 ○図書館ホームページの利便性を向上させるとともに、速やかな更新を行う。 ○計画的な施設修繕による、安全で快適な環境整備を行う。 ○開館日数増と開館時間延長の試行を実施する。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	図書資料整備事業						
事業の目的・概要	【目的】 地域住民の生涯学習の基礎となる図書資料の収集・提供 【概要】 ○社会情勢・利用者ニーズ・地域特性に対応した新刊書・新聞雑誌等の選択と収集 ○視聴覚ライブラリー資料の収集 （富良野地区広域教育圏振興協議会）	事業年度	開 始		終 了		
			昭和47年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
	6,035	6,582	5,588	5,562	6,702		
前年度の課題	○新鮮で適切な資料構成の維持 ○沿線市町村を始めとする、他町村図書館との連携強化 ○利用者ニーズに適合した収集内容の再整理						
当該年度の目標	○利用者のニーズに的確に応えつつ、バランスの取れた図書資料の整備を図るため、適切な更新と除籍を進める。 ○新聞データベースの導入により、利用者の調査・研究活動をサポートする。						
事業の実施状況	○登録購入書籍：一般書2,143冊、児童書931冊、雑誌1,008冊、新聞8紙 ○利用者の学習及び調査研究のための参考図書や専門的資料の収集 ○地域の郷土資料及び行政資料の収集による、地域の特色ある知的財産の蓄積 ○CDとDVDの館内視聴開始 ○北海道新聞データベースの導入 ○視聴覚ライブラリー：DVDソフト61本購入（富良野地区広域教育圏振興協議会） ○録音図書：82本購入（所蔵数486本）、大活字本：10冊購入（所蔵数669冊）						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	B	B	B	B	A	
	効果度	B	B	A	A	A	
今後取り組み	達成度・効果度の検証						
	○社会情勢・利用者ニーズを把握し、様々な図書情報を活用する中で、適切に新刊書を選択と収集を行っている。 ○録音図書や映像資料など、CDとDVDの館内視聴を開始した。						
	今 後 の 課 題 ○新鮮で適切な資料構成の維持 ○沿線市町村を始めとする、他町村図書館との連携強化 ○利用者ニーズに適合した収集内容の再整理						
今後取り組み	改 善 策						
	○利用者のニーズに的確に応えつつ、バランスの取れた図書資料の整備を図るため、適切な更新と除籍を進める。 ○録音図書や大活字本など、高齢者や障がい者に対応した図書資料の整備を進める。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	読書活動推進事業						
事業の 目的・概要	【目的】 市民の生涯学習の基礎となる図書資料及び図書情報の提供 【概要】 ○図書資料情報の多面的な提供と積極的な貸出 ○相互貸借システムの活用による他図書館との連携貸出	事業年度	開 始		終 了		
			昭和47年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
	—	—	—	—	—		
前年度の 課題	○社会の変化や利用者ニーズに対応した一層効果的な図書資料及び多様な図書情報の提供。						
当該年度の 目標	○インターネットや専門誌など様々な媒体を活用し、図書資料情報を的確に把握することにより、利用者からのリクエストなど、生涯学習ニーズに必要な図書資料を提供する。 ○相互貸借システムの活用による、他図書館との連携貸出を促進する。						
事業の 実施状況	○インターネット図書検索システム、館内テーマ展示、図書館だより、広報紙による情報提供 ○リクエスト数：4,102冊（自館窓口2,140冊＋自館web1,037冊＋他館借受925冊） ○相互貸借：他図書館からの借受925冊 他図書館への貸出392冊						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取組	達成度・効果度の検証						
	○市民一人当たりの貸出冊数は、6.32冊と高い水準にあり、利用登録者数も実数で12,889人となっている。						
	今 後 の 課 題 ○社会の変化や利用者ニーズに対応した一層効果的な図書資料及び多様な図書情報の提供。						
今後 の 取組	改 善 策 ○インターネットや専門誌など様々な媒体を活用し、図書資料情報を的確に把握することにより、利用者からのリクエストなど、生涯学習ニーズに必要な図書資料を提供する。 ○相互貸借システムの活用による、他図書館との連携貸出を促進する。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	子どもの読書推進事業						
事業の 目的・概要	【目的】 すべての子どもたちが読書に親しみ、いつでもどこでも読書できる環境づくり 【概要】 ○ブックスタート（乳児7ヶ月健診時） ○おはなし会 ○こどもの図書館まつり ○学校図書館支援 ○ブックフェスティバル	事業年度	開 始		終 了		
			昭和47年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
	385	705	670	672	734		
前年度の課題	○周産期からの読書啓蒙及び乳幼児からの読み聞かせ実践。 ○学校図書館の蔵書管理方法など、環境改善の取組。 ○学校間の児童書の共有化を進め、図書不足を解消。						
当該年度の目標	○ブックスタートなど、家庭における読書活動の推進事業を継続する。 ○ブックトラック事業の拡充など、学校図書館環境の改善に向けた活動を継続する。 ○団体貸出制度の拡充及び周知を行う。 ○「子どもの読書推進プラン【第2次計画】」を推進する。						
事業の実施状況	○ブックスタート：12回150名配布（ボランティア団体と図書館の共同実施） ○土曜日のおはなし会：12回330名（子ども159名＋保護者98名＋ボランティア73名）参加 ○えいごのおはなし会：9回254名（子ども146名＋保護者60名＋ボランティア48名）参加 ○「どんぐり」のおはなし会：42回599名（子ども241名＋保護者169名＋ボランティア189名）参加 ○子どもの図書館まつり：5月7～10日 来館者2,047名 実行委員会主催 ○学校図書館支援：ブックトラック事業 小学校8校280冊、中学校2校70冊、児童書団体貸出7,221冊、学校図書館サポートブックス3校235冊（道立図書館事業） ○ブックフェスティバル：市内小学校9校3,560冊 ○ボランティア研修会：10月17日開催 13名参加						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取組	今 後 の 課 題 ○「子どもの読書推進プラン【第2次計画】」の具体的取組。 ・家庭における読書活動の啓蒙 ・地域・図書館における読書活動の推進 ・学校図書館への支援						
	改 善 策						
	○ブックスタートなど、家庭における読書活動の推進事業を継続するとともに、1歳6カ月時にブックスタートプラス事業を開始する。 ○利用者カードの年齢制限を廃止し、0歳から発行する。 ○ブックトラック事業の拡充など、学校図書館環境の改善に向けた活動を継続する。 ○団体貸出制度の拡充及び周知を行う。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター												
事務事業名	安全安心な学校給食の提供														
事業の 目的・概要	衛生管理の徹底を図り、経年劣化した調理機器等の更新など施設設備の整備を推進するとともに、食中毒の発生や異物混入を防止し、安全で安心な学校給食の提供と、安定した給食の供給に努める。	事業年度	開 始		終 了										
					継続										
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27								
250,611	241,157		266,326	251,202	245,923										
前年度の課題	○施設は各所に経年劣化が見られ、大型機械及び厨房調理機器等も耐用年数を経過しており、突発的な故障により調理不可といった事態が懸念されることから、計画的な設備、機器の改修、更新が必要である。														
当該年度の目標	○安全・安心な学校給食の推進 ○安定した給食の供給														
事業の実施状況	○富良野市・中富良野町・占冠村の小学校17校、中学校9校に年間195回を基準として、米飯週3回、パン・麺各週1回の給食を提供 ○「学校給食衛生管理の基準」を遵守した学校給食の運営 ○学校給食献立委員会による献立内容の改善と協議(10回開催) ○調理員を対象に安全衛生管理指導の実施(1学期、2学期開始時、講師:栄養教諭) ○沿線調理員及び食品納入業者合同の衛生管理研修会実施(7/27、講師:富良野保健所) ○HPを活用した給食献立表及び使用食材産地の公表 ○施設設備及び調理機器等の整備 <table border="0" style="width:100%;"> <tr> <td>・廃水処理施設部品交換修理</td><td style="text-align:right;">3,013,200円</td></tr> <tr> <td>・食缶洗浄機部品交換修理</td><td style="text-align:right;">2,197,454円</td></tr> <tr> <td>・マイコンスライサー更新 1台</td><td style="text-align:right;">2,289,000円</td></tr> <tr> <td>・給食配送用コンテナ更新 2台</td><td style="text-align:right;">980,100円</td></tr> <tr> <td>○温度調節機能付給食配送車両更新 1台</td><td style="text-align:right;">6,730,000円</td></tr> </table>					・廃水処理施設部品交換修理	3,013,200円	・食缶洗浄機部品交換修理	2,197,454円	・マイコンスライサー更新 1台	2,289,000円	・給食配送用コンテナ更新 2台	980,100円	○温度調節機能付給食配送車両更新 1台	6,730,000円
・廃水処理施設部品交換修理	3,013,200円														
・食缶洗浄機部品交換修理	2,197,454円														
・マイコンスライサー更新 1台	2,289,000円														
・給食配送用コンテナ更新 2台	980,100円														
○温度調節機能付給食配送車両更新 1台	6,730,000円														
評価		H23	H24	H25	H26	H27	達成度・効果度の検証								
	達成度	B	B	A	A	A									
	効果度	A	A	A	A	A									
今後 の 取組	今 後 の 課 題														
	○施設は各所に経年劣化が見られ、大型機械及び厨房調理機器等も耐用年数を経過している。突発的な故障は給食提供中止を招くため、今後も計画的な設備機器の改修、更新を進める必要がある。 ○給食機器の停止や交通障害による輸送不能など、給食提供中止となった場合の代替給食の対応。														
	改 善 策														
	○安定した給食提供のため、施設設備、大型機器等の状態を把握し、計画的な更新を進める。 ○不測の事態に備えた代替食の配置等、非常時の対応を検討する。														

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター				
事務事業名	「富良野ふるさと給食」の実施						
事業の 目的・概要	地元でとれた旬の食材や特産品を子どもたちに伝え、食べ物が身近になることで「地産地消」の意味や意義を学習し、食の大切さや食材の生産・加工・流通を学ぶ機会とする。 ・地場の食材 9割使用 ・学校農園野菜の活用 ・地産地消の啓発	事業年度	開 始		終 了		
			平成16年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27
	—	—	—	—	—		
前年度の 課題	○学校行事等を考慮し、全ての学校において食することができる日程の確保。 ○多くの地場産野菜が使用できる日程の設定。 ○使用食材の確保と提供者の開拓。						
当該年度の 目標	○食の大切さや感謝する心を育む食育の推進 ○地産地消の推進						
事業の 実施状況	○9月8日～11日実施(4日) ○沿線自治体、企業、農園等の協力により地元食材を確保 ○「給食だより」による地産地消の啓発 ○ふるさと給食特別号「ふるさと給食2015 ー地域の食材で心と体を育むー」発行 ○配送市町村理事者、議員、教育関係者等の給食試食会開催 ○終了後、学校へアンケート実施						
評価		H23	H24	H25	H26	H27	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○数多くの地場産食材が使用可能な時期での学校行事等に配慮した日程の設定。 ○使用食材の確保と提供者の開拓。 ○生産者の顔が見える給食提供のための新たな取り組みの検討。						
	改 善 策						
	○協力農家等の情報収集と、生産者と児童生徒との交流機会により「顔の見える学校給食」を実施し、地域農業への理解と地産地消の意義を学ぶ機会としての充実を図る。 ○各校の行事予定等を把握し、実施日程を調整する。						

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター			
事務事業名	食に関する指導の推進					
事業の 目的・概要	学校給食を「生きた教材」として活用し、正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に付け、食事を通して自らの健康管理ができるようにする。 また、楽しい食事や給食活動を通じ豊かな心を育成する。 ・栄養教諭による食の指導 (配置校・未配置校)	事業年度	開 始		終 了	
					継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26
	—	—	—	—	—	
前年度の 課題	○食育の重要性について周知させるとともに、特に未配置校においては栄養教諭の専門性を活かし、各学校の要望に沿った取り組みを進める必要がある。 ○各学校の養護教諭等と連携を図り、食べ残しゼロ運動を含め、今後も継続して食育指導を推進する必要がある。					
当該年度の 目標	○食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける。 ○「食べ残しゼロ運動」の推進					
事業の 実施状況	○管理栄養士1名採用により指導体制を強化 ○2名の栄養教諭による食の指導 ・配置校 富良野小学校 ～ 全学年全教室で食育授業を実施 富良野西中学校 ～ 家庭科、保健体育の時間を中心に全学年指導 ・未配置校 24校の内8校で指導 (扇山小、東小、布部小、布部小、布部小、山部小、西中小、本幸小) ○社会見学における食の指導(中富小、西中小、宇文小、旭中小、本幸小、南中小) ○管理栄養士による講話実施(扇山小) ○年間指導計画作成及び給食だより発行 ○年間指導計画に基づく給食指導要領作成 ○献立委員会等との連携による献立の見直し実施 ○保護者向けの食の講話実施(山部小、布部小、市P連) ○管理栄養士と調理員による給食時学校訪問(富良野小)					
評価		H23	H24	H25	H26	H27
	達成度	B	B	B	B	A
	効果度	A	A	A	A	A
今後 の 取組	達成度・効果度の検証					
	○未配置校へは、指導依頼があった全ての学校の要望に応え、児童生徒や保護者へ指導を行った。 ○管理栄養士の採用により、効果的な指導体制の確保につながった。					
	今 後 の 課 題 ○食育の重要性について周知するとともに、栄養教諭及び管理栄養士の専門性を活かし、各学校の要望に沿った食の指導を進める必要がある。 ○各学校の養護教諭等と連携を図り、食べ残しゼロ運動を含め、今後も継続して食育指導を推進する必要がある。					
今後 の 取組	改 善 策					
	○学級担任、養護教諭、給食担当教職員と連携を図り、食に関する指導を推進する。 ○栄養教諭未配置校の食の指導は、学校からの依頼に随時対応していく。					

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター																																						
事務事業名	学校給食費の徴収																																								
事業の 目的・概要	給食費の徴収については、「児童手当」から天引きできる仕組みを活用するなど、給食費滞納の未然防止に努め、円滑な学校給食の運営を図る。	事業年度	開 始		終 了																																				
			継続																																						
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27																																		
—	—		—	—	—																																				
前年度の 課題	○高い収納率は維持しているが、同一世帯が未納を繰り返す状況もあり、引き続き学校及び構成市町村の教育委員会と連携を図り、未納防止、滞納解消に向け対策を講じる必要がある。																																								
当該年度の 目標	○給食費収納率の向上及び滞納額の圧縮																																								
事業の 実施状況	<table border="1"> <tr> <th>区 分</th><th>調定額(円)</th><th>収入済額(円)</th><th>未収入額(円)</th><th>収納率(%)</th></tr> <tr> <td>27年度給食費</td><td>142,376,195</td><td>142,197,905</td><td>178,290</td><td>99.87</td></tr> <tr> <td rowspan="3">内 訳</td><td>富良野</td><td>109,086,710</td><td>109,086,710</td><td>0</td><td>100.00</td></tr> <tr> <td>中富良野</td><td>27,102,075</td><td>26,923,785</td><td>178,290</td><td>99.34</td></tr> <tr> <td>占冠</td><td>6,187,410</td><td>6,187,410</td><td>0</td><td>100.00</td></tr> <tr> <td>過年度給食費</td><td>636,187</td><td>234,918</td><td>401,269</td><td>36.93</td></tr> <tr> <td>合 計</td><td>143,012,382</td><td>142,432,823</td><td>579,559</td><td>—</td></tr> </table>					区 分	調定額(円)	収入済額(円)	未収入額(円)	収納率(%)	27年度給食費	142,376,195	142,197,905	178,290	99.87	内 訳	富良野	109,086,710	109,086,710	0	100.00	中富良野	27,102,075	26,923,785	178,290	99.34	占冠	6,187,410	6,187,410	0	100.00	過年度給食費	636,187	234,918	401,269	36.93	合 計	143,012,382	142,432,823	579,559	—
	区 分	調定額(円)	収入済額(円)	未収入額(円)	収納率(%)																																				
27年度給食費	142,376,195	142,197,905	178,290	99.87																																					
内 訳	富良野	109,086,710	109,086,710	0	100.00																																				
	中富良野	27,102,075	26,923,785	178,290	99.34																																				
	占冠	6,187,410	6,187,410	0	100.00																																				
過年度給食費	636,187	234,918	401,269	36.93																																					
合 計	143,012,382	142,432,823	579,559	—																																					
「児童手当」からの天引き申出額 2件 151,918円																																									
評 価	達成度・効果度の検証																																								
	達成度	A	A	A	A	○学校と連携を図り、高い徴収率が維持できた。 ○滞納分は、電話や文書督促、夜間訪問徴収を行い、分割納付や児童手当からの天引き徴収など滞納解消に努めた。																																			
	効果度	A	A	A	A																																				
今後 の 取 組 み	今 後 の 課 題																																								
	○高い収納率は維持しているが、同一世帯が未納を繰り返す状況は変わらず、引き続き学校及び構成市町村の教育委員会と連携を図り、未納防止、滞納解消に向けた対策が必要。																																								
今 後 の 取 組 み	改 善 策																																								
	○滞納者への定期的な支払督促と、学校及び構成市町村の教育委員会との連携により家庭状況等を把握し、「児童手当」からの天引き徴収への理解を求めるなど、滞納の未然防止に努める。																																								

平成27年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター					
事務事業名	食物アレルギーの対応							
事業の 目的・概要	食物アレルギーを有する児童生徒が、他の児童生徒と同様に学校給食を楽しむことができるよう安全性を確保する。	事業年度	開 始		終 了			
			平成23年度		継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H23	H24	H25	H26	H27	
—	—		—	—	—			
前年度の 課 題	【新規点検・評価事業】							
当該年度の 目 標	○食物アレルギーへの正しい理解と、学校、保護者との情報共有 ○安全安心な学校給食の提供							
事業の 実施状況	○献立表に使用する食材を詳細に記載するとともに、アレルゲンとなる食材をマーキング表示し、学校及び該当する児童生徒の家庭へ事前に配布。それを基に保護者や担任の指示若しくは各自の判断で原因食材を除去する。 ○除去が困難な場合は、代替食として家庭から弁当持参。 ○牛乳アレルギー及び乳糖不耐症の児童生徒の希望者に対し、代替飲料として麦茶を提供。誤配防止のため、2学期より学校名、学年、該当者氏名を麦茶の側面に貼付し配送。 ・ H27年度末代替飲料提供者数 23名							
評 価		H23	H24	H25	H26	H27	達成度・効果度の検証	
	達成度	—	—	—	—	B		○詳細な献立表の配布により、各自が除去すべき原因食品を把握することができた。 ○代替飲料に名前を貼付することにより、誤配防止につながった。
	効果度	—	—	—	—	B		
今後 の 取組	今 後 の 課 題							
	○食物アレルギー対応の明確な基準、基本的な方針の策定。 ○学校、保護者、給食センターでの食物アレルギーに対する共通認識と情報の共有。							
	改 善 策							
	○給食の提供は安全性を最優先に、現施設で可能なアレルギー対応について方針を明確にするとともに、食物アレルギーを有する児童生徒の状態の把握に努める。							



IV 平成27年度 学校第三者評価

学校自己評価及び学校関係者評価並びに学校訪問等に基づき、各委員から出された項目に対する意見をまとめたものです。

なお、自己評価値は、評価基準を「4：実践が進み成果を上げている 3：実践が進んでいる 2：実践につとめている 1：努力を要する」の4段階とし、各学校において評価した自己評価値の全学校の平均値を記載している。

観	点	自己評価【平均】 ()は前年度
---	---	---------------------

《評価領域：組織運営等の状況》 ＜項目：学校の組織運営の状況＞		
1	職員会議等が学校運営において有効に機能しているか	4. 0 (3.9)
各学校の 取組状況	・議題の確認を2週間以上前から行うことで、各分掌、学年で十分に議論を重ねて提案されている。議題の事前配付が、スムーズな会議の運営に貢献している。 ・校長の経営方針や重点目標等を具現化する場として、また、それらの共通理解を図る場として有効に機能している。 ・各分掌や学年で練られた議題について、さらに全教職員による活発な協議がなされ、円滑な学校運営に有効に機能している。 ・各分掌の年間計画をもとに職員会議計画を作成し、計画的に効率の良い提案が行われている。 ・勤務時間管理や研修等の承認、サービスの管理等が適切に行われている。 ・校長による学校経営方針等の意思伝達等の機能を有効に果たしている。 ・前年度の反省を活かして質の高い提案になるように努めている。また、議題を事前に周知し各分掌で十分に検討する時間を確保すること、議事の前日配布することを実施している。	
評価委員 の意見	・職員会議が、教職員の情報を共有する場であることを意識する必要がある。 ・事前の議題確認、議題の事前配付が議論を深めることにつながっているようです。今後とも継続して取り組んでいただきたい。	
2	勤務時間管理や職専免研修の承認状況等、サービス管理が適切に行われているか	3. 9 (3.8)
各学校の 取組状況	・職員会議や打合せなどの機会を利用して管理職がサービス規律について細かく説明するなど研修を進めた結果、教職員の意識が変わってきた。 ・休暇処理簿、旅行命令簿等の手続きをその都度処置するようにしている。 ・サービス規律違反の実例を示すことなどで、教職員の意識を高めるように努めている。 ・長期休業等の勤務管理を適切に行い、勤務時間縮減に取り組んでいる。 ・管理職の適正な指導助言のもと行われている。 ・教職員の共通理解のもと適切に行い、記録管理システムで正確に管理している。 ・動静が明らかになった時点で教頭に連絡・相談する体制になっている。サービス管理については、資料の配布や日報に短信を書いたりしながら指導している。	
評価委員 の意見	・サービス規律の保持に向けて、情報の共有がし易い職場の雰囲気づくりを工夫する必要がある。 ・サービス規律をしっかりと守るためにも、定期的、継続的な指導が必要と思われます。	

《評価領域：組織運営等の状況》		
＜項目：学校と設置者の連携の状況＞		
1	設置者の示す明確な教育方針等に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の学校運営を行っているか	3. 9 (3.9)
各学校の取組状況	・富良野市の教育方針（中期計画）に沿った学校運営に努めている。 ・富良野市の教育方針を受け、地域環境なども考慮しながら、学校の教育目標を設定し、取組に活かしている。 ・市の学校教育推進計画と学校教育目標・年度の重点目標をしっかりと結びつけ、教育活動を推進している。 ・富良野市の示す重点目標に基づいて、教育目標・学校経営方針を設定し、それを具体化する教育活動を行っている。	
評価委員の意見	・各小中学校が「富良野市教育行政執行方針」、「学校教育中期計画」などの実現をめざして教育を推進している。 ・各学校において、富良野市 ZERO 運動の理念を推進され、望ましい姿で進められている。 ・市の教育方針と学校の教育目標がしっかりと教育活動が行われている。	
2	学校と設置者が、児童生徒の状況や安全管理等に関する情報を適切に共有しているか	4. 0 (4.0)
各学校の取組状況	・細かな情報でも相互で連絡を密に取り合い共有し指導に生かされている。 ・いじめの実態調査、防災教育調査や危機管理マニュアルなどを通じて情報を共有している。 ・教職員の共通理解のもと適切に行い、記録管理システムで正確に管理している。 ・情報を正確に捉え、把握した情報は教育委員会と共有し、連携をとり適切に対応している。 ・校内の情報はもとより、子どもネットワーク会議で得た地域の情報についても「報連相」の対応を素早く行うよう努めている。	
評価委員の意見	・不審者出没事案など、各学校では迅速に対応されていると見受けられる。事件事故に遭遇しない心構えを、各機関の協力を得て指導することも必要と思われる。 ・今後も、地域との連携を図りながら、情報の共有に努めてほしい。	

《評価領域：組織運営等の状況》		
＜項目：目標設定と自己評価の状況＞		
1	学校の状況を踏まえ重点化された中・短期の目標が具体的に設定されているか	3. 9 (3.7)
各学校の取組状況	・学校評価の中間評価を実施し、具体的に設定された中・短期の目標を評価しながら進めることができた。 ・全国学力・学習状況調査の結果分析から学校改善プランを作成し、具体策を示して教育活動を推進している。 ・学校教育目標、年度の重点目標を市教委の示す重点目標に照らして設定し教職員の十分な理解のもと教育活動を進めている。 ・前年度の学校評価の成果と課題を踏まえて学校改善プランを作成し、目標を具体的に設定し教育活動を進めている。 ・昨年度の反省をもとに、年度の重点目標の設定の他に学力向上については前期目標を設定して取り組むよう努めた。	
評価委員の意見	・各小中学校が「学校教育中期計画」の基本理念をもとに、望ましい形で学校教育が推進されている。	

2	自己評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか	3. 8 (3. 7)
各学校の 取組状況	・教職員の評価・保護者評価・児童アンケートの結果を基にした学校評価を行い、改善点と対策について明確にしている。 ・教職員や生徒・保護者への自己評価結果を学校評価委員会及び学校関係者評価委員会で検討し、次年度の計画に反映させている。	
評価委員 の意見	・自己評価後の課題については、その解決に向けた具体策を年度内に提示することが大切である。 ・各学校において、自己評価の結果から学校第三者評価が実施されている。	
3	外部アンケート等を実施し、自己評価を行う上での参考としているか	3. 8 (3. 8)
各学校の 取組状況	・保護者・生徒・教職員共通の視点でアンケートを実施して自己評価の信頼性を高めている。 ・年に2度保護者や児童アンケートを実施し、その結果を職員会議で共有し、自己評価を行う際の参考としている。 ・学校経営・各部会・各分掌において保護者・児童生徒アンケートの分析結果を参考にし、評価を行っている。その中で、保護者・児童生徒アンケートと自己評価の相違点を分析し、学校運営の改善に反映させている。	
評価委員 の意見	・保護者、児童アンケートをもとに、今後も学校運営の改善に生かしてほしい。	

《評価領域：組織運営等の状況》

＜項目：学校関係者評価の状況＞

1	学校関係者評価が自己評価の結果を踏まえて実施されているか	3. 8 (3. 8)
各学校の 取組状況	・学校関係者評価委員会を近隣の小学校とともに実施し、幅広い意見を聞いている。 ・自己評価結果と考察を学校関係者評価委員に提示し、評価を受け、学校改善に生かしている。 ・自己評価をもとに学校関係者による評価を実施し、学校改善に生かしている。 ・自己評価結果をもとに学校関係者評価委員会を開催し、改善策の適切さについて評価・意見をいただいている。	
2	学校関係者評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか	3. 8 (3. 8)
各学校の 取組状況	・学校関係者評価委員の方から概ねよい評価を得、また多くの意見をいただくことができた。 ・学校関係者による評価結果及び意見をもとに、具体的な学校改善に生かしている。 ・運動会や学校祭などの学校行事や参観日の際に学校関係者評価委員の方々が多く来校されるので、生徒たちの育ちを公開でき、多くの意見をいただけることが改善に役立っている。 ・地域の生徒の状況等をよく理解している学校関係者評価委員の方々の意見を真摯に受け止め、活用を図っている。 ・学校関係者評価委員にたくさんの意見をいただき、「家庭学習」や「基本的生活」等の各習慣の定着を図ることができた。	
評価委員 の意見	・学校関係者評価のマネリ化を防ぐために、評価項目の重点化を図る必要がある。 ・学校運営に学校関係者評価の意見が十分に生かされ、改善されていることが伺える。	

《評価領域：組織運営等の状況》		
＜項目：教育課程等の状況＞		
1	学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか	3. 8 (3. 8)
各学校の取組状況	・地域や学校の実情に応じて特色ある教育課程を編成・実施している。目標達成に向け全教職員で共通理解のもとに進めている。 ・本校の教育目標達成に向け、教育課程が編成・実施されている。また、常に確認・点検することにより、職員間で共通理解を深めてきた。 ・教育課程編成委員会を組織し、校内研修や授業研究、管理職の授業参観等多様な方法を活用し、教育課程の編成、実施、評価、改善に努めている。 ・本校の教育目標を踏まえ、今年は「感動」というキーワードのもと教育課程が編成・実施され、職員会議等で熟議され、教職員間に共通理解が深められた。 ・教育課程編成委員会の中で十分に議論し、職員会議や校内研修の中で遺漏のない教育課程の編成、実施に努めている。 ・教育目標の具現化に向けて教育課程を編成し、新年度には職員会議等で全職員の共通理解を図っている。	
2	各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動の年間指導計画や週案などが適切に作成されているか、また指導体制が整備され、授業時数の配当が適切に行われているか	4. 0 (3. 9)
各学校の取組状況	・学習指導要領に示された時数を基準に年間指導計画を作成している。特に、道徳や特別活動については、学年会議の中で、十分な検討の上実施されている。 ・全体計画・年間指導計画等が教務の指導のもと適切に作成され、授業時数も週単位で集計され、計画に沿って配当が適切に行われている。 ・授業時数も若干の余裕をもって実施している。実施可能な範囲で、児童の実態に応じた少人数指導にも取り組んでいる。 ・年間指導計画や週案は適切に作成され、特に授業時数の確保（進行管理）については教務部を中心に適切に行われている。 ・特別支援教育支援員の活用や各学級への全職員による複数指導により、基礎的基本的な内容の確実な定着・意欲の向上を図る指導体制が整備されている。	

《評価領域：組織運営等の状況》		
＜項目：授業の状況＞		
1	体験的な学習や問題解決的な学習、児童生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が適切に行われているか	3. 8 (3. 8)
各学校の取組状況	・地域の教育資源の教材化をすすめ、体験的な学習や問題解決的な学習等を取り入れ児童が学習意欲をもち主体的な学習が行える指導を進めている。 ・数学科と英語科においてティームティーチング、理科と社会科において問題解決的な学習、総合的な学習や特別活動においては体験的な学習を行っている。 ・小規模校の特性を生かし、個に応じた問題解決的な学習が進められた。また、小中の交流学习等を通して、児童生徒に興味・関心を持たせることもできた。 ・TTを活用した習熟度別学習や理科・社会科での体験的な学習や問題解決的な学習を適切に行っている。 ・地域人材や地域の環境を有効に生かして教育活動を実施してきた。地域の自然や産業を調査する活動を総合的な学習の時間等で行っている。	
評価委員の意見	・学力向上の取り組みについては、児童生徒の客観的資料をもとに、望ましい形で実践が進んでいる。	

	・地域の人材、環境を有効に生かし、今後もつながりを持って継続し、また、長期休業中の児童生徒への方策として、学習のみならず体験や体力向上などの目的をもって取り組んでもらいたい。	
2	視聴覚教材や教育機器、コンピューターや情報通信ネットワーク、電子黒板などを効果的に活用した授業が行われているか	3. 7 (3.8)
各学校の取組状況	・技術科を中心にコンピューター、情報通信ネットワークを効果的に活用した授業を行っている。また、理科や体育においてもデジタル画像を有効に活用した授業が行われている。 ・各学級に配備された電子黒板や教材提示装置、iPad 等、それぞれの機器の有用性を生かし、積極的に活用している。 ・それぞれの機器の有用性を生かし、理科や総合的な活動を中心に活用した。 ・児童生徒が視覚的に捉えることができ、理解の深まりに繋がっている。iPad のアプリを購入し効果的な活用を実践している。 ・ipad や電子黒板、デジタル教科書などを有効に活用し効果的に教育活動を実施した。 ・実物投影機は日常的に活用が図られており、ノート指導はもちろん、手元での作業や資料提示等で効果的である。また、視聴覚教材、PC、タブレット端末など工夫しながら活用している。	
評価委員の意見	・各学校における教員の ICT 利活用については、望ましい傾向にあるが、授業における効果的な活用については、組織的、継続的な研修が必要である。 ・教職員が ICT などの教育機器を活用して、昔の状況を視覚で理解させる授業の取り組みに感動した。 ・各学校で大いに活用されているのがわかった。今後も有効に活用すべきである。	

《評価領域：組織運営等の状況》 ＜項目：特別支援教育の状況＞		
1	特別な支援を必要とする児童生徒について、個別の指導計画や個別の教育支援計画が適切に作成されているか	3. 7 (3.8)
各学校の取組状況	・個別のニーズ、将来を見通した支援計画を作成し、指導に努めている。新たなニーズが増えてきていることを踏まえ、一層の充実した指導を志向している。 ・特別支援コーディネーターを中心に児童や保護者のニーズに合った個別の指導計画を作成し、週1回の特別支援打合せで進捗状況を適切に確認している。 ・個別の教育支援計画や個別の指導計画を校内支援委員会で検討・作成し、実践を進めている。また、月1回の「実態交流」で特別な支援を必要とする児童について、全教職員で共通理解を図っている。 ・通常学級に在籍する特別な支援を要する児童を含めて、個別の支援計画を整備し、個に応じた支援を行ってきている。	
評価委員の意見	・特別な支援を必要とする児童生徒が増加しているので、富良野市としての特別支援教育のさらなる充実が必要である。 ・これからも、特別支援を必要とする児童生徒が増えてくるとされる。個別の対応はもちろんのこと、今後も指導する側の研修や情報共有に努めてほしい。	

《評価領域：組織運営等の状況》		
＜項目：教職員の研修の状況＞		
1	授業研究を全教員が行うことや、授業研究を継続的に実施することなどを通じ、授業改善に全校的に取り組んでいるか	3. 9 (3.8)
各学校の取組状況	・全教職員が授業公開をする授業研究に取り組み、教育実践研究発表会で外部の方からの評価や助言をもらい、研修を深めた。日々の実践にも生かす工夫に努力している。 ・研究部が中心となり、授業中心の研究が実施できた。全教員で授業公開を行い、授業改善に努めた。 ・学習指導における研究主題を設定し、その主題の解決に向け継続して進められている一人一授業研究等、意欲的に取り組んでいる。 ・授業研究や参観日などで計画的に授業を公開し、授業力向上を図る研修を中学校と連携を図りながら行っている。	
評価委員の意見	・校区の小中学校が連携、協力して学校間交流を深め、それを授業研究に生かすことが必要である。	

《評価領域：指導・管理の状況》		
＜項目：生徒指導＞		
1	生徒指導のための教育相談が計画的に行われているか	3. 9 (3.9)
各学校の取組状況	・定期の相談に加え、随時の教育相談の実施も進めている。さらには、相談員による教育相談との連携も進んできている。 ・日常的な児童観察に努め、年3回の教育相談週間を設け、予防的生徒指導を心掛けている。 ・定期的な教育相談とあわせ児童生徒からの要望があったときや、普段の児童生徒の観察の中で教師側から声をかけ教育相談を実施し、メンタル面でのサポート強化に努めた。 ・毎月の生活目標反省（含むいじめアンケート）や教育相談、QU検査などを計画的に実施したり、家庭訪問を行ったりして児童理解を深めている。 ・全児童を対象とした教育相談をアンケートと併せて年間3回実施、また、児童の実態把握と指導の徹底をねらいとした月例会と連携させながら効果的な取組となっている。	
2	スクールカウンセラーなどの外部人材が活用されているか	3. 6 (3.5)
各学校の取組状況	・児童とともに保護者も含めた活用を進めている。その効果も大きい。 ・スクールカウンセラーは月に2回、生徒、保護者、教職員のカウンセリングに当たっており、回数は少ないが効果的に活用している。 ・スクールカウンセラーについては、生徒・保護者・担任の三者がそれぞれの立場で効果的に活用している。また、家庭に係わる問題については、未来課との連絡を密にしている。 ・特別支援コーディネーターが外部との窓口になり、連携を図り活用している。 ・不登校の生徒に対しマイクラスと連携をとり、学習指導や体験的活動を実践した。 ・機会がある毎にスクールカウンセラーやSSWに来校いただく体制ができている。また、関係機関との連携を進めながら生徒指導を行っている。 ・毎週1回スクールカウンセラーが来校し、日常的な悩みや不登校やいじめを訴えたきた児童及び保護者に対し、カウンセリングを行っている。 ・スクールカウンセラーの活用はないが、地域の施設や市教委との連携を図って児童の心身のケアを行っている。	
評価委員の意見	・スクールカウンセラー活用事業については、年々効果が上がっているので、今後も継続して欲しい。	

《評価領域：指導・管理の状況》		
＜項目：児童生徒の人格的発達の状況＞		
1	相手の人格を尊重し、豊かな人間関係を構築できる児童生徒を育成するための指導を行っているか	3. 8 (3. 8)
各学校の取組状況	・温かな人間関係を基盤とした教師の指導とともに、児童会の「いじめゼロスマイル宣言」の取組を進めている。平成28年度に向けての発展した取組を志向している。 ・道徳の時間の充実や参観日での道徳の公開授業、「私たちの道徳」を効果的に活用し、道徳資料・教材の開発に努めている。また、実態交流や学級経営交流会などあらゆる機会に児童理解を図っている。 ・Q-Uを活用し、人間関係力の育成を図っている。また、豊かな人間関係を築く指導も行っている。 ・学年の実態に応じ、全教育活動を通じて道徳の時間に相手の人格を尊重し豊かな人間関係をつくれる生徒を育てる指導を行っている。また道徳を参観授業として積極的にやっている。 ・ZERO運動を中心に継続して取り組んでいる。 ・ボランティア活動・読書活動・日常の教育活動・道徳の授業の充実に努めた。参観日で道徳の授業を積極的に公開している。 ・学級会や朝会、各委員会で相手を思いやることのできる指導や取組を実施し、成果を上げつつある。	
評価委員の意見	・特に、パソコンや携帯電話について、専門機関と連携した取り組みが急務である。 ・豊かな人間関係を築くためにも、コミュニケーション能力向上に努めてほしい。 ・道徳の授業を通して心と体を含めたバランスの良い授業を行ってほしい。	

《評価領域：指導・管理の状況》		
＜項目：保健管理の状況＞		
1	日常の健康観察や、疾病予防、児童生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断が適切に実施されているか	3. 8 (3. 8)
各学校の取組状況	・養護教諭を中心に計画的に健康診断を適切に実施している。担任・副担任の日常の健康観察、保健だよりを生かした疾病予防等に取り組んでいる。 ・学級担任の日常の取組とともに、養護教諭が中心となり熱意をもって計画的な実施を進めている。 ・計画的に健康診断が行われている。また、保健だよりなどを生かして家庭との連携に取り組んでいる。 ・養護教諭と担任が密に連携を図り、自己の健康管理能力向上のための保健指導を行っている。	
評価委員の意見	・「心の教育」と関連付けて取り組む必要がある。	

《評価領域：指導・管理の状況》		
＜項目：安全管理＞		
1	学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか	3. 6 (3. 8)
各学校の取組状況	・危機管理マニュアルの整備・活用と防犯カメラの活用により、緊急事態に対応できる体制づくりと危機管理意識の向上に努めている。 ・校区内の安全マップと危機管理マニュアルは毎年見直しを行い、活用に努めている。	

	・従来のマニュアルをもとに教職員の共通理解を深めている。また消防・警察と連携した訓練を実施し、マニュアルの改善を図るとともに、食物アレルギーなど新たな内容の整備を行った。 ・危機管理マニュアルも作成し、全職員共通理解のもと行われている。また、地域と協力し、安全教育の推進とともに事故防止に努めた。 ・市中心部から離れていて、安全管理の危機意識が低調傾向であるが、改善に向け、危機管理マニュアルを生徒指導部が見直し等取り組んでいる。
評価委員の意見	・社会の変化に対応した危機管理マニュアルの点検、見直しが必要である。 ・危機管理に係る実践を、あらゆる事案を想定した訓練、教育が必要である。 ・危機管理に係る実践を想定した訓練は定期的に行うべきである。 ・地域の方々にも児童生徒の見守りのために、情報や協力も必要である。

≪評価領域：指導・管理の状況≫ <項目：進路指導（キャリア教育）の状況>		
1	児童生徒の将来の夢や希望を育み、学ぶことや働くことの意義など適切な勤労観や職業観を育てるための指導を行っているか	3. 2 (3.2)
各学校の取組状況	・学習指導にもキャリア教育の視点を重視し、体験的な学習や問題解決的な学習、地域の指導者の協力を得た活動、マイノートの活用検討等を進めている。 ・総合的な学習の時間を核として、各学年キャリア教育の時間を確保し適切な勤労観や職業観を育む指導を行った。 ・学年の発達段階を意識して職業体験等、進路や生き方につながるキャリア教育を実施している。また、ふるさとキャリア教育推進事業のもと小中高の連携をとおした実践を展開している。 ・キャリア教育の全体計画は作成しているが、教員間の連携のとれた職業観や勤労意欲の向上に向けた更なる指導改善が必要である。 ・マイノートを年間計画に組み込んで利用している。低学年のうちから勤労体験を積むことにより、働くことの意義を理解させようとしている。 ・小中の連携のとれたキャリア教育の全体計画の作成し、職業観や勤労意欲の向上に向けた効果的指導の改善を図った。 ・キャリア教育の全体計画に基づき、各教科や領域等でキャリア教育の視点を意識した実践に取り組んでいる。また、マイノートを参考に自校バージョンを作成して活用したり、自己肯定感・自己有用感のもてる指導を進めるよう共通理解を図っている。	
評価委員の意見	・富良野市総合戦略にある、将来、「ふるさと富良野」に心が向く、小中高一貫したキャリア教育の推進及び人材育成は、今後、計画的に実践していく必要がある。 ・保護者を招いて勤労観や職業観を育てるべく講話をしてもらい、今後、将来の夢につなげられるような学習活動を進めてほしい。	

≪評価領域：家庭と地域との連携協力の状況≫ <項目：学校に対する児童生徒・保護者の意見・要望等の状況>		
1	児童生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握し、適切に対応しているか	3. 7 (3.6)
各学校の取組状況	・各行事、懇談、PTA 行事等あらゆる機会を捉え、生徒や保護者の学校への要望を把握し、学校運営の改善に努めた。 ・通信や参観日の懇談のほか、家庭訪問や電話により連絡を密に取り合い、早急で適切な対応に努めている。	

	・学校行事や参観日・アンケート等を通して、生徒や保護者の意見や要望に耳を傾け、学校運営の改善に努めた。
評価委員の意見	・児童、生徒の挨拶を含め、教職員が地域に対しての貢献と地域と共に進む教育が垣間見られる。

《評価領域：家庭と地域との連携協力の状況》		
＜項目：学校に関する情報提供＞		
1	学校だよりや学級だよりの発行など、主として保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか	3. 9 (3. 8)
各学校の取組状況	・学級通信を保護者、学校だより等を地域に広く公表し、学校の教育方針、生徒の様子、担任の教育への情熱を適切に伝えた。 ・保護者の知りたい情報に対応するために内容を吟味し、学校便りを定期的に発行し、また Facebook を活用し学校の情報公開を行っている。 ・学年・学級だよりを随時発行し、保護者に学校の様子を知らせている他、月 1 回学校便りを発行し、学校の教育方針や学校全体の動きを適切に伝えている。	
評価委員の意見	・学校だよりを地域に浸透させるためには、さらなる創意工夫が必要である。 ・学校だより、PTA 通信を地域へ発行していただくことで、学校の様子や学校長の経営方針が地域でも理解できる。 ・学校について、地域の方々に理解してもらうためにも、毎月の学校だよりなどの情報提供は必要である。また、校長先生の学校や児童生徒への思いも良く伝わってくる。	
2	ホームページの活用をはじめ、広く地域住民等に学校に関する情報を提供するための取組を行っているか	3. 4 (3. 4)
各学校の取組状況	・学校だよりやPTA総会の資料等、自治会や町内会の協力のもと、地域住民にも配布しているほか、地区教育懇談会を開催し取り組んでいる。 ・Facebook を開設し教育活動や学校の特徴、小規模校ならではの手厚い個別指導など、常に新しい学校の情報の提供に努めている。 ・HP を開設しスクールカレンダーや行事予定等を公開している。まち comi メールも活用して保護者に、不審者情報等を積極的に配信し、注意を喚起している。 ・学校だよりやPTA総会の資料等、自治会や町内会の協力のもと、地域住民にも配布しているほか、地区教育懇談会を開催し取り組んでいる。 ・ホームページは少し遅れたが更新し、最新版になるよう努めた。また、保護者に配布した本校の改善プラン（マニフェスト）も掲載しながら、地域全体にも理解していただけるよう努めてきた。	
評価委員の意見	・素早い危険情報発信のためにも、まち comi メールは活用すべきである。	

《評価領域：家庭と地域との連携協力の状況》		
＜項目：保護者・地域社会との連携の状況＞		
1	授業や教材の開発に地域の教育資源（人・物・自然など）を活用し、より良いものとする取組を行っているか	3. 8 (3. 8)
各学校の取組状況	・総合的な学習の時間で1年は富良野ウォーカー「職業調べ」2年は「職場体験学習」で地域を交流し人材活用に努めることができた。 ・富良野自然塾体験などをはじめ、各教科・道徳・総合的な活動の時間で地域の教育資源を教育	

	課程に位置づけ、活用し効果を上げている。 ・地域ふれあい祭りや高齢者との交流、職場体験学習等を通じて、教育活動に地域の教育資源を積極的に活用している。 ・富良野自然塾、地域の指導者との協働を志向した授業実践を進めている。また、学校ビオトープなどで身近な自然の活用も志向している。 ・各教科において、地域を活かした教育活動を展開している。特に寿光園訪問など、地域の教育資源を積極的に活用している。
評価委員 の意見	・富良野市総合戦略にある、地域資源を活用した学校教育を、積極的に実践している。 ・小規模校、大規模校の特徴を生かした、特色ある児童、生徒のための学校経営を推進していただきたい。 ・地域の方々の協力を得ながら、富良野市の特色を生かし教育資源の活用をした取り組みを今後進めてほしい。

V 教育行政評価委員会の開催について

1、教育行政評価委員会

教育行政評価委員会は、委員 4 名の委嘱により、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条の規定による事務事業等の点検・評価の実施及び教育行政評価委員会設置要綱に基づく富良野市学校第三者評価を行いました。

事務事業等の点検・評価では、教育委員会から提出した資料（教育委員会の活動状況及び事務事業点検・評価 56 事業）について事務局より説明し、それに対する教育行政評価委員側からの質疑を交え意見交換を行いました。

学校第三者評価では、学校自己評価及び学校関係者評価の結果並びに学校第三者評価項目に対する学校自己評価結果について説明をするとともに、市立東小学校及び市立鳥沼小学校の学校訪問を行い、さらに校長会会長、副会長との意見交換を行いました。

1) 第 1 回会議 5 月 26 日（木）開催

- 教育委員会事務事業点検・評価シートの説明、質疑
- 教育委員会の活動状況の評価説明、質疑
- 学校関係者評価集約結果の説明、質疑
- 学校第三者評価個別評価シートの集計結果説明、質疑

2) 第 2 回会議 6 月 30 日（木）開催

- 学校訪問～市立東小学校、市立鳥沼小学校

3) 第 3 回会議 7 月 12 日（火）開催

- 学校訪問における感想、意見交換
- 校長会長、副会長との意見交換
- 事務事業点検評価項目の質疑に対する説明
- 広域連合教育委員会教育行政評価報告書について

4) 第 4 回会議 8 月 22 日（月）開催（文書協議）

- 学校第三者評価のまとめ及び報告書の最終確認について

2、教育行政評価委員会における意見

1) 教育委員会の活動状況について

教育をめぐる社会環境は大きく変貌しつつあり、それに伴う問題も複雑多岐にわたっています。教育委員が常に教育環境の状況把握に努めるために活発な議論をし、富良野市の教育の基本理念を確認し共有することが益々大切となっています。

平成27年4月から教育委員会制度の改革が行われ、地方教育行政における首長の責任がより明確となり、首長のもとで地方公共団体が一体となって教育施策を進める体制となりました。本市においても、首長が主宰者となり、富良野市総合教育会議を開催しています。

教育委員の視察研修を実施する場合は、テーマを絞って政策につながる内容で計画すべきとの意見が出されました。

2) 「教育委員会事務事業点検・評価」について

「第5次富良野市総合計画前期基本計画」並びに「平成27年度富良野市教育行政執行方針」、「平成27年度富良野市学校教育推進の重点」、「平成27年度富良野市社会教育推進計画」に基づいて平成27年度中に実施した主な事務事業56事業と教育委員会活動状況について事務局で整理し、第1回会議にて説明いたしました。各委員からの18項目に渡る質問・意見について担当課と意見交換をし、事業効果は毎年向上し期待どおりの効果が得られているとの意見が出されました。

3) 学校教育について

教育委員会に課せられた最大の職務は学校教育の充実にありますが、市内の小中学校では「富良野市第2次学校教育中期計画」に基づいて教育活動計画等を策定し、毎年 of 検証・評価を経ながら教育活動を改善しています。

また、長期休業日における学習サポート事業は全学校で実施し、児童生徒の学力向上に向けて教職員一丸となり取組んでおり、今後も学力向上に向けて、学力の基本となる「読み・書き・計算」をしっかりと身につけさせ、学習意欲を高めながら子どもの個性を生かす教育を充実するとともに、確かな学力・人間性豊かな教育を推進し、「生きる力」を育む教育課程の編成、実施、評価、改善のより一層の計画的な推進が必要であります。

さらに、各学校における危機管理意識及び情報の共有化を図るとともに、教員が管理職に相談できる体制づくりが大切であるとの意見が出されました。

市内小中学校の在り方についての地域との意見交換についても、進捗状況について質問が出されました。

4) 社会教育について

社会教育及びスポーツの振興は、個人の要求に応えることではなく、市民の必要課題に基づく学習内容に対応する企画立案や社会教育関係団体の育成等、生涯学習の観点に立った推進が大切です。

社会教育に関する各種事業は社会教育中期計画並びに単年度社会教育推進計画に基づき実施されており、その内容、効果度には高いものがあります。しかし、「青年塾」、「市民講座」、「ことぶき大学」などは、達成度・効果度とも評価開始以降B評価が続いているので、点検評価の課題解決に向けた取り組みが必要です。

演劇祭への出場校は、全ての学校が持ち回りで参加することにより、より芸術文化に親しめるという意見が出されました。

5) 学校第三者評価について

学校第三者評価は、単に学校の格付けや教諭を評価するためのものではなく、保護者や地域住民が学校と共に子どもたちを基本に考えることにより、より良い「開かれた学校」をめざすものであります。

学校第三者評価は、学校自己評価、学校関係者評価、学校第三者評価項目の自己評価、学校訪問、校長会会長・副会長との意見交換を基に、評価項目に対する各学校の取り組み状況に対し各委員の意見をまとめました。

今後も、評価項目のみならず学校運営全般に関し、自己評価、学校関係者評価、学校第三者評価の結果を、より良い「開かれた学校」のための貴重な資料として各学校において活用する必要があります。

6) 校長会会長・副会長との意見交換

富良野市第2次学校教育中期計画及び富良野市学校教育の重点方針における基本理念や重点方針を受け、各校では学校経営と学校教育において、その実現への方向性が示されていることは、大切なことであります。

また、学力と体力の向上、心の教育の充実に向けた取り組みが全校で推進され、学力向上やいじめ防止を含めた生徒指導の充実が図られています。

校長会として、本市の教育の充実・発展に向けてリーダーシップを発揮しており、特に、異校種間の連携として、富良野小学校、富良野西中学校、富良野緑峰高等学校が北海道教育委員会より「小中高一貫ふるさとキャリア教育」の指定校として指定を受けているので、今後、その成果を市内の小学校・中学校・高等学校で取り組む必要があります。



市立布部小中学校マスコットキャラ
「ぬのべ犬」

資料：1

富良野市教育行政評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条に基づき、富良野市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が実施する行政評価の透明性を確保するとともに、学校教育法（昭和22年法律第26号）第42条、第49条及び富良野市立学校管理規則（昭和56年教育委員会規則第2号）第6条の4の規定に基づき、富良野市立の小学校及び中学校の学校教育活動、学校運営の状況等の評価について、教育に関し学識を有する者の知見を活用するため、富良野市教育行政評価委員会（以下、「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) 教育委員会が実施した事務事業の点検及び評価について、教育委員会に意見を述べること。
- (2) 学校関係者評価について、教育委員会に意見を述べること。

(構成)

第3条 委員会は、教育に関し学識経験を有する者の中から、教育長が委嘱する4名をもって構成する。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱した日の属する年度末までとする。

(運営)

第5条 委員会には、委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により定める。
- 3 委員会は、必要に応じて委員長が招集する。
- 4 委員会は、審議のために必要があるときは、関係者の出席を求め、意見を聴取するほか、資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、事務事業評価に関する事務を所管する課が処理する。

附 則

- 1 この要綱は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 最初の委員会は、第5条第3項の規定にかかわらず、教育長が招集する。

附 則

- 1 この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この要綱は、公布の日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

資料：2

教育行政評価委員名簿

委員長	天 日 守	社会教育委員長
副委員長	加 藤 弘 明	学識経験者（元学校長）
委員	佐々木 賢 一	前ふらの体育協会専務理事
委員	山 本 英 恵	学校読み聞かせクラブ

資料：3

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

〔昭和 31 年 6 月 30 日法律第 162 号〕

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

資料：4

平成27年度 教育行政執行方針

平成27年第1回富良野市議会定例会の開会にあたり、教育行政に関する執行方針を申し上げ、市議会議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力を頂き、地域に根ざした実効性のある教育施策を進めてまいりたいと存じます。

今日、我が国は少子高齢社会の到来、人口減少、経済のグローバル化、エネルギー問題など、社会情勢の急激な変化に直面しております。こうした時代背景にあって、教育を取り巻く環境も大きく変化してきており、学ぶ意欲や規範意識の醸成、道徳心や体力・運動能力の向上など喫緊に対応することが重要であります。

さらに、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正に伴う教育委員会制度の改正が平成27年4月1日より施行となり、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築が求められております。

このため、本市においても法に基づき教育行政の責任の明確化とともに総合教育会議の設置、教育の振興に関する施策の大綱を制定するなど、教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ対応してまいります。

また、第5次富良野市総合計画を基本とし、教育の原点である知育・徳育・体育の調和のとれた児童生徒の着実な育成を基本に据え、「すべては子どもたちのために」を合言葉に、子どもたちの無限の可能性を伸ばす学校教育の充実に努めるとともに、市民一人ひとりが心身ともに健康で生きがいのある充実した人生を送ることができるように、生涯にわたってあらゆる機会や場所において学習することができ、その学んだ成果を適切に生かすことのできる環境づくりを推進してまいります。

学校教育について

学校教育につきましては、富良野市第2次学校教育中期計画に基づき、「自立と共生の未来を拓く 心豊かでたくましい人を育む」ことを基本理念に、子どもたちが変化の激しい時代をたくましく生き抜き、自らの未来や社会を拓く生きる力をオール富良野で育んでいくことを掲げた『富良野市ZERO運動』の推進により、各学校や教職員などが教育の原点を見つめ直し、主体性や向上性を基軸とした教育実践の輪を広げてまいります。

学力の向上につきましては、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、学習指導方法の工夫改善や学習環境づくりの推進を図り、行政・学校・家庭・地域社会の連携による確かな学力向上に努めてまいります。

また、体力の向上につきましては、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえ、学校における体育・健康に関する指導の改善及び家庭における規則正しい生活習慣の定着に努めるとともに、本年度、本市で開催されます第53回全国中学校スキー大会アルペン競技を支援してまいります。

幼児教育につきましては、幼稚園・保育所から小学校への円滑な就学支援のために、児童の心の問題や生活習慣などについて一貫した教育の実践に努めてまいります。

心の教育につきましては、学校教育アドバイザー及び子どもと親の相談員、スクールカウンセラーを引き続き配置し、心の問題をケアできる体制づくりを図り、きめ細やかな対応に努めてまいります。

また、富良野市いじめZERO（ゼロ）推進条例に基づき、「いじめをしない させない ゆるさない」ために、いじめの未然防止と早期発見・迅速な対応に努め、その根絶に向けて行政・学校・家庭・地域社会が連携し取り組んでまいります。

危機管理につきましては、学校内外での安全な生活環境づくりに努めるとともに、学校における危機管理マニュアルに基づき、防犯訓練及び災害発生時の実技訓練を実施してまいります。

特別支援教育につきましては、幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校間の円滑な引き継ぎに向けて保健・医療・福祉との連携を図るとともに、特別支援教育アドバイザーを配置し、学校や保護者に対する相談、支援体制の充実・強化に努めてまいります。

道徳教育につきましては、富良野にゆかりのある講師陣による心に響く道徳教育を引き続き推進するとともに、豊かな情操や生命倫理、規範意識の醸成に努めてまいります。

環境教育につきましては、本市の自然環境や太陽光発電及び小水力発電、リサイクル施設などを活用し、学校や地域の特色を生かした教育の充実に努めてまいります。

キャリア教育につきましては、望ましい職業観や勤労観を身に付け、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する力を身に付けることができるよう、各学校における年間計画、指導体制などの充実に図るとともに学校と受入事業所などとの連携を推進してまいります。

食育につきましては、『子どもたちのための食育ガイドライン』に基づき、子どもの発達段階に応じた食育を栄養教諭と養護教諭が連携を図りながら実践するとともに、学校、家庭、地域社会と連携した「早寝・早起き・朝ごはん・みんなそろって晩ごはん」運動を引き続き展開してまいります。

情報教育につきましては、インターネット被害から子どもたちを守り、安全・安心にインターネットなどを利用するための情報モラル教育を、関係機関と連携しながら実施するとともに、タブレット端末や電子黒板などを活用した学習方法の工夫、充実に努めてまいります。

国際理解教育につきましては、外国語指導助手4名を小中学校に引き続き派遣し英語力の向上に努めるとともに、英語が話せるふらのっ子をめざした外国語活動の充実に図ってまいります。

学校図書につきましては、学習に必要な図書を計画的に整備するとともに、市立図書館との連携や学校支援ボランティアの協力による読み聞かせ会の実施など、児童生徒の読書活動を地域ぐるみで推進してまいります。

健康教育につきましては、関係機関と連携し計画的な性教育、薬物乱用防止教育を推進するとともに、校内における健康相談体制の充実に図ってまいります。

また、児童生徒の歯の健康づくりに向けて、全小中学校においてフッ化物洗口に取り組んでまいります。

高等学校教育につきましては、中学校と高等学校の相互連携により授業参観交流と授業の指導工夫改善を図り、中高学力向上プロジェクトの設置による学力の向上に努めてまいります。

学校教育施設の整備につきましては、市立東小学校屋外環境整備、麓郷小中学校通路舗装工事、麓郷小中学校スクールゾーン表示を実施し、児童生徒の教育環境の向上に配慮した安全・安心な学校施設の整備を進めてまいります。

社会教育について

社会教育につきましては、市民の多様化、高度化する学習ニーズに対応し、豊かな心身を育み充実した生きがいのある人生を送るために、第6次社会教育中期計画に基づき、自主的な学習活動に取り組むことができ、その成果を適切に生かすことのできる生涯学習社会をめざすとともに、平成28年度からの次期社会教育中期計画の策定に取り組んでまいります。

家庭教育につきましては、すべての教育の出発点であります家庭の教育力を高めるために、家庭教育講演会などの開催や子どもの発達段階に合わせた家庭教育ハンドブックを引き続き作成、活用してまいります。

また、インターネットなどによる被害から子どもたちを守るため、トラブル防止に関する情報提供を行うとともに、家庭でのルールづくりや危機管理の徹底などの啓発活動を継続してまいります。

少年教育につきましては、放課後子ども教室と学童保育センターの連携を図り、より充実した放課後対策事業を推進するとともに、少年団体の活動支援に努めてまいります。

また、学校支援ボランティアや地域の教育力を活用した学社融合推進事業、ふらの演劇祭などを開催し、子どもたちの豊かな感性や表現力を育む環境をつくり、生きる力や豊かな人間性を育成してまいります。

さらに、日常生活の中で体験し考えたことや特色ある学習活動などを発表する少年の主張大会や子ども未来づくりフォーラムを引き続き開催するとともに、青少年健全育成の推進に向けて関係機関と連携しながら、少年非行などの未然防止に取り組んでまいります。

青年教育につきましては、青年同士の出会いと交流の場としての青年塾を引き続き開設し、学習機会の提供、社会参加や地域活動への参画を通じた自主的な実践活動を支援してまいります。

成人・高齢者教育につきましては、市民のニーズに即した学習機会の充実をはじめ、市民の学習活動に対する支援やことぶき大学の開設により、知識・経験を生かした地域活動やボランティア活動などの社会参加活動を推進してまいります。

芸術文化の振興につきましては、鑑賞機会の充実や情報提供、市民総合文化祭などを通じた自主的な芸術文化活動を支援するとともに、富良野演劇工場を核とした演劇文化の育成と情報発信に努めてまいります。

スポーツの推進につきましては、自然や地域の特性を生かした生涯スポーツの推進を図り、身近にスポーツに親しむことができる環境づくりに努めてまいります。

また、競技スポーツと人材育成につきましては、NPO法人ふらの体育協会を中心として各種スポーツの競技力の向上をめざし、指導者養成やアスリートの育成・派遣・強化に努めてまいります。

文化財の保護につきましては、市民共有の財産として保護するとともに、歴史的に価値のある建造物の見学会及び講演会を実施し、郷土の歴史、文化などについての理解を深め、郷土愛を育ててまいります。

また、市指定文化財の富良野獅子舞をはじめ山部獅子舞、富良野弥栄太鼓などの郷土芸能の育成、支援に努めてまいります。

読書活動の推進につきましては、市民参加による親しまれる図書館づくりをめざして、利用者の多様なニーズに適応した図書館資料の充実を図るなど、市民に役立つ幅広い情報収集・提供に努めるとともに、図書館利用サークルやボランティアなどと連携した企画展・作品展・講演会など多彩な事業の実施による交流の場の創出を図ってまいります。

また、子どもの読書推進につきましては、子どもの読書推進プラン第2次計画に基づき、すべての子どもたちがいつでも読書活動ができるよう乳幼児期からの読書活動の動機づけに効果があるブックスタートを継続実施するとともに、学校における読書活動の支援や子どもの読書推進ボランティアの協力と連携による読書環境の一層の向上を図ってまいります。

以上、平成27年度の教育行政執行方針について申し上げましたが、執行にあたりましては、より一層開かれた教育行政をめざして、事務の管理及び執行状況の点検・評価に基づき、効果的に推進してまいりますので、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

資料：5

平成 27 年度 学校教育重点事項 ～すべては子どもたちのために～

＜基本理念＞

「自立と共生の未来を拓く 心豊かでたくましい人を育む」

（富良野市第2次学校教育中期計画）

＜重点方針＞

教育の原点である知育・徳育・体育の調和のとれた子ども達の着実な育成を基本に据え、「すべては子どもたちのために」を合言葉に、子ども達の無限の可能性を伸ばす教育の充実に努める。

また、子どもたちが変化の激しい時代をたくましく生き抜き、自らの未来や社会を拓く生きる力をオール富良野で育んでいくことを掲げた『富良野市Z E R O運動』を推進し、各学校や教職員等が教育の原点を見つめ直し、主体性や向上性を基軸とした教育実践の輪を広げる。

＜重点課題＞

- 1 「富良野市いじめZ E R O推進条例」に基づくいじめの未然防止と早期発見・迅速な対応を図る。
- 2 確かな学力・体力向上をめざし、授業改善及び授業公開と家庭学習を含めた望ましい生活習慣の定着を図る。
- 3 教育行政評価委員会（事務事業点検・評価、学校第三者評価）による教育行政及び学校教育の現状と課題の検証・評価・改善を図る。
- 4 土曜日の教育活動推進及びコミュニティスクール（学校運営協議会制度）導入に向けて検討する。
- 5 小規模校の教育環境改善と充実に図るため「小中学校の適正配置に関する指針」の改訂に向けて検討する。
- 6 「子どもたちのための食育ガイドライン」の見直しを行い、食育を推進する。

＜重点項目＞

1 いじめZERO（ゼロ）に向けた取り組み＜情意＞

- ・「富良野市いじめZERO（ゼロ）推進条例」に基づくいじめの未然防止、早期発見、迅速な対応を図る。
- ・いじめZERO（ゼロ）に向けて、児童生徒から標語の募集を行うとともに、いじめ防止に向けた研修会を開催する。

2 心の教育＜情意＞

- ・学校教育アドバイザー、適応指導教室指導員（社会福祉士有資格者）及び子どもと親の相談員（臨床心理士有資格者）、スクールカウンセラー（臨床心理士有資格者）を引き続き配置し、子どもたちの心の問題をケアできる体制づくりを図る。

※子どもと親の相談員、スクールカウンセラーの配置について

- 1）富良野西中学校、扇山小学校 …… 松田 剛先生を配置
- 2）樹海中学校 …… 松田 剛先生、石黒三知子先生を配置
- 3）富良野東中学校、富良野小学校、東小学校
…… 石黒三知子先生を配置
- 4）必要に応じて市内他校にても対応可能

3 特別支援教育について＜知育＞

- ・幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校等への引き継ぎや相談体制の充実及び保健医療福祉との連携、コーディネートを図るべく、特別支援教育アドバイザーを引き続き配置し支援体制の充実を図る。
- ・一人ひとりのニーズに応じた教育を推進するために、特別支援教育支援員19名を配置し、校内における支援の充実を図る。

配置校

富良野小学校、扇山小学校、東小学校 各5名

山部小学校、鳥沼小学校、富良野東中学校、富良野西中学校 各1名

- ・支援の必要な児童生徒のために、社会福祉法人北海道社会事業協会富良野病院との連携による療育支援事業を継続実施する。
- ・就学前児童への子どもの成長記録ファイル「すくらむ ふらの」を活用し、学校間の引き継ぎ等における活用を推進する。

4 外国語活動について＜知育＞

- ・外国語指導助手（ＡＬＴ）を小中学校へ派遣するとともに、外国語活動推進委員会において、推進体制や指導形態の工夫改善に向けて小中連携による外国語活動を推進する。
- ・外国語活動を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や能力の育成に向け、「英語が話せるふらのっ子」をめざした取り組みを推進する。

取組例：「放課後英語ランド」、「朝の英語活動」、「イングリッシュキャンプ」、「スクールバス乗車時を活用した英語活動」等

5 学力向上について＜知育＞

- ・全国学力学習状況調査において全国平均正答率以上を目標に掲げ、調査結果を詳細に把握・分析し、具体的な学習改善プランに基づき児童生徒の学力向上に取り組む。
- ・地域の方々や学校内外の教職員に対する「授業公開」「研究授業」を積極的に進め、「地域に開かれた学校づくり」、「教員の授業研究、授業改善」に向け取り組む。（年２回程度の地域授業公開の実施）

6 体力向上について＜健康＞

- ・全国体力運動能力、運動習慣等の結果を踏まえ、体育・健康に関する指導の改善及び家庭における正しい生活習慣の定着に努める。
- ・富良野市で実施する第５３回全国中学校スキーアルペン競技の支援に取り組む。

7 防災教育・危機管理について＜健康＞

- ・自然災害、事故、事件等に対する危機管理体制の徹底を図るとともに、富良野警察署や富良野消防署等との連携による防犯訓練及び災害発生時の実技訓練を実施し、児童生徒の安全対策の充実を図る。
- ・児童虐待問題は、こども未来課や警察署等関係機関との連携強化を図り対応する。

8 道徳教育について＜情意＞

- ・児童生徒や学校、地域の実態を踏まえた「富良野市ＺＥＲＯ運動」を中核に捉え、道徳教育の推進と豊かな情操や生命倫理、規範意識の醸成を図る。
- ・富良野にゆかりのある講師陣による「心に響く道徳教育」を推進する。

9 演劇から学ぶ心の教育について＜情意＞

- ・演劇は人間性を高め自己表現の場として「話す力・聞く力・伝える力」が育成され、心の教育にも結びつくため、引き続き「文化芸術による子どもの育成事業」（文化庁事業）の活用により、演劇活動や演劇鑑賞を通して、児童生徒の自主性やコミュニケーション能力の向上と個性の創出などを図る。

10 環境教育について＜知育＞

- ・「富良野自然塾」などの活用により、本市における自然環境を生かし、様々な体験活動を通して、自然に対する豊かな感受性や生命を尊重する精神、環境に対する関心などを培う教育の充実を図る。

11 食育について＜健康＞

- ・「子どもたちのための食育ガイドライン」の見直しを行い、子どもの発達段階に応じた食育を栄養教諭と養護教諭の連携によりながら実践する。
- ・学校給食の「食べ残しゼロ」運動を推進するとともに、基本的生活習慣である「早寝・早起き・朝ごはん、みんなそろって晩ごはん」運動をPTAと連携し推進する。

12 キャリア教育について＜情意＞

- ・富良野市キャリア教育推進会議が中心となり、学校と家庭・地域・事業所との連携を構築し、キャリア教育の推進と充実を図る。
- ・各学校が、各教科及び各種事業をキャリア教育の視点でも捉え、有効活用を図る。

13 市中高学校経営連絡協議会について＜知育＞

- ・進路指導と生徒指導を中心に進めている市中高学校経営連絡協議会において引き続き学力向上に向けたプロジェクトを推進し、魅力ある学校づくり等を目指す。
- ・市内中学校と高等学校との相互の授業参観交流による授業改善と中高の連携強化を図る。

14 情報教育について＜情意＞

- ・各学校のパソコン、タブレット端末、テレビ、電子黒板などを活用した学習方法の工夫、充実に努める。
- ・学校、家庭、PTA、関係機関団体との連携を強化しながら、情報モラル教

育を推進する。

- ・保護者へのアプローチ（参観日、出前講座、セミナー等）により、家庭でのルールづくりや危機管理の徹底を図るとともに、家族の約束7か条の推進とネット被害から子どもたちを守る取り組みを進める。

15 子ども未来づくりフォーラムについて＜知育＞

- ・日常生活の中で体験したことや特色ある学習活動等の発表を通じ、子どもたちの表現力、思考力、コミュニケーション能力を高める場として開催する。

16 放課後子ども教室の開設について＜情意＞

- ・放課後における子どもたちの安全・安心な居場所を提供する「放課後子ども教室」を27年度も継続して山部小学校、樹海小学校、布礼別小学校、布部小学校で開設する。
- ・放課後子ども教室と学童保育センターの連携を図り、充実した放課後対策事業を推進する。

17 学社融合推進事業（学校支援地域本部事業）について

＜知育・情意・健康＞

- ・心豊かで健やかに育む環境づくりに地域の教育力を活かすとともに、地域全体で学校教育を支援する学社融合推進事業（学校支援地域本部事業）の推進を図る。
- ・学校支援ボランティアの活用による学校支援活動を推進する。

18 学校における読書の推進について＜知育＞

- ・市立図書館、各学校、読書推進ボランティア等と連携した取り組みを推進する。
- ・ブックトラック事業、ブックフェスティバル事業の推進

19 コミュニケーション教育推進事業について＜情意＞

- ・コミュニケーション能力向上における学習機会の提供を行い、「他者理解」「話す・聞くの基本」「信頼関係の構築」など、コミュニケーション能力の基礎を学ぶ機会とする。
- ・コミュニケーション能力の育成に向けた教育を推進するため、演劇的手法を活用した教職員研修の継続実施と充実を図る。

20 土曜日の教育活動推進事業及びコミュニティスクール導入について ＜知育＞

- ・土曜授業及び土曜日の教育活動の取組み並びにコミュニティスクール（学校運営協議会制度）導入に向けて、学校、市 PTA 連合会、関係団体と協議を進め、富良野らしい取組みを検討していく。

以上、平成27年度の基本理念、重点方針、重点課題、重点項目を示しましたが、組織（市教委、学校）が一枚岩となり、保護者への情報発信、説明責任などを行いながら、子どもたちの未来を力強く切り拓くための実践教育活動の推進に向け取り組んでいきます。

「教育は未来への遺産づくり」

平成 27 年度
富良野市教育行政評価報告書
教育委員会事務事業点検・評価
学校第三者評価

発行：平成 28 年 8 月

富良野市教育委員会